

# Panasonic<sup>®</sup>

## 取扱説明書 応用操作編

オーディオミキサー

品番： WR-DX350

# RAMSA



# はじめに

## 取扱説明書について

取扱説明書は、基本操作編と本書（応用操作編）、リモートコントロールソフト（PCソフト用/iPad用）用取扱説明書（PDFファイル）の4部構成になっています。

WR-DX350（以下本機）の基本操作方法については基本操作編をお読みください。リモートコントロールソフト（PCソフト用/iPad用）用取扱説明書（PDFファイル）は製品HPよりダウンロードができます。

URL : <https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/ramsa-mixer-signalprocessor/lineup/wr-dx350>

本書では、詳細な機能の設定方法や設定内容の保存方法などデジタルミキサー特有の機能について説明しています。

※ PDFファイルをお読みになるには、アドビシステムズ社のAdobe® Reader®が必要です。

## 商標および登録商標について

- Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、PostScriptおよびPostScriptロゴはAdobeの商標です。
- Audinate®、Audinateのロゴ及びDante®は、Audinate Pty Ltdの登録商標です。
- iPad®は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- その他、この説明書に記載されている会社名・商品名は、各会社の商標または登録商標です。

## 略称について

このドキュメントでは、以下の略称を使用しています。

- オーディオインターフェースユニット（WR-SB350：別売品）をWR-SB350と表記しています。
- パーソナルコンピュータをPCと表記しています。
- リモートコントロールソフトをリモートソフトと表記しています。
- 本機タッチパネルディスプレイに表示される映像を画面と表記しています。
- Dante®をDanteと表記しています。

## 記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



**重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

# もくじ

はじめに	2	仕様	78
取扱説明書について	2	設定一覧	78
商標および登録商標について	2	付録1 (SYSTEM)	87
略称について	2	付録2 (PANEL)	88
記号について	2	付録3 (USER)	90
画面説明	4	付録4 (NETWORK)	92
共通画面	4	付録5 (AUDIO)	93
共通表示	7	付録6 (ASSIGNABLE KEY)	94
シングルチャンネル画面	8		
マルチチャンネル画面	19		
操作対象チャンネルの選択	21		
メーター画面	23		
モニター画面	24		
ユーティリティ画面	27		
オートミックス画面	35		
パッチ画面	36		
カスタムレイヤー画面	38		
USBレコード画面	39		
音を加工する	43		
イコライザーの設定	43		
ダイナミクス設定	45		
ダイナミックノッチの設定	46		
リバーブの設定	47		
インプットディレイの設定	48		
アウトプットディレイ/ゲインの設定	48		
その他の機能	49		
PAN/BALの設定	49		
オートミックスの活用	50		
リアルタイムアナライザーの活用	50		
カスタムレイヤーの活用	51		
センス&マスターの活用	53		
アサインブルキーの活用	55		
チャンネル名称/カラーを設定する	56		
チャンネルコピーの活用	57		
ライブラリーの活用	59		
パターンメモリーの活用	60		
ミュートグループの活用	61		
フェーダーグループの活用	62		
データの初期化 (データクリア)	63		
ユーザーレベルの設定	64		
モノラルとステレオの切替設定	65		
モノラルとフェーダーリンク切替設定	66		
USBフラッシュメモリーの活用	67		
入出力パッチの設定	70		
Danteパッチの設定	73		
Dante機器の設定	75		

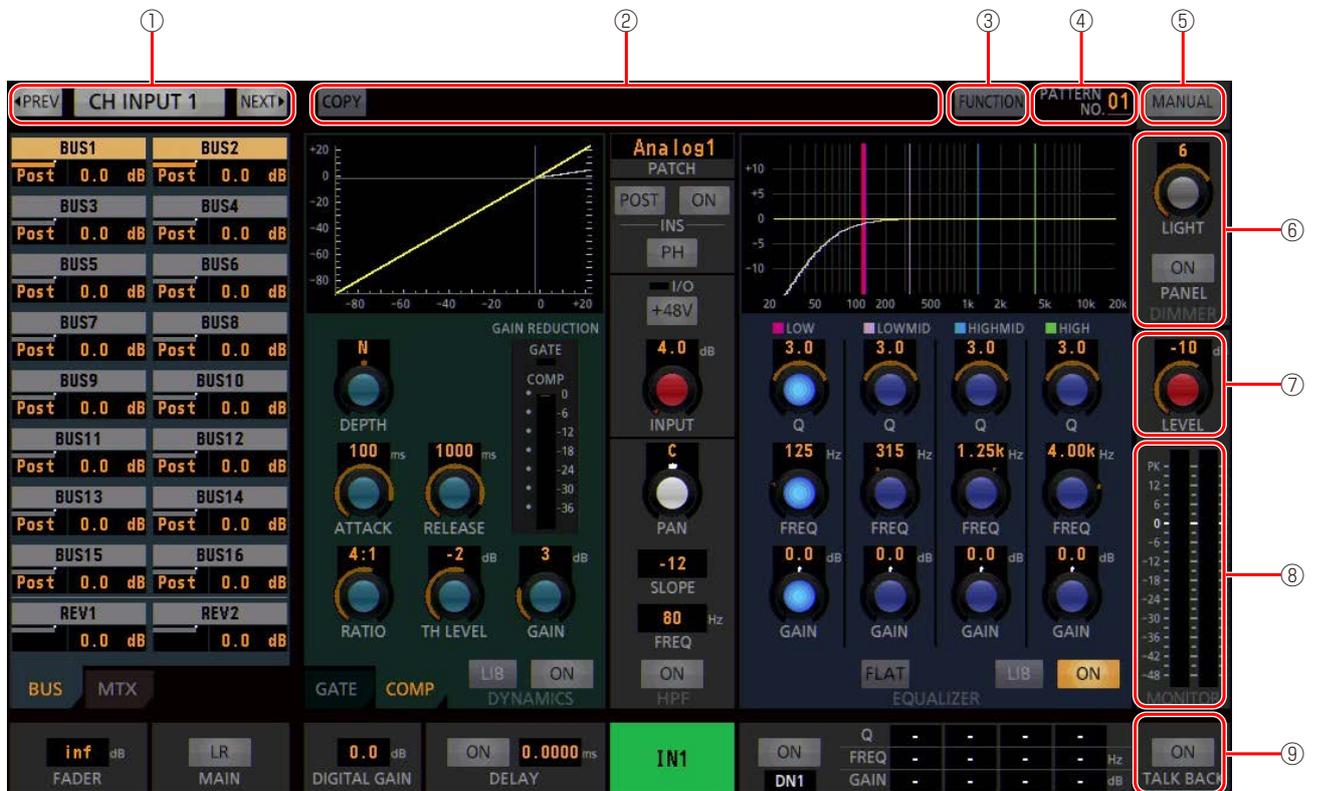
# 画面説明

本機画面では、本体卓面で表示できない詳細情報の表示や、本体の操作部と連動した操作/設定などが行えます。画面は以下の9つがあり、本体ディスプレイコントロール部にある各種画面アクセススイッチ、または画面右上の [FUNCTION] スイッチを押すことで表示される「ファンクション」タブの各種スイッチで切り替えることができます。

- シングルチャンネル画面 : 1チャンネル分のチャンネルデータ表示や設定ができます。
- マルチチャンネル画面 : 8チャンネル分のチャンネルデータ一覧表示や設定ができます。
- メーター画面 : レベルメーターの一括表示ができます。
- モニター画面 : モニターのデータ表示や設定ができます。
- ユーティリティ画面 : メモリーリード/ライト、ライブラリー管理、システム設定やオプション設定ができます。
- オートミックス画面 : オートミックスの設定ができます。
- パッチ画面 : 各インプットとアウトプットのパッチ管理、設定ができます。
- カスタムレイヤー画面 : カスタムレイヤーの設定ができます。
- USBレコード画面 : USBフラッシュメモリーを用いた録音/再生、設定データの保存/読み込みができます。

ここでは、各画面の機能と各画面共通の機能について説明します。

## 共通画面

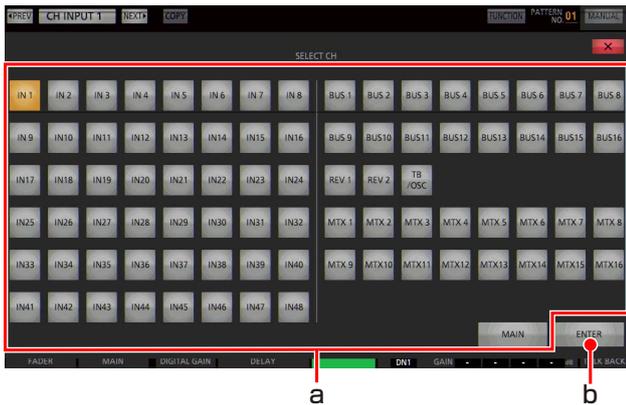


# 画面説明

## ① チャンネル番号/画面名称表示

「シングルチャンネル」画面、「マルチチャンネル」画面で表示しているチャンネル種別とチャンネル番号を表示します。また、「メーター」画面、「モニター」画面、「ユーティリティ」画面、「パッチ」画面では画面名称を表示します。

「シングルチャンネル」画面、「マルチチャンネル」画面で表示される [PREV]、[NEXT] スイッチをタッチすることで、現在表示されている前後のチャンネルを画面に表示することができます。また、中央のチャンネル種別/チャンネル番号表示部をタッチすることで以下の「セレクトチャンネル」画面を表示します。



### a. チャンネル選択スイッチ [IN1] ~ [IN48] [BUS1] ~ [BUS16] [TB/OSC] [REV1] [REV2] [MTX1] ~ [MTX16] [MAIN]

画面に表示するチャンネルをタッチして選択します。選択中のスイッチは橙点灯します。各スイッチは択一選択です。

### b. エンタースイッチ [Enter]

チャンネル選択スイッチのいずれかが選択された状態でタッチすると、そのチャンネルを画面に表示します。



- [MAIN] スイッチを選択した状態で [[Enter] スイッチをタッチすると、MAIN LまたはMAIN Rチャンネルを画面に表示します。
- 画面およびチャンネル種別により、下表のように表示されます。

画面	チャンネル種別	表示内容	チャンネル番号
シングルチャンネル	INPUT	CH INPUT [Ch番号]	1~48
	BUS	BUS [Ch番号]	1~16
	REVERB	REV [Ch番号]	1、2
	TALKBACK/OSC	TB/OSC	—
	MATRIX	MATRIX [Ch番号]	1~16
	MAIN	MAIN LまたはMAIN R	L、R
マルチチャンネル	INPUT (チャンネル種別の列) : REVERB (表示内容の行) : REV (チャンネル番号の行) : 1、2	CH INPUT [Ch範囲]	1~8、9~16、17~24、 25~32、33~40、 41~48
	BUS	BUS [Ch範囲]	1~8、9~16
	MATRIX	MATRIX [Ch範囲]	1~8、9~16
メーター		METER	
モニター		MONITOR	
ユーティリティ		UTILITY	
パッチ	Analog	PATCH	
	Digital	DANTE PATCH	
USBレコード		USB RECORD	
オートミックス		AUTOMIX	
カスタムレイヤー		CUSTOM LAYER	

## ② チャンネルコピー操作部/メッセージ表示部

チャンネルコピー操作部により、HPF/EQ/DYN/バスセンド/マトリクスセンド（ミキシング）の設定値のコピーペーストが可能です。操作手順などの詳細は「チャンネルコピーの活用」（57ページ）をお読みください。本機がクロック設定変更中などで処理中であることや管理者以外のユーザー権限で動いていることをメッセージで表示します。メッセージ一覧は取扱説明書 基本操作編をお読みください。

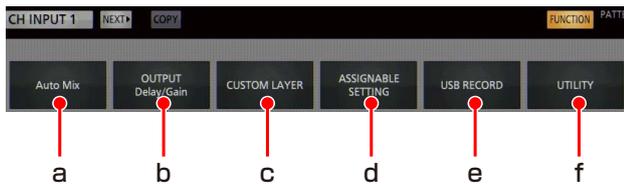
メッセージがある場合、PLEASE WAIT/ALARM/OPERATOR (ENGINEER) のメッセージを表示します。



- PLEASE WAITが表示されている際は、以下の操作は行わないでください。
  - ・ 電源OFF
  - ・ USBフラッシュメモリの抜き差し
  - ・ Dante Controllerからの操作
  - ・ 本体コントロールパネル上のスイッチ、フェーダー、ノブ、ディスプレイの操作

## ③ ファンクションスイッチ [FUNCTION]

[FUNCTION] スイッチをタッチすることで以下の「ファンクション」タブを表示します。



- オートミックススイッチ [Auto Mix]**  
タッチすると「オートミックス」画面を表示します。詳しくは「オートミックスの活用」（50ページ）をお読みください。
- アウトプットディレイ/ゲインスイッチ [OUTPUT Delay/Gain]**  
タッチすると「アウトプットディレイ/ゲイン」画面を表示します。詳しくは「アウトプットディレイ/ゲインの設定」（48ページ）をお読みください。
- カスタムレイヤースイッチ [CUSTOM LAYER]**  
タッチすると「カスタムレイヤー」画面を表示します。詳しくは「カスタムレイヤーの活用」（51ページ）をお読みください。
- アサインブルセッティングスイッチ [ASSIGNABLE SETTING]**  
タッチすると [ASSIGNABLE SETTING] タブが選択された状態の「ユーティリティ」画面を表示します。詳しくは「アサインブルキーの活用」（55ページ）をお読みください。
- USBレコードスイッチ [USB RECORD]**  
タッチすると「USBレコード」画面を表示します。詳しくは「USBフラッシュメモリの活用」（67ページ）をお読みください。
- ユーティリティスイッチ [UTILITY]**  
タッチすると「ユーティリティ」画面を表示します。

## ④ パターン番号表示部 [PATTERN NO.]

[PATTERN NO.] には、パターンメモリの番号を表示します。最後にリード/ライトされたパターン番号が表示されます。

パターンメモリの番号表示エリアをタッチすると「ユーティリティ」画面を表示します。詳しくは「パターンメモリの活用」（60ページ）をお読みください。

## ⑤ マニュアルスイッチ [MANUAL]

[MANUAL] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、該当チャンネルをパターンメモリーリード、ミュートグループ（INPUTのみ）、フェーダーグループ（INPUTのみ）の制御から外すことができます。もう一度タッチするとOFFになります。

## ⑥ デイマー設定部 [DIMMER]

本体の外付けミキサーランプ、本体卓面のLEDや画面の輝度の設定を行います。

[LIGHT] ノブをタッチして、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、外付けランプの輝度を調整します。調整値は [LIGHT] ノブ上部に表示されます。



- テキストボックス（設定値）
- [LIGHT] ノブ
- [ON] スイッチ

PANEL [ON] スイッチで、外付けランプの輝度、本体のLED輝度、画面の輝度を切り替えることができます。輝度の設定は「ユーティリティ」画面で設定することができます。（89ページ）

## ⑦ モニターレベルノブ [LEVEL]

モニターレベルノブ [LEVEL] をタッチして、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、モニターの出カレベルを調整します。本体モニターセクションのモニターレベルノブを用いて同様の操作が行えます。

## ⑧ モニターレベルメーター [MONITOR]

モニターの音声信号レベルを表示します。

- 緑色 : -56 dBu以上~+4 dBu未満
- 橙色 : +4 dBu以上~+21 dBu未満
- 赤色 : +21 dBu以上~+24 dBu

[0] 表示は、定格レベル（+4 dBu）に相当します。

## ⑨ トークバックスイッチ [TALK BACK]

トークバックのON/OFFを設定します。TALK BACKの [ON] スイッチをON（点灯）にすると、トークバックがONになります。また、それと連動してモニターのTalk Back Dimmer機能が有効になります。Talk Back Dimmerについての詳細は26ページをお読みください。



- トークバックスイッチはオシレーター出力状態ではONにできません。

# 画面説明

## 共通表示

### ■ スイッチ

画面上のスイッチは以下を表します。

橙色 ON : ON (点灯)  
灰色 ON : OFF

### ■ テキストボックス

テキスト表示部は、タッチして選択し、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、設定値を調整します。



### ■ ノブ

画面上のノブは以下を表します。

名称	非選択時	選択時	備考
DYNAMICS	緑色 	緑色 発光色 	
EQUALIZER	青色 	青色 発光色 	本体のEQバンド選択スイッチで押されているEQバンドノブはすべて青色発光色
INPUT	赤色 	赤色 発光色 	
PAN/BAL	白色 	白色 発光色 	
LIGHT	灰色 	橙色 	

画面上のノブは、タッチして選択し、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、設定値を調整します。ノブを回したときの調整量は橙色、起点は赤色、中心は白色で表示されます。

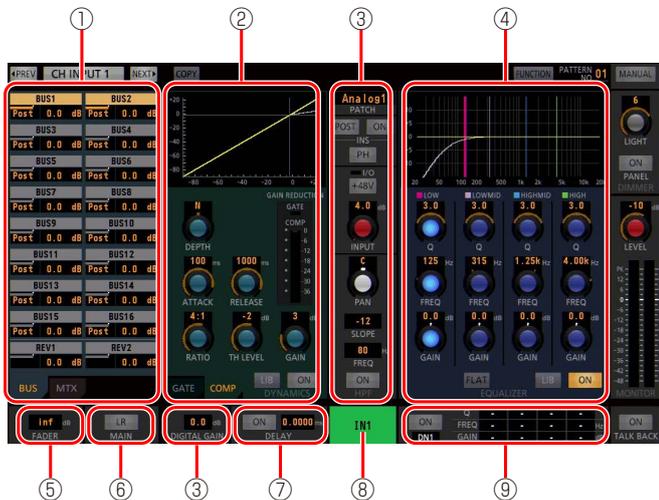


# 画面説明

## シングルチャンネル画面

シングルチャンネル画面は表示するチャンネル種別により表示が異なります。

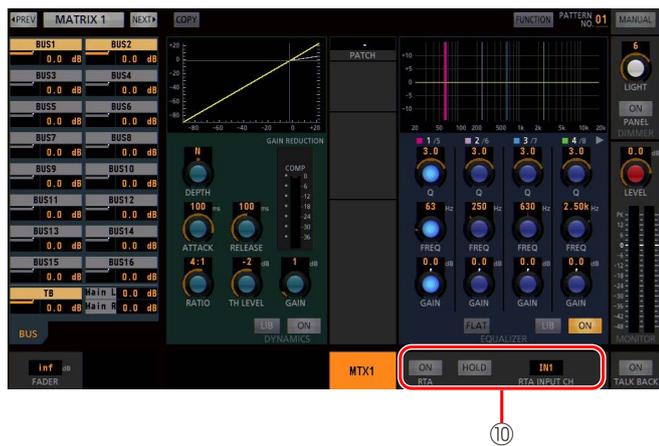
「INPUT」 選択時



「BUS」 選択時



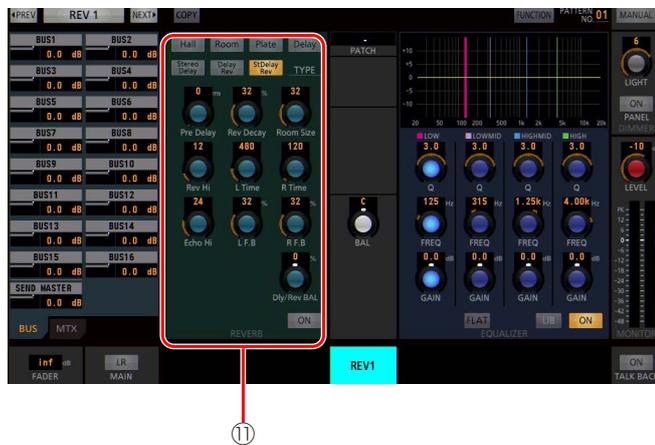
「MATRIX」 選択時



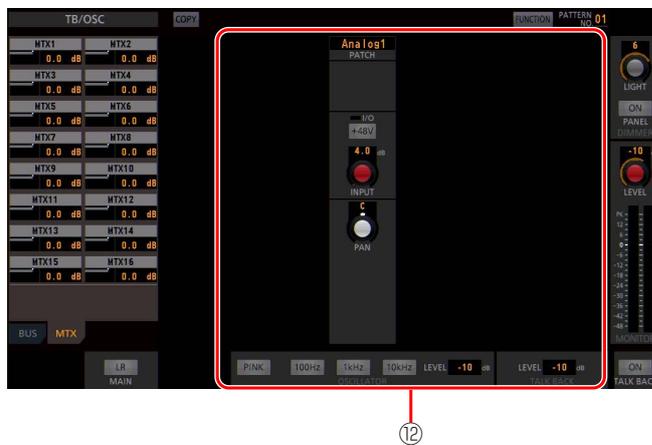
「MAIN」 選択時



「REVERB」 選択時



「TALKBACK/OSC」 選択時



## ① バスセンド/マトリクスセンド/マトリクスミキシング部

チャンネル種別が「INPUT」、「REVERB」、「TALKBACK/OSC」の場合では入力チャンネルからバス、マトリクスへのアサイン状態を表示します。

[BUS] タブ、または [MTX] タブをタッチすることで、アサイン状態の表示をバス/マトリクスセンドに切り替えることができます。

チャンネル種別が「BUS」、「MAIN」の場合ではマトリクスへのアサイン状態を表示します。

チャンネル種別が「MATRIX」の場合ではマトリクスミキシングの設定状況を表示します。

表示個所をタッチすると「バスセンド」画面/「マトリクスセンド」画面/「マトリクスミキシング」画面を表示します。(10ページ)

## ② ダイナミクス設定部

ダイナミクスの設定を行います。(45ページ)

## ③ 入力パラメーター設定部

入力チャンネル ([INPUT1~48]、[TALKBACK MIC]) の入力パラメーターなどの設定を行います。

## ④ イコライザー設定部

イコライザーの設定を行います。(43ページ)

## ⑤ フェーダーレベル表示 [FADER] [dB]

表示チャンネルのフェーダー位置と対応したフェーダーレベルを表示します。

レベルを変更する場合は、フェーダー表示エリアをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、レベルを調整します。

フェーダー操作でも同様の調整をすることができます。

## ⑥ メインLRスイッチ [MAIN] [LR]

チャンネル種別が「INPUT」、「BUS」、「REVERB」、「TALKBACK/OSC」の場合に表示されます。

タッチするとON (点灯) になり、メインLRへのアサインが有効になります。もう一度タッチするとOFF (消灯) になります。

## ⑦ ディレイ設定部

ディレイの設定を行います。(48ページ)

## ⑧ チャンネル名称表示ラベル

チャンネル種別が「INPUT」、「BUS」、「REVERB」、「MAIN」、「MATRIX」の場合に、チャンネルの名称の表示をします。タッチすることで、「チャンネルネームセッティング」画面を表示します。詳しくは「チャンネル名称/カラーを設定する」(56ページ)をお読みください。

## ⑨ ダイナミックノッチ設定部

入力チャンネル [INPUT1~48] のダイナミックノッチの設定を行います。(46ページ)

## ⑩ リアルタイムアナライザ設定部

RTA (リアルタイムアナライザ) の設定を行います。(50ページ)

## ⑪ リバース設定部

リバースの設定を行います。(17ページ)

## ⑫ トークバック/オシレーター設定部

トークバック/オシレーターの設定を行います。(18ページ)

# 画面説明

## ■ バスセンド部

バスセンド部は、「シングルチャンネル」画面で入力チャンネル(インプット、リバーブ、トークバック/オシレーターチャンネル)を選択時に、バスセンド部/マトリクスセンド(ミキシング)部の下部にある[BUS]タブをタッチすることで表示されます。

バスセンドスイッチ



BUSタブ

### バスセンドスイッチ [BUS1] ~ [BUS16] [REV1] [REV2]

バスへの送り状態(ON/OFF、PRE/POST、センドレベル)を表示します。送りが有効なバスチャンネルは橙色に点灯します。バスセンドスイッチをタッチすると、以下の「バスセンド」画面を表示します。



#### a. ONスイッチ [ON]

タッチすると該当チャンネルへのセンドを有効にすることができます。ON(有効)のとき、点灯します。

#### b. センドレベルノブ [SEND LEVEL] [dB]

センドレベルを表示します。レベルを変更する場合は、[SEND LEVEL]ノブをタッチして選択し、本体の[TOUCH/PARAMETER]ノブを回して、レベルを調整します。

### c. プリフェーダースイッチ [PRE] (インプットチャンネルのみ)

タッチすると、BUS1~16への出力位置をプリフェーダー/ポストフェーダーに切り替えることができます。スイッチが点灯のとき、プリフェーダーになります。また、スイッチが消灯のとき、ポストフェーダーになります。



- 任意のバスセンドスイッチをタッチすると、タッチされたチャンネルに対応するセンドレベルノブが選択された状態の「バスセンド」画面を表示します。
- リバーブチャンネル選択時のみ表示される[SND MASTER]とはリバーブへのセンド全体のレベルを意味します。



- [REV1]、[REV2]への出力位置、および[PRE]スイッチ表示のされないチャンネルはポストフェーダー固定です。
- バスをステレオ設定にした際は、該当のバスの表示が以下のように切り替わります。チャンネルをステレオ設定する方法については65ページをお読みください。

### バスセンド部



### 「バスセンド」画面



# 画面説明

## ■ マトリクスセンド部

マトリクスセンド部は、「シングルチャンネル」画面でバスチャンネル/メインL・Rを選択しているとき、または入力チャンネル（インプット、リバーブ、トークバック/オシレーターチャンネル）を選択時に [MTX] タブをタッチすることで表示します。

マトリクスセンドスイッチ

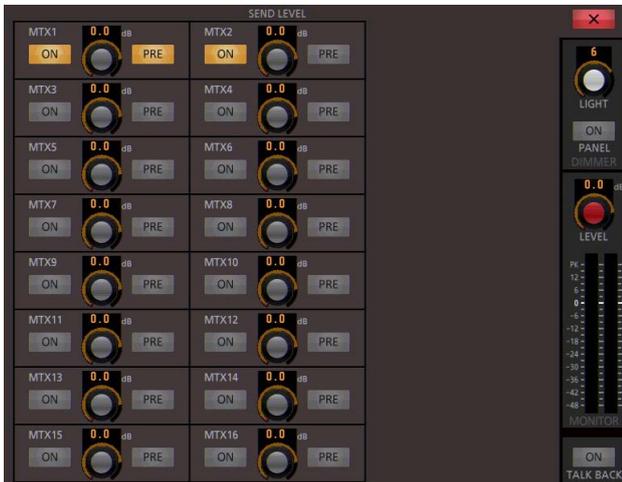


MTXタブ

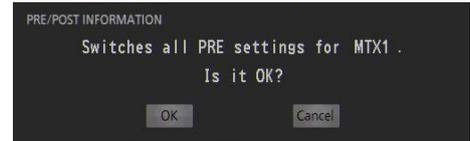
### マトリクスセンドスイッチ [MTX1] ~ [MTX16]

マトリクスチャンネルへの送り状態（ON/OFF、PRE/POST、センドレベル）を表示します。送りが有効なマトリクスチャンネルは橙色に点灯します。

マトリクスセンドスイッチ [MTX1] ~ [MTX16] をタッチすると、下図の「マトリクスセンド」画面を表示します。



- PRE/POSTの送り状況の表示、変更ができるのは、選択中のチャンネル種別が「INPUT」の場合のみです。
- 任意のマトリクスセンドスイッチをタッチすると、タッチされたチャンネルに対応するセンドレベルノブが選択された状態の「マトリクスセンド」画面を表示します。
- マトリクスチャンネルへのセンド位置を設定する [PRE] スイッチはマトリクスチャンネルごとに一括で切り替わります。設定を切り替える際は、以下のメッセージが表示され、[OK] を選択することで切り替えが反映されます。



- リバーブチャンネル選択時のみ表示される [SEND MASTER] とはリバーブへのセンド全体のレベルを意味します。



# 画面説明

## ■ マトリクスミキシング部

マトリクスミキシング部は、「シングルチャンネル」画面でマトリクスチャンネルを選択しているときに表示されます。

マトリクスミキシングスイッチ



### マトリクスミキシングスイッチ

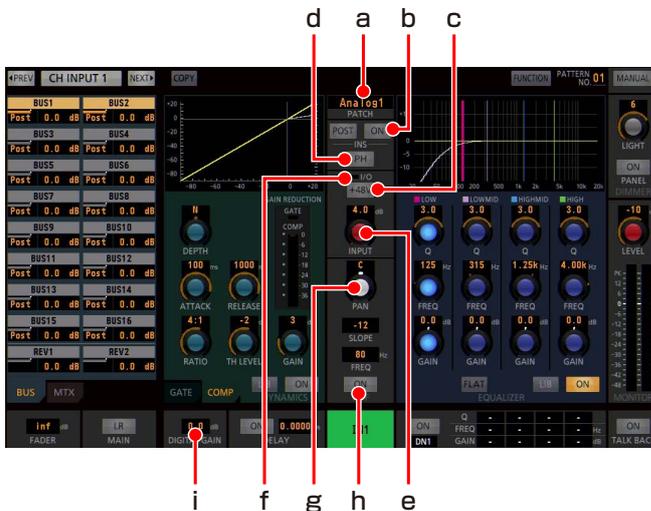
**[BUS1] ~ [BUS16] [TB] [MAIN L] [MAIN R]**  
マトリクスチャンネルへのミキシング状態 (ON/OFF、ミキシングレベル) を表示します。送りが有効なチャンネルは橙色に点灯します。  
マトリクスミキシングスイッチ [BUS1] ~ [BUS16]、[TB]、[MAIN L]、[MAIN R] をタッチすると、下図の「マトリクスミキシング」画面を表示します。



- 任意のマトリクスミキシングスイッチをタッチすると、タッチされたチャンネルに対応するミキシングレベルノブが選択された状態の「マトリクスミキシング」画面を表示します。

## ■ 入力パラメーター設定部

入力パラメーター設定部は、入力チャンネルの入力パラメーターなどの設定を行います。



### a. パッチ設定表示 [PATCH]

選択中の入力チャンネルに設定されているパッチを表示します。  
タッチすることで、「パッチ」画面を表示します。詳しくは「入出力パッチの設定」(70ページ)をお読みください。

### b. インサーション設定 [POST] [ON]

インサーションの設定を行うことができます。  
[ON] スイッチをタッチすると点灯し、インサーション機能を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。  
[POST] スイッチをタッチすると点灯し、インサーションの位置がポストフェーダーになります。もう一度タッチすると消灯し、インサーションの位置がプリフェーダーになります。



- インサーションの位置を変更した際、設定していたインサーション機能はOFFとなります。
- 「パッチ」画面にて、インサーション機能を有効にしたチャンネルにのみ表示されます。
- [ON] スイッチはインサーションリターンのパッチアサインが行われている場合のみ設定が可能です。詳しい設定方法は「入出力パッチの設定」(70ページ)をお読みください。

### c. ファンタム電源スイッチ [+48V]

[+48V] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、ファンタム電源を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。



- [+48V] スイッチを操作した際は、十分にDC電圧が下がるまでケーブルの抜き差しは行わないでください。

# 画面説明

## d. PHASEスイッチ [PH]

[PH] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、選択されたチャンネルの位相が反転し、もう一度タッチすると元に戻ります。

## e. トリムノブ [INPUT] [dB]

[INPUT] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、INPUTトリムレベルを調整することができます。設定値は [INPUT] ノブ上部に表示されます。  
INPUTトリムレベルは、本体の [INPUT] ノブを回して設定することもできます。

## f. I/Oインジケータ [I/O]



[+48V] スイッチと [INPUT] ノブで制御している対象が本機であるか、外部機器（WR-SB350：別売品）であるかを示すインジケータです。黒色、橙色、赤色のいずれかが表示されます。  
各色は以下の状態を表します。

黒色：本機リアパネル [INPUT1~16] の制御を行っている状態

橙色：外部機器（WR-SB350）の制御を行っている状態

赤色：該当の入力パラメータ設定部にて制御を行っているWR-SB350との通信エラーが発生している状態

## g. PAN/BALレベルノブ [PAN] / [BAL]



メインLRへのPAN（パンポッド：1つの音を配分する）/BAL（バランス：左右の入力に対して片方の入力を固定したままもう片方の入力を減衰させる）レベルを表示/設定します。チャンネル種別によって機能が変わります。

[INPUT]（モノラル）の場合：PANレベルの設定

[INPUT]（ステレオ）の場合：BALレベルの設定

[BUS]（モノラル）の場合：PANレベルの設定

[BUS]（ステレオ）の場合：BALレベルの設定

PAN/BALは本体の [PAN/BAL] ノブを回して設定することもできます。

## h. HPF設定 [HPF] [ON] [SLOPE] [FREQ]

HPF（ハイパスフィルター：広域の周波数を通し、低域の周波数をカットする）の [ON] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、HPFを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

カットオフ周波数を変更する場合は、FREQエリアをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、HPF周波数を調整することができます。

フィルターのSLOPEを変更する場合は、[SLOPE] エリアをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、スロープの種類を選択することができます。

スロープの種類は以下から選択することができます。

SLOPE	スロープ
-6	-6 dB/oct
-12	-12 dB/oct
-18	-18 dB/oct
-24	-24 dB/oct

## i. デジタルゲイン表示

[DIGITAL GAIN] の設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、デジタルゲインを調整することができます。



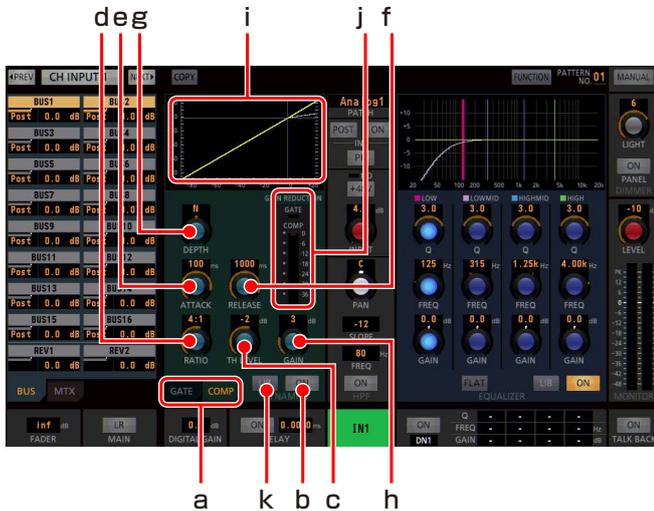
- 「パッチ」画面で、本機リアパネルのアナログインプット、およびWR-SB350（別売品）のアナログインプットと紐づいた回線がパッチされていないインプットチャンネルには、ファンタム電源スイッチ [+48V]、[INPUT] ノブ、I/Oインジケータ [I/O] は表示されません。詳しい設定方法は「入出力パッチの設定」（70ページ）をお読みください。

# 画面説明

## ■ ダイナミクス設定部

ダイナミクス設定部は、各チャンネルのダイナミクスの設定を行います。

設定手順などの詳細は「ダイナミクスの設定」(45ページ)をお読みください。



### a. ゲート/コンプレッサー選択スイッチ [GATE] [COMP]

2種類のダイナミクスを使用可能な入力チャンネルに表示されます。

[GATE] / [COMP] タブをタッチすると、設定するダイナミクスをノイズゲート、コンプレッサーから選択できます。

### b. ダイナミクススイッチ [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、ダイナミクスを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

### c. スレッシュホールドレベルノブ [TH LEVEL]

[TH LEVEL] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、スレッシュホールドレベルを調整することができます。

設定値は [TH LEVEL] ノブ上部に表示されます。

### d. レシオノブ [RATIO] (COMPのみ)

[RATIO] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、レシオを調整することができます。

設定値は [RATIO] ノブ上部に表示されます。

### e. アタックタイムノブ [ATTACK]

[ATTACK] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、GATE、COMPのアタックタイムを調整することができます。

設定値は [ATTACK] ノブ上部に表示されます。

### f. リリースタイムノブ [RELEASE]

[RELEASE] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、リリースタイムを調整することができます。

設定値は [RELEASE] ノブ上部に表示されます。

### g. デプスノブ [DEPTH] (COMPのみ)

[DEPTH] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、COMPのデプスの設定値を調整することができます。

設定値は [DEPTH] ノブ上部に表示されます。

### h. アウトプットゲインノブ [GAIN] (COMPのみ)

[GAIN] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、アウトプットゲインの設定値を調整することができます。

設定値は [GAIN] ノブ上部に表示されます。

### i. ダイナミクスグラフ

GATE、COMPの設定に応じた入出力特性を表示します。

### j. ゲインリダクションメーター [GAIN REDUCTION]

[COMP] では、コンプレッサーのゲインリダクションレベルを表示します。

[GATE] ではノイズゲートの動作状態を表示します。ノイズゲートが信号レベルを減衰させているときは点灯します。信号レベルに影響を与えていないときは消灯します。

### k. ダイナミクスライブラリースイッチ [LIB]

[LIB] スイッチをタッチすると、ダイナミクスライブラリータブが選択された状態で、「ユーティリティ」画面に表示が切り替わります。

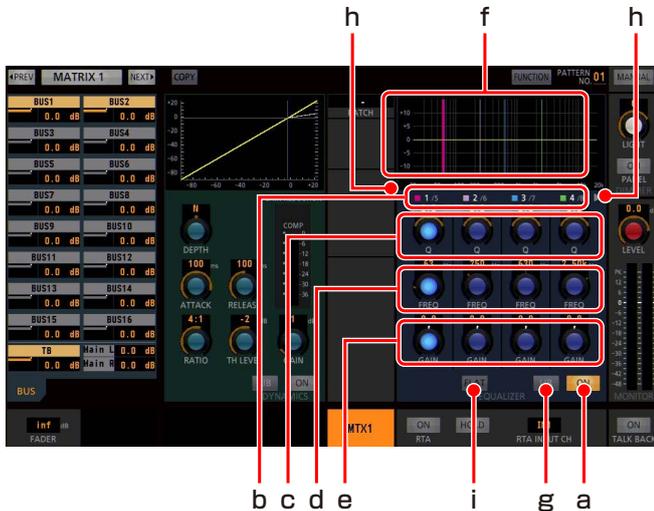
ダイナミクスライブラリータブでは、ダイナミクス設定の保存/読み込みが行えます。

# 画面説明

## ■ イコライザー設定部

イコライザー設定部は、各チャンネルのイコライザーの設定を行います。

設定手順などの詳細は「イコライザーの設定」(43ページ)をお読みください。



### a. イコライザースイッチ [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、イコライザーを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

### b. イコライザーバンド選択 [LOW] [LOWMID] [HIGHMID] [HIGH] [1~8]

[LOW]、[LOWMID]、[HIGHMID]、[HIGH]、[1~8] バンド下部の [Q] ノブ、[FREQ] ノブ、[GAIN] ノブをタッチするとイコライザーバンドが選択されます。その状態は本体EQバンド選択スイッチの状態にも連動します。

また、同じく、本体EQバンド選択スイッチで選択された状態は画面上のHPF・EQグラフ、[Q] ノブ、[FREQ] ノブ、[GAIN] ノブにも連動します。

### c. イコライザーQノブ [Q]

[Q] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、Qを調整することができます。また本体の [Q] ノブでも調整できます。

設定値は [Q] ノブ上部に表示されます。

### d. イコライザー周波数ノブ [FREQ]

[FREQ] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、周波数を調整することができます。また本体の [FREQ] ノブでも調整できます。設定値は [FREQ] ノブ上部に表示されます。

### e. イコライザーゲインノブ [GAIN]

[GAIN] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、ゲインを調整することができます。また本体の [GAIN] ノブでも調整できます。設定値は [GAIN] ノブ上部に表示されます。

### f. HPF・EQグラフ

HPF、EQの設定に応じた周波数特性を表示します。

### g. イコライザーライブラリースイッチ [LIB]

[LIB] スイッチをタッチすると、イコライザーライブラリータブが選択された状態で、「ユーティリティー」画面に表示が切り替わります。

イコライザーライブラリータブでは、イコライザー設定の保存/読み込みが行えます。

### h. イコライザーバンド選択スイッチ [◀] [▶] (PEQ設定のMATRIXのみ)

[◀] をタッチすると1~4、[▶] をタッチすると5~8のイコライザーのバンドを選択できます。

### i. フラットスイッチ [FLAT]

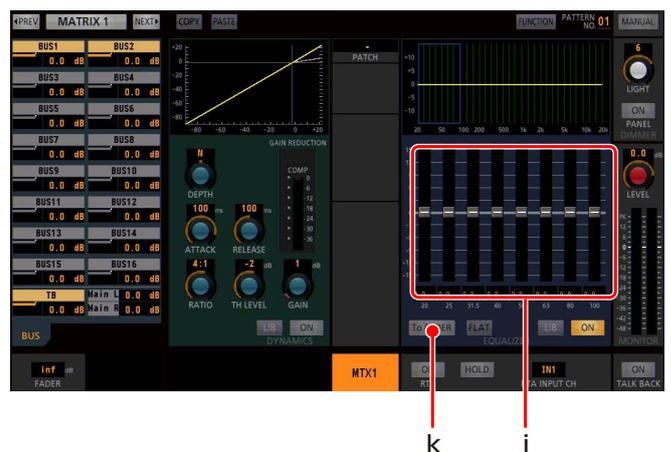
イコライザーのゲインレベルを一括して0 dBにすることができます。

[FLAT] のスイッチをタッチすると確認の [OK?] スイッチが表示されます。[OK?] スイッチをタッチすると0 dBにできます。[OK?] スイッチが表示されているときに、[FLAT] スイッチをタッチするとキャンセルできます。

### j. GEQゲイン設定フェーダー (マトリクスチャンネルをGEQ設定にした場合のみ)

31バンドのGEQに設定した場合、各バンドのゲインの設定を行います。

EQグラフをタッチして調整を行う周波数帯域を選択します。選択された周波数帯域のEQグラフ上に青枠が表示されます。



8周波数分のGEQゲイン設定フェーダーの任意のフェーダーをタッチすると、選択された周波数に青枠が表示され、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、ゲインを調整することができます。

設定値は各フェーダー下部に表示されます。

GEQグラフで青枠の部分が現在選択されている周波数の範囲です。グラフをタッチすると周波数の範囲を変更することができます。

# 画面説明



- マトリクスチャンネルのイコライザーの種類 (PEQ/GEQ) の変更は「ユーティリティー」画面の[AUDIO]タブから行います。詳細については「PEQとGEQの切り替え設定」(44ページ)をお読みください。

## k. To FADERスイッチ [To FADER]

[To FADER]スイッチをタッチすると点灯し、本体のチャンネルフェーダーモジュールでGEQの調整を行うことができます。本スイッチが点灯している状態では、本体のチャンネルディスプレイにはGEQの対応する周波数とゲインの情報が表示されます。

また、チャンネルフェーダーを用いて対象の周波数帯域のゲイン調整を行うことができます。



- 該当周波数が表示されているチャンネルフェーダーモジュールの [ON] スイッチを押すことで、その周波数のGEQのゲインを0 dBにすることができます。

## ■ デイレイ設定部



a

### a. デイレイスイッチ [DELAY] [ON]

入力チャンネル選択時のみ表示されます。デイレイの [ON] スイッチをタッチしON (点灯) にすると、デイレイ機能を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

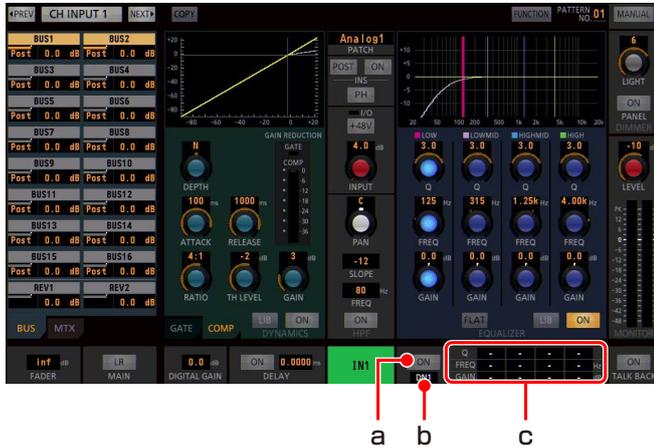
また、デイレイタイムを変更する場合は、設定値エリアをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、デイレイタイムを調整することができます。

設定手順などの詳細は「入力デイレイの設定」(48ページ)をお読みください。

# 画面説明

## ■ ダイナミックノッチ設定部

ダイナミックノッチ設定部は、各チャンネルのダイナミックノッチの設定を行います。「ユーティリティー」画面で設定した、モノラルのインプットチャンネルにのみ表示されます。設定手順などの詳細は「ダイナミックノッチの設定」(46ページ)をお読みください。



### a. ダイナミックノッチスイッチ [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、ダイナミックノッチを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

ONに設定するとハウリング検出動作を開始し、4つのハウリングポイントを表示します。

### b. ダイナミックノッチアサイン表示欄

ダイナミックノッチが使用可能なチャンネルにはDN1～16のいずれかを表示します。ダイナミックノッチが使用できないチャンネルでは、空欄になっています。

### c. ダイナミックノッチ設定表示 [Q] [FREQ] [GAIN]

ダイナミックノッチで検出したハウリングの抑制設定を表示します。



- ダイナミックノッチは本機のサンプリングレート設定が48 kHzのときのみ使用可能です。サンプリングレートの設定が96 kHzのときにはダイナミックノッチ設定部は表示されません。サンプリングレート設定についての詳細は付録1 (87ページ)をお読みください。

## ■ リバーブ設定部

リバーブの設定を行います。リバーブチャンネルにアクセスすることで画面に表示します。設定手順などの詳細は「リバーブの設定」(47ページ)をお読みください。



### a. リバーブタイプスイッチ [Hall] [Room] [Plate] [Delay] [Stereo Delay] [Delay Rev] [StDelay Rev]

変更したいリバーブタイプのスイッチをタッチしてON (点灯) にすることで、REVERB TYPEを選択することができます。

### b. リバーブスイッチ [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、リバーブを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

### c. パラメーター設定部 [Pre Delay] [Decay] [Rev Decay] [Room Size] [Rev Hi] [Time]

[L Time] [R Time] [Echo Hi] [Echo Time] [L F.B] [R F.B] [F.B] [Dly/Rev BAL] [Hi] リバーブ/ディレイの設定値を表示します。各ノブをタッチすると選択され、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、設定値を調整することができます。

## ■ トークバック/オシレーター設定部

トークバック/オシレーターの設定を行います。



### a. トークバックレベル [LEVEL] [dB]

トークバックレベルの設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、トークバックレベルを調整することができます。

### b. オシレーター出力スイッチ

[PINK] [100Hz] [1kHz] [10kHz]

各スイッチをタッチすると択一選択で点灯状態になり、オシレーターの出力信号を有効にできます。点灯状態のスイッチをもう一度タッチするとOFFで無効にできます。トークバックが有効のときに、スイッチを選択してもオシレーターは出力しません。

### c. オシレーターレベル [LEVEL] [dB]

オシレーターレベルの設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、オシレーターレベルを調整することができます。

# 画面説明

## マルチチャンネル画面

以下は「マルチチャンネル」画面の画面例です。

「マルチチャンネル」画面では、本体で選択されたチャンネルを含む、8チャンネル分のパラメーターを設定・確認することができます。本体のディスプレイコントロール部で [SINGLE/MULTI] スイッチを押すたびに「シングルチャンネル」画面と「マルチチャンネル」画面を交互に表示します。

「マルチチャンネル」画面は選択しているレイヤーにより、機能の有無、役割が変化します。



インプットレイヤー選択時



バスレイヤー選択時



マトリクスレイヤー選択時



カスタムレイヤー選択時

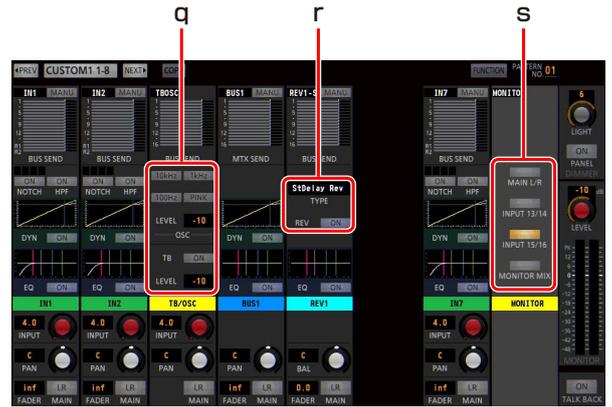
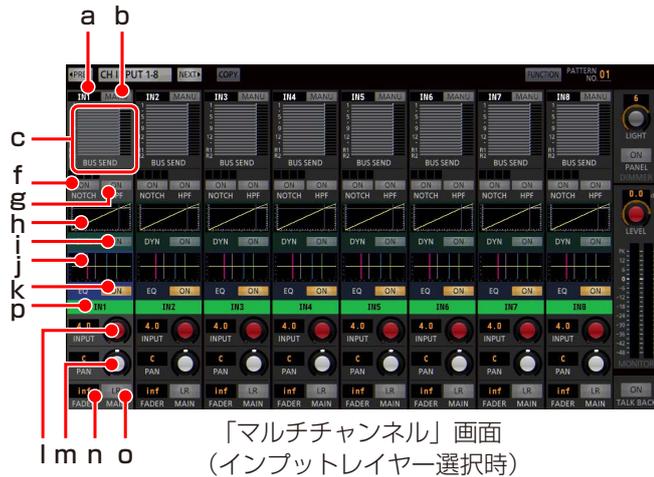
# 画面説明

## 操作対象チャンネルの選択

操作したいチャンネルをタッチすることで選択され、本体の [ACC] スイッチの選択状態と連動します。

### ■ チャンネルストリップ

1ch分のパラメーターを表示します。「マルチチャンネル」画面では、チャンネルストリップが8ch分表示します。



「マルチチャンネル」画面  
(カスタムレイヤー選択時)

### a. チャンネル番号表示

各チャンネルストリップで表示しているチャンネル種別とチャンネル番号を表示します。チャンネル種別により、下表のように表示します。

画面	チャンネル種別	表示内容	チャンネル番号
マルチチャンネル	INPUT	IN [Ch番号]	1~48
	REVERB SEND	REV1-S、REV2-S	—
	REVERB RETURN	REV1-R、REV2-R	—
	BUS	BUS [Ch番号]	1~16
	MATRIX	MTX [Ch番号]	1~16
	TALKBACK/OSC	TBOSC	—
MONITOR	MONITOR	—	—

### b. マニュアルスイッチ [MANU]

[MANU] スイッチをタッチするとON (点灯) になり、該当チャンネルをパターンメモリーリード、ミュートグループ (INPUTのみ)、フェーダーグループ (INPUTのみ) の制御から外することができます。もう一度タッチするとOFFになります。

### c. バスアサイン表示

BUS1~16、REVERB1、REVERB2へのアサイン状態を表示します。バスへのアサインがONのときバーグラフエリアにアサインレベルを橙色で表示します。OFFのときは、灰色で表示します。本部分をタッチすると、「シングルチャンネル」画面に切り替わります。PAN/BAL: L16~C~R16 (ステレオバス設定時のみ) 表示範囲: inf~設定値

### d. マトリクスセンド表示

MATRIXへのセンド状態を表示します。MATRIXへのセンドがONのとき、データバーにセンドレベルを「inf」~「設定値」まで橙色で表示します。OFFのときは灰色で表示します。本部分をタッチすると、「シングルチャンネル」画面に切り替わります。

## e. マトリクスミキシング表示

マトリクスへのミキシング状態を表示します。  
[TB] はトークバック/オシレーターのセンドレベルを表示します。  
マトリクスへのミキシングがONのとき、データバーにミキシングレベルを「inf」～「設定値」まで橙色で表示します。本部分をタッチすると、「シングルチャンネル」画面に切り替わります。  
OFFのときは灰色で表示します。

## f. ダイナミックノッチ設定 [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、ダイナミックノッチの設定を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。  
ハウリングの抑制設定が有効な場合、有効にされたポイント [1] ～ [4] を [ON]スイッチの上部のテキストボックスに表示します。



- 本部分はダイナミックノッチが有効なチャンネルにのみ表示されます。

## g. HPF設定 [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、HPFの設定を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

## h. ダイナミクスグラフ

「シングルチャンネル」画面で設定したGATE、COMPの設定に応じた入力特性を表示します。  
ダイナミクスグラフをタッチすると、「シングルチャンネル」画面に切り替わります。

## i. ダイナミクス設定 [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、ダイナミクスの設定を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。  
GATE、COMPの設定に応じた入出力特性をダイナミクスグラフに表示します。

## j. HPF・EQグラフ

「シングルチャンネル」画面で設定したHPF・EQの設定に応じた周波数特性を表示します。  
EQグラフをタッチすると、「シングルチャンネル」画面に切り替わります。

## k. イコライザー設定 [ON]

[ON] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、EQの設定を有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。  
HPF、EQの設定に応じた周波数特性をHPF・EQグラフに表示します。

## l. インプットトリムレベルノブ [INPUT]

[INPUT] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、INPUT TRIMレベルを調整することができます。また本体の [INPUT] ノブでも調整できます。  
設定値は [INPUT] ノブの左側に表示されます。

## m. PAN/BALレベルノブ [PAN] [BAL]

PAN/BALレベルノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、メインLRへのPAN/BALレベルを調整することができます。また本体の [PAN] / [BAL] ノブでも調整できます。  
設定値は [PAN] [BAL] ノブの左側に表示されます。

## n. フェーダーレベル表示 [FADER]

[FADER] の設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、フェーダーレベルを調整することができます。

## o. メインLRアサインスイッチ [LR]

[LR] スイッチをタッチするとON（点灯）になり、メインLRへのアサインを有効にできます。もう一度タッチするとOFFで無効にできます。

## p. チャンネル名称表示ラベル

チャンネル名称を表示します。  
チャンネル種別が「INPUT」、「BUS」、「REVERB」、「MAIN」、「MATRIX」の場合、タッチすることで、「チャンネルネームセッティング」画面を表示します。詳しくは「チャンネル名称/カラーを設定する」（56ページ）をお読みください。

## q. トークバック/オシレーターディスプレイ

トークバック/オシレーターの設定状態を表示します。  
タッチすると、トークバック/オシレーターチャンネルの「シングルチャンネル」画面を表示します。

## r. リバースディスプレイ

リバースの設定状態を表示します。  
タッチすると、リバースチャンネルの「シングルチャンネル」画面を表示します。

## s. モニターディスプレイ

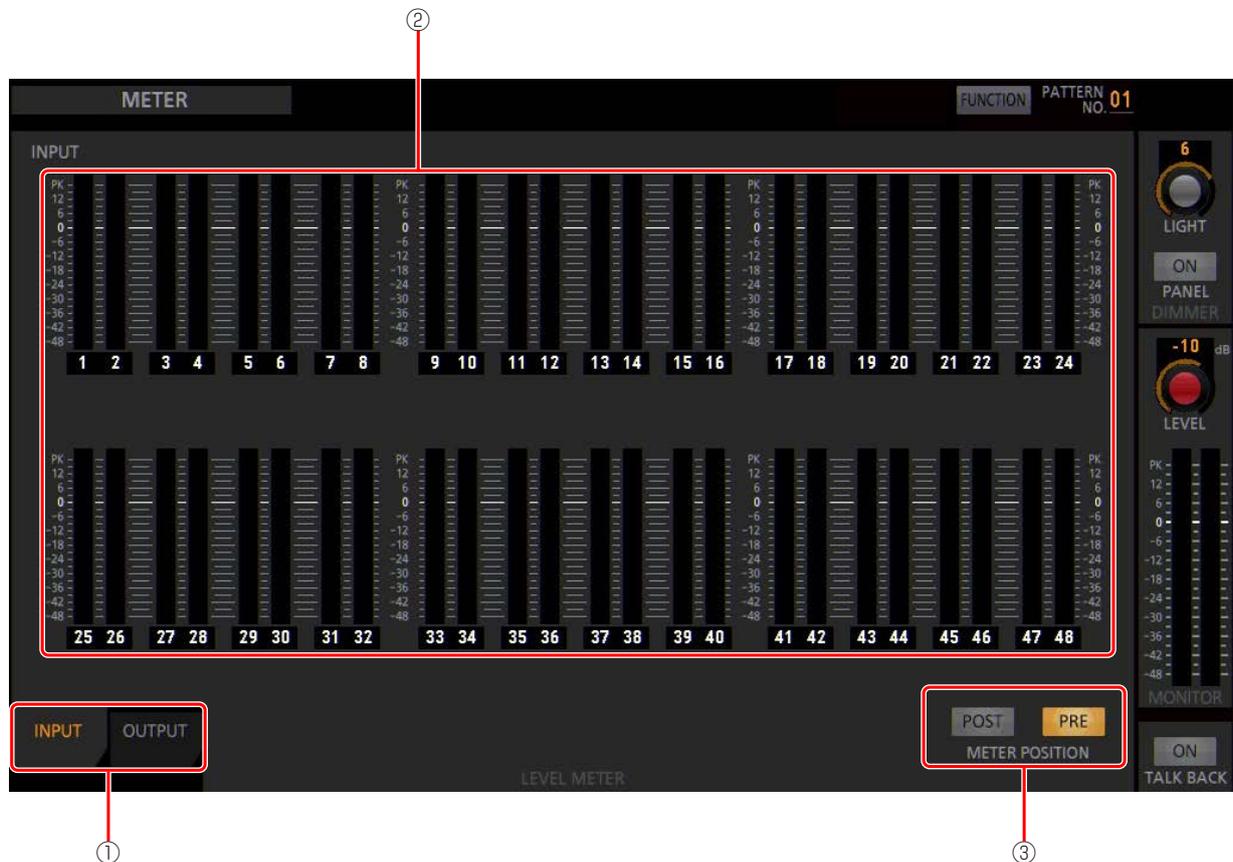
モニターの設定状態を表示します。

# 画面説明

## メーター画面

「メーター」画面では、レベルメーターを一覧で確認することができます。

本体のディスプレイコントロール部で [METER] スイッチを押すと「メーター」画面を表示します。



### ① IN/OUTタブ選択部 [INPUT] [OUTPUT]

レベルメーターに表示するチャンネルを [INPUT] [OUTPUT] のうちから選択します。

[INPUT] 選択時は、インプットチャンネルのレベルメーターを表示します。[OUTPUT] 選択時は、バスチャンネル、メインチャンネル、トークバック、オシレーター、リバーブチャンネル、マトリクスチャンネルのレベルメーターを表示します。

### ② レベルメーター部

IN/OUTタブ選択部で選択されているチャンネルの音声信号レベルを表示します。

[0] 表示は定格レベル (+4 dBu) に相当します。

緑色 : -56 dBu以上~+4 dBu未満

橙色 : +4 dBu以上~+21 dBu未満

赤色 : +21 dBu以上~+24 dBu

ピークホールドの設定にしたいが、ピークホールド値を表示します。ピークホールドの設定は、「ユーティリティ」画面の [SYSTEM] タブを選択して設定を行います。

### ③ POST/PRE設定部 [POST] [PRE]

タッチすることで、信号の出力位置 (メーターポジション) を選択できます。選択されているスイッチが点灯します。



- トークバックとオシレーターのメーターポジションはポストフェーダー固定です。

## モニター画面

「モニター」画面ではモニターの設定を行うことができます。

本体のモニターセクションで [ACC] スイッチを押すと「モニター」画面を表示します。



### ① モニターソース選択部

モニターの入力信号を選択します。(25ページ)

### ② モニター設定部

モニターの出力設定を行います。(25ページ)

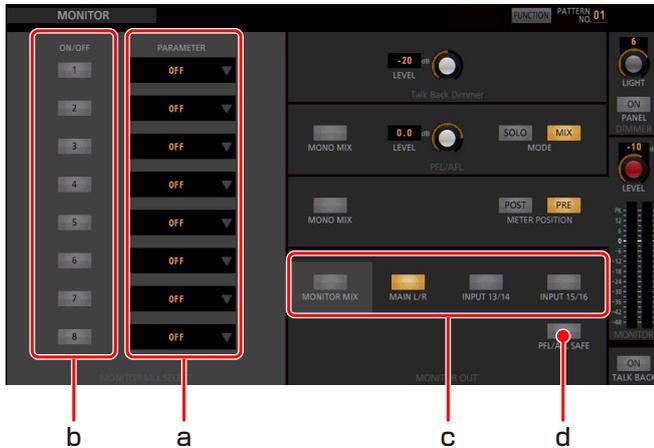
### ③ Talk Back Dimmer設定部

Talk Back Dimmerの設定を行います。(26ページ)

# 画面説明

## ■ モニターソース選択部

モニターソース選択部では、モニターの入力信号を選択します。



### a. モニターパラメーター選択部 [PARAMETER]

モニターミックスに使用するチャンネルを選択することができます。[▼] スイッチをタッチすると橙色点灯し、設定変更が行えるようになります。点灯した状態で本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、以下の選択肢から設定を行います。

OFF

インプット : INPUT13-14、15-16

バス : BUS1-2、3-4…15-16

マトリクス : MTX1-2、3-4…15-16

MAIN L/R

### b. モニターミックスON/OFFスイッチ [1~8] [ON/OFF]

「モニターパラメーター選択部」で選択したチャンネルの使用状況を表示します。各スイッチをタッチするとON(点灯)になり、該当チャンネルをモニターミックスに送ります。もう一度タッチするとOFFになります。

### c. モニターソース選択スイッチ [MAIN L/R] [MONITOR MIX] [INPUT 13/14] [INPUT 15/16]

各スイッチをタッチするとON(点灯)になり、モニターソースを選択します。モニターソースは択一選択です。モノラル設定のソースは、モニターのLch、Rchの両方から同じ信号を出力します。

### d. PFL/AFL割り込み禁止スイッチ [PFL/AFL SAFE]

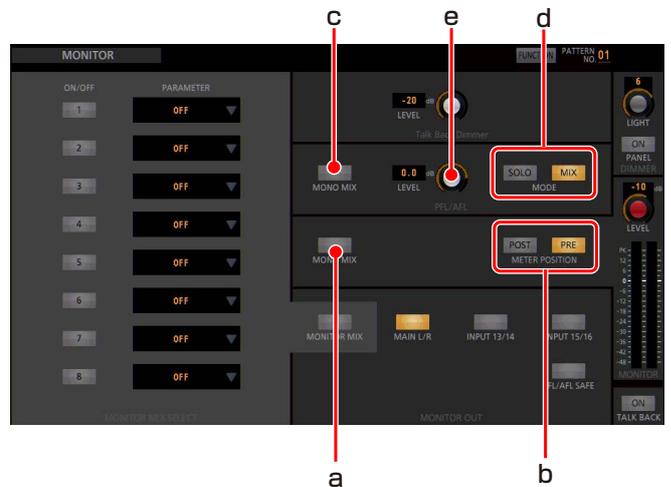
[PFL/AFL SAFE] スイッチをタッチするとON(点灯)になり、PFL/AFL信号がモニターに割り込まないようにできます。もう一度タッチするとOFFになります。



- PFL/AFL割り込み禁止スイッチの状態にかかわらず、ヘッドホンからはPFL/AFL信号が出力されます。

## ■ モニター設定部

モニター設定部ではモニターの出力とメーターの設定を行います。



### a. モノラルミックススイッチ [MONO MIX]

[MONO MIX] スイッチをタッチするとON(点灯)になり、モニターの音声をもノラルミックス(モニターソース選択スイッチで選択したチャンネルの音がミキシングされモニターのLch、Rch両方から信号を出力)することができます。もう一度タッチするとOFFになります。

### b. モニターメーターポジションスイッチ [POST] [PRE]

[POST] [PRE] スイッチをタッチするとON(点灯)になり、モニターのレベルメーターに表示する信号の出力位置(メーターポジション)を選択できます。[POST] [PRE] スイッチは択一選択です。

[POST] 選択時には、レベルメーターにはポストフェーダーのレベルを表示します。[PRE] 選択時には、レベルメーターにプリフェーダーのレベルを表示します。

### c. モノミックススイッチ [MONO MIX]

[MONO MIX] スイッチをタッチするとON(点灯)になり、PFL/AFLの音声をモノミックスすることができます。もう一度タッチするとOFFになります。

### d. PFL/AFL MODE選択スイッチ [SOLO] [MIX]

[SOLO] [MIX] スイッチをタッチするとON(点灯)になり、PFL/AFLの選択方式を設定できます。[SOLO] [MIX] スイッチは択一選択です。

[SOLO] 選択時、ミキサー内のPFL/AFLスイッチは選ばれたチャンネルのみ有効になります。

[MIX] 選択時、複数選択可能になります。



- [SOLO] [MIX] スイッチで設定を切り替えるといったん選択されているPFL/AFLがすべてOFFになります。

### e. PFL/AFLレベルノブ [LEVEL]

[LEVEL] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、PFL/AFLの出力レベルを調整することができます。

設定値は、[LEVEL] ノブの左側に表示されます。

# 画面説明

## ■ Talk Back Dimmer設定部

トークバックマイクがONになったときに、ハウリング防止のために動作するディマーの設定を行います。



### a. ディマーレベル設定ノブ [Talk Back Dimmer]

[Talk Back Dimmer] ノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、ディマーレベルを設定することができます。設定値は、[Talk Back Dimmer] ノブの左側に表示されます。

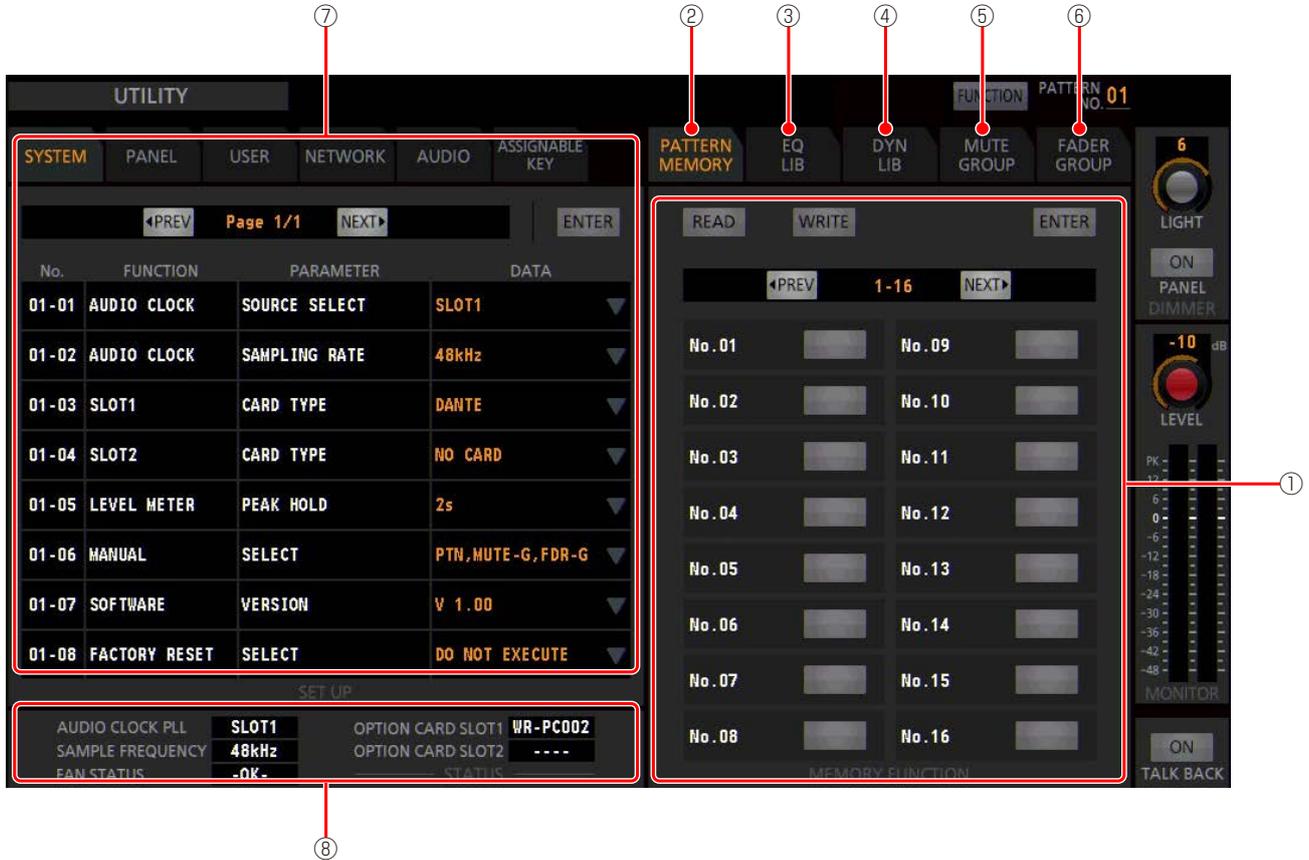


- Talk Back Dimmerを使用しない場合はディマーレベルを0 dBに設定してください。

# 画面説明

## ユーティリティ画面

「ユーティリティ」では、メモリーリード/ライト、ライブラリー管理、システム設定、オプション設定を行うことができます。本体のディスプレイコントロール部で [UTILITY] スイッチを押すと「ユーティリティ」画面を表示します。



### ① ユーティリティ機能部

「ユーティリティ」画面で使用できる機能の表示/操作を行います。

### ② パターンメモリータブ [PATTERN MEMORY]

ユーティリティ機能部にパターンメモリーのリード/ライトを行う画面を表示します。(28ページ)

### ③ イコライザーライブラリータブ [EQ LIB]

タッチするとユーティリティ機能部にイコライザー (EQ) ライブラリーのリード/ライトを行う画面を表示します。(29ページ)

### ④ ダイナミクスライブラリータブ [DYN LIB]

タッチするとユーティリティ機能部にダイナミクス (DYN) ライブラリーのリード/ライトを行う画面を表示します。(30ページ)

### ⑤ ミュートグループタブ [MUTE GROUP]

タッチするとユーティリティ機能部にミュートグループの設定/実行を行う画面を表示します。(31ページ)

### ⑥ フェーダーグループタブ [FADER GROUP]

タッチするとユーティリティ機能部にフェーダーグループの設定/実行を行う画面を表示します。(32ページ)

### ⑦ システム設定/オプション設定部

システム設定、オプション設定を行います。

### ⑧ ステータス表示部

システムの稼働状態を表示します。

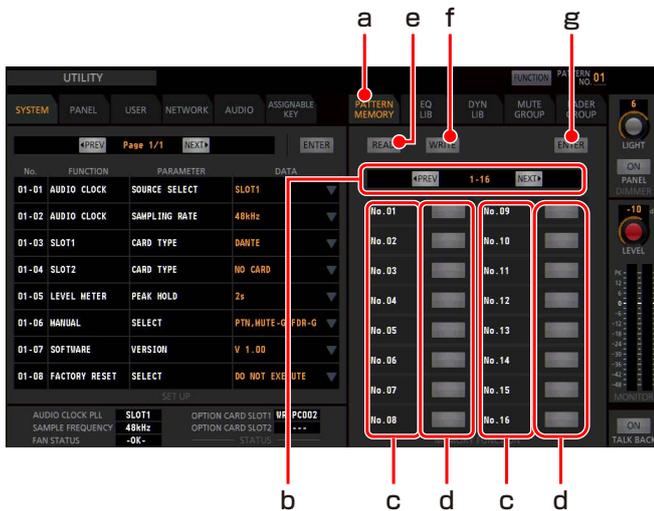


- 以下の操作においては、特定のタブを選択した状態の「ユーティリティ」画面に遷移します。
  - ・ 各画面共通、パターン番号表示エリア [PATTERN No.] をタッチ ⇒ [PATTERN MEMORY] タブ
  - ・ 「シングルチャンネル」画面でダイナミクス [LIB] スイッチをタッチ ⇒ [DYN LIB] タブ
  - ・ 「シングルチャンネル」画面でイコライザー [LIB] スイッチをタッチ ⇒ [EQ LIB] タブ
  - ・ 本体のディスプレイコントロール部で [UTILITY] スイッチを押す ⇒ 前回表示していたタブ

# 画面説明

## ■ ユーティリティ機能部 — パターンメモリータブ選択時

パターンメモリータブ選択時のユーティリティ機能部では、パターンメモリーのリード/ライトを行います。96個のパターンメモリーをリード/ライトすることができます。設定手順などの詳細は「パターンメモリーの活用」(60ページ)をお読みください。



### e. パターンメモリーリードスイッチ [READ]

[READ] スイッチをタッチすると選択状態 (青点灯) になり、読み込みたいパターンメモリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとパターンメモリーリードを行うことができます。

### f. パターンメモリーライト選択スイッチ [WRITE]

[WRITE] スイッチをタッチすると選択状態 (赤点灯) になり、書き込みたいパターンメモリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとパターンメモリーライトを行うことができます。

### g. パターンメモリーリード/ライト実行スイッチ [ENTER]

[ENTER] スイッチをタッチするとパターンメモリーリード/ライトを実行することができます。

### a. パターンメモリータブ [PATTERN MEMORY]

[PATTERN MEMORY] タブをタッチし、ユーティリティ機能部をパターンメモリーに切り替えます。

### b. パターンメモリーページ選択エリア

[1-16] [17-32] [33-48] [49-64] [65-80] [81-96] [PREV] [NEXT]

96個のパターンメモリーのうち、16個ずつリード/ライトの操作をすることができます。操作するパターンメモリー番号が含まれる16個単位のパターンメモリーページを選択します。

パターンメモリーページ選択エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、パターンメモリーページを選択します。[PREV] [NEXT] スイッチでもページ切り替えができます。

### c. パターンメモリー名称 [No.1] ~ [No.96]

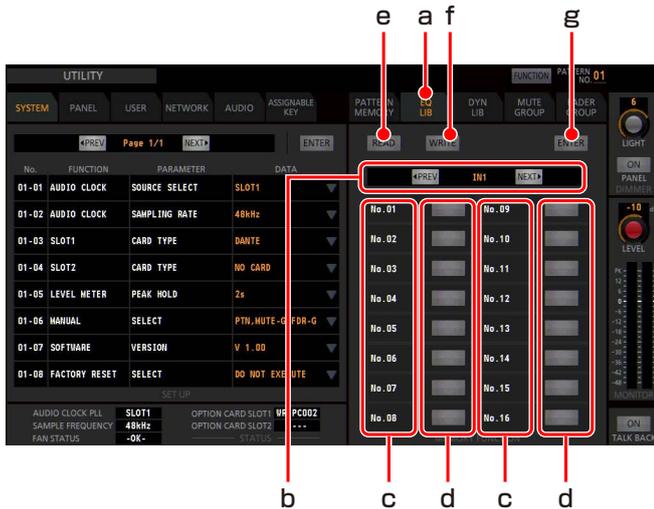
各パターンメモリーの名称を表示します。パターンメモリー名称はPC用リモートソフトから設定することができます。

### d. パターンメモリー番号スイッチ

スイッチをタッチすると選択状態 (点灯) になり、リード/ライトするパターンメモリー番号を選択できます。もう一度タッチすると選択状態が解除されます。

## ■ ユーティリティ機能部 — イコライザーライブラリータブ選択時

EQライブラリータブ選択時のユーティリティ機能部では、イコライザーライブラリーのリード/ライトを行います。16個のイコライザーライブラリーをリード/ライトすることができます。設定手順などの詳細は「ライブラリーの活用」(59ページ)をお読みください。



- a. **イコライザーライブラリータブ [EQ LIB]**  
[EQ LIB] タブをタッチし、ユーティリティ機能部をイコライザーライブラリーに切り替えます。
- b. **イコライザーライブラリーチャンネル選択エリア [CH] [PREV] [NEXT]**  
イコライザーライブラリーで操作するチャンネルを選択します。チャンネルは下表から選択できます。

チャンネル種別	表示内容	チャンネル番号
INPUT	IN [Ch番号]	1~48
BUS	BUS [Ch番号]	1~16
REVERB	REV1、REV2	—
MATRIX	MTX [Ch番号]	1~16
MAIN	MAIN	—

イコライザーライブラリーチャンネル選択エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、イコライザーライブラリーで操作するチャンネルを選択します。[PREV] [NEXT] スイッチでもイコライザーライブラリーで操作するチャンネルを選択できます。

- c. **イコライザーライブラリー名称 [No.1] ~ [No.16]**  
各イコライザーライブラリーの名称を表示します。イコライザーライブラリー名称はPC用リモートソフトから設定することができます。
- d. **イコライザーライブラリー番号スイッチ**  
スイッチをタッチすると選択状態 (点灯) になり、リード/ライトするイコライザーライブラリー番号を選択できます。もう一度タッチすると選択状態が解除されます。
- e. **イコライザーライブラリーリード選択スイッチ [READ]**  
[READ] スイッチをタッチすると選択状態 (青点灯) になり、読み込みたいイコライザーライブラリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとイコライザーライブラリーリードを行うことができます。
- f. **イコライザーライブラリーライト選択スイッチ [WRITE]**  
[WRITE] スイッチをタッチすると選択状態 (赤点灯) になり、書き込みたいイコライザーライブラリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとイコライザーライブラリーライトを行うことができます。
- g. **イコライザーライブラリーリード/ライト実行スイッチ [ENTER]**  
[ENTER] スイッチをタッチすると点灯し、イコライザーライブラリーリード/ライトを実行することができます。



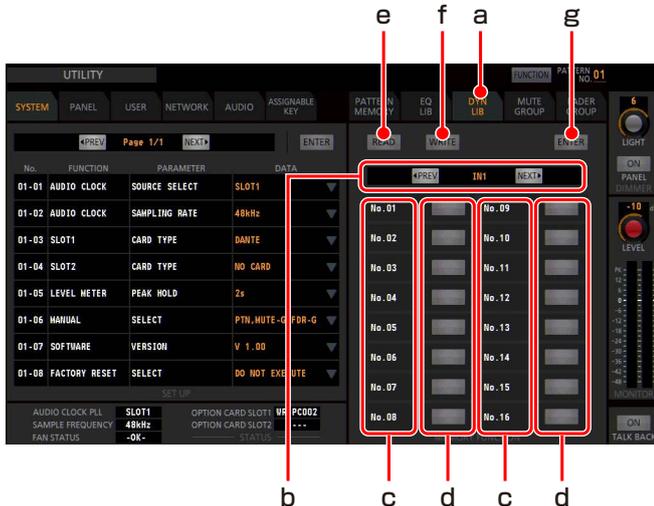
- GEQを使用しているマトリクスチャンネルで登録したイコライザーライブラリーを、PEQ用に読み出すことはできません。
- PEQを使用しているマトリクスチャンネルで登録したイコライザーライブラリーを、GEQを使用しているチャンネルに読み出すことはできません。
- マトリクス以外のチャンネルで登録したイコライザーライブラリーを、マトリクスチャンネルに読み出すことはできません。
- マトリクスチャンネルで登録したイコライザーライブラリーを、マトリクス以外のチャンネルに読み出すことはできません。
- [READ] スイッチを選択中に読み出すことのできないイコライザーライブラリー番号スイッチはグレーアウトします。

# 画面説明

## ■ ユーティリティー機能部 — ダイナミックライブラリータブ選択時

ダイナミックライブラリータブ選択時のユーティリティー機能部では、ダイナミックライブラリーのリード/ライトを行います。

16個のダイナミックライブラリーをリード/ライトすることができます。



### a. ダイナミックライブラリータブ [DYN LIB]

[DYN LIB] タブをタッチし、ユーティリティー機能部をダイナミックライブラリーに切り替えます。

### b. ダイナミックライブラリーチャンネル選択エリア [CH] [PREV] [NEXT]

ダイナミックライブラリーで操作するチャンネルを選択します。チャンネルは下表から選択できます。

チャンネル種別	表示内容	チャンネル番号
INPUT	IN [Ch番号]	1~48
BUS	BUS [Ch番号]	1~16
MATRIX	MTX [Ch番号]	1~16
MAIN	MAIN	—

ダイナミックライブラリーチャンネル選択エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、ダイナミックライブラリーチャンネルを選択します。[PREV] [NEXT] スイッチでもダイナミックライブラリーで操作するチャンネルを選択できます。

### c. ダイナミックライブラリー名称 [No.1] ~ [No.16]

各ダイナミックライブラリーの名称を表示します。ダイナミックライブラリー名称はPC用リモートソフトから設定することができます。

### d. ダイナミックライブラリースイッチ

スイッチをタッチすると選択状態（点灯）になり、リード/ライトするダイナミックライブラリーを選択できます。もう一度タッチすると選択状態が解除されます。

### e. ダイナミックライブラリーリード選択スイッチ [READ]

[READ] スイッチをタッチすると選択状態（青点灯）になり、読み込みたいダイナミックライブラリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとダイナミックライブラリーリードを行うことができます。

### f. ダイナミックライブラリーライト選択スイッチ [WRITE]

[WRITE] スイッチをタッチすると選択状態（赤点灯）になり、書き込みたいパターンメモリー番号スイッチを選択し、[ENTER] スイッチをタッチするとパターンメモリーライトを行うことができます。

### g. ダイナミックライブラリーリード/ライト実行スイッチ [ENTER]

[ENTER] スイッチをタッチすると点灯し、ダイナミックライブラリーリード/ライトを実行することができます。

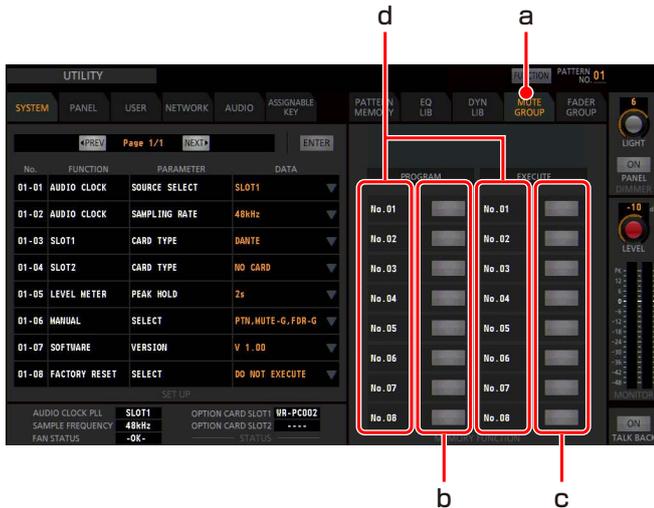


- インputチャンネルで登録したダイナミックライブラリーをinput以外のチャンネルに呼び出すことはできません。
- input以外のチャンネルで登録したダイナミックライブラリーをinputチャンネルに呼び出すことはできません。
- [READ] スイッチを選択中に読み出すことのできないダイナミックライブラリースイッチはグレイアウトします。

# 画面説明

## ■ ユーティリティ機能部 — ミュートグループタブ選択時

ミュートグループタブ選択時のユーティリティ機能部では、ミュートグループの設定、実行を行います。8個のミュートグループを設定、実行することができます。ミュートグループを使用することで、複数の入力チャンネルを一括してON/OFFすることができます。設定手順などの詳細は「ミュートグループの活用」(61ページ)をお読みください。



- ミュートグループタブ [MUTE GROUP]**  
[MUTE GROUP] タブをタッチし、ユーティリティ機能部をミュートグループに切り替えます。
- ミュートグループ設定スイッチ [PROGRAM]**  
8個のミュートグループから、グルーピング設定を行うミュートグループを選択します。
- ミュートグループ実行スイッチ [EXECUTE]**  
8個のミュートグループから、実行するミュートグループを選択します。  
タッチしてON (点灯) にすることで、各ミュートグループが実行します。  
ミュートグループを実行すると、実行したミュートグループに登録されたINPUTチャンネルスイッチがOFFになります。  
もう一度タッチするとOFF(消灯)になります。
- ミュートグループ名称 [No.1] ~ [No.8]**  
各ミュートグループの名称を表示します。  
ミュートグループ名称はPC用リモートソフトから設定することができます。



- [MANUAL] スイッチ設定、および操作を行う入力チャンネルの [MANUAL] スイッチ状態により、下表のようにミュートグループ実行時の動作が異なります。[MANUAL] スイッチ設定は、[SYSTEM] タブを選択時の「ユーティリティ」画面 (No.01-06 : MANUAL) より変更が可能です。

MANUALスイッチ設定	MANUALスイッチ状態	ミュートグループ制御
PTN、MUTE-G、FDR-G	OFF	有効
	ON	無効
PTN ONLY	OFF	有効
	ON	有効

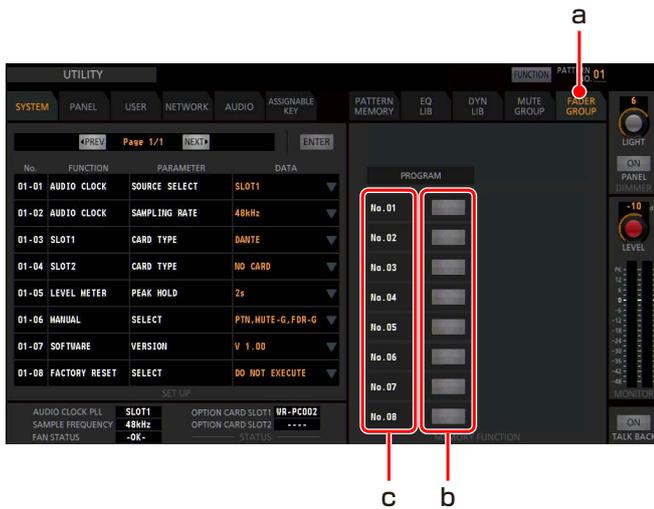
※ミュートグループ制御が無効となる条件のチャンネルは、ミュートグループ制御のON/OFF状態の影響を受けません。

# 画面説明

## ■ ユーティリティー機能部 — フェーダーグループ選択時

フェーダーグループタブ選択時のユーティリティー機能部では、フェーダーグループの設定を行います。8個のフェーダーグループを設定することができます。フェーダーグループを使用することで、複数の入力チャンネルのフェーダーレベルを一括して操作することができます。設定手順などの詳細は「フェーダーグループの活用」(62ページ)をお読みください。

- フェーダーグループタブ [FADER GROUP]**  
[FADER GROUP] タブをタッチし、ユーティリティー機能部をフェーダーグループに切り替えます。
- フェーダーグループ設定スイッチ [PROGRAM]**  
8個のフェーダーグループから、グルーピング設定を行うフェーダーグループ番号を選択します。
- フェーダーグループ名称 [No.1] ~ [No.8]**  
各フェーダーグループの名称を表示します。フェーダーグループ名称はPC用リモートソフトから設定することができます。



- オプション設定の [MANUAL] スイッチ設定、操作を行う入力チャンネルの [MANUAL] スイッチ状態により、下表のようにフェーダーグループに設定されているチャンネルの動作が異なります。[MANUAL] スイッチ設定は、[SYSTEM] タブを選択時の「ユーティリティー」画面 (No.01-06 : MANUAL) より変更が可能です。

MANUALスイッチ設定	MANUALスイッチ状態	フェーダーグループ制御
PTN、MUTE-G、FDR-G	OFF	有効
	ON	無効
PTN ONLY	OFF	有効
	ON	有効

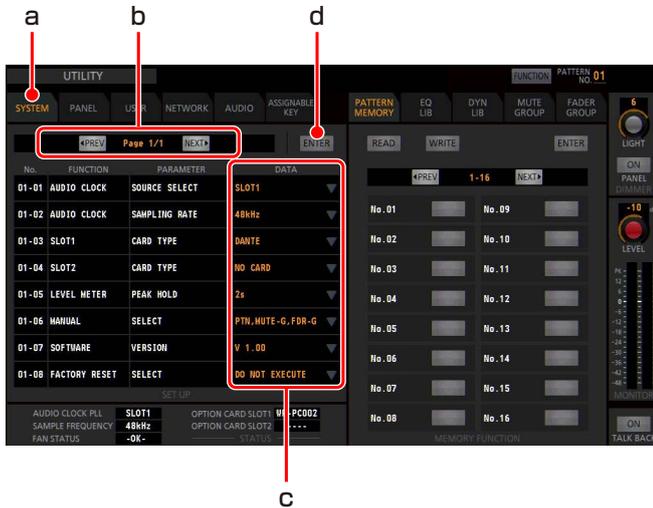
※フェーダーグループ制御が無効となる条件のチャンネルは、フェーダーグループ制御の影響を受けません。

# 画面説明

## ■ システム設定部/オプション設定部

システム設定部/オプション設定部では、システム設定、オプション設定を行います。

### ● [SYSTEM] タブ設定



#### a. システムタブ [SYSTEM]

[SYSTEM] タブをタッチし、システム設定部/オプション設定部をシステムに切り替えます。

#### b. ページ表示/選択ボタン [PREV] [NEXT] [Page n/n]

機能設定を行うページを選択します。ページ番号と総ページ数を表示します。

ページ切り替えに応じて、機能番号表示、機能名称表示、設定項目表示、設定値表示/選択の内容が変化します。

#### c. 設定値表示/選択 [DATA]

項目をタッチすると、タッチした行が反転表示し、その状態で本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、設定値を変更することができます。

#### d. 実行スイッチ [ENTER]

設定値の変更を行うと、[ENTER] スイッチが橙色点灯します。この状態で [ENTER] スイッチをタッチすると、設定変更が確定します。

[ENTER] スイッチをタッチする前に、「ユーティリティ」画面から他の画面を選択すると変更した内容を破棄します。

[SYSTEM] タブ選択時に設定する項目、[FUNCTION] [PARAMETER] [DATA] の詳細については、付録1 (87ページ) をお読みください。

### ● [PANEL] タブ設定

[PANEL] タブ選択時のシステム設定部/オプション設定部では、パネル設定 (画面表示、ライト輝度などの設定) をします。

パネル設定する項目、[FUNCTION] [PARAMETER] [DATA] の詳細については、付録2 (88ページ) をお読みください。

### ● [USER] タブ設定

[USER] タブ選択時のシステム設定部/オプション設定部では、ユーザー設定をします。

ユーザー設定する項目、[FUNCTION] [PARAMETER] [DATA] の詳細については、付録3 (90ページ) をお読みください。

### ● [NETWORK] タブ設定

[NETWORK] タブ選択時のシステム設定部/オプション設定部では、リモート制御の方式、IPアドレスの設定をします。

ネットワーク設定する項目、[FUNCTION] [PARAMETER] [DATA] の詳細については、付録4 (92ページ) をお読みください。

### ● [AUDIO] タブ設定

[AUDIO] タブ選択時のシステム設定部/オプション設定部では、ダイナミックノッチの設定、PEQ/GEQ切り替えの設定をします。

オーディオ設定する項目、[FUNCTION] [PARAMETER] [DATA] の詳細については、付録5 (93ページ) をお読みください。

### ● [ASSIGNABLE KEY] タブ設定

[ASSIGNABLE KEY] タブ設定では、アサインブルキーの設定を行います。

詳しくは「アサインブルキーの活用」(55ページ) をお読みください。

# 画面説明

## ■ ステータス表示部

ステータス表示部では、システムの稼働状態を表示します。



### a. マスタークロック表示 [AUDIO CLOCK PLL]

本機のマスタークロックがINT（インターナル）、SLOT1、SLOT2のいずれであるかを表示します。

### b. サンプリング周波数 [SAMPLE FREQUENCY]

サンプリング周波数を表示します。

### c. FAN [FAN STATUS]

FANエラーの状態を表示します。通常時は[-OK-]、エラー時は赤文字で [-NG-] と表示します。



- FANエラーが表示されている場合は画面上部に [ALARM] が表示されます。

### d. カードスロット1、2使用カード表示

#### [OPTION CARD SLOT1]

#### [OPTION CARD SLOT2]

カードスロットで使用しているカードを表示します。未使用時は [-]、32ch入出力Danteカード (WR-PC002) 挿入時は [WR-PC002] と表示します。



- 本機のカードスロットは専用オプションカード(32ch入出力Danteカード(WR-PC002))専用です。



- **重要** 本機のカードスロット1に標準装備されているWR-PC002は取り外さないでください。取り外された状態で起動すると、以下のポップアップでエラーメッセージが表示されます。[OK] スイッチをタッチすると、ポップアップが閉じます。



## オートミックス画面

「オートミックス」画面ではオートミックス機能の設定を行うことができます。

[FUNCTION] スイッチをタッチして [FUNCTION] タブを表示し、タブ内の [AutoMix] スイッチをタッチすると「オートミックス」画面を表示します。

詳しい設定方法については「オートミックスの活用」(50ページ)をお読みください。



### ① オートミックスチャンネル設定部

オートミックス機能を有効にする入力チャンネルを選択します。

### ② クリアオールスイッチ [Clear All]

[Clear All] スイッチをタッチすることで、オートミックス機能を有効にしているチャンネルをすべて無効にします。

### ③ アクティブスイッチ [Active SW] [ON]

オートミックス機能全体の有効/無効状況を表示します。  
[ON] スイッチをタッチすると、有効（点灯）となり、もう一度タッチするとOFFになります。

# 画面説明

## パッチ画面

「パッチ」画面ではインプット/アウトプット/インサージョンのパッチ設定を行うことができます。  
「シングルチャンネル」画面の入力パラメーター設定部：パッチ設定表示をタッチすると「パッチ」画面を表示します。  
詳しいパッチの設定方法は「入出力パッチの設定」（70ページ）をお読みください。



### ① パッチ設定選択タブ

パッチの設定を行う対象を選択します。

### ② バックスイッチ [BACK]

タッチすると、「パッチ」画面を表示した直前の画面に戻ります。

### ③ パッチ設定部

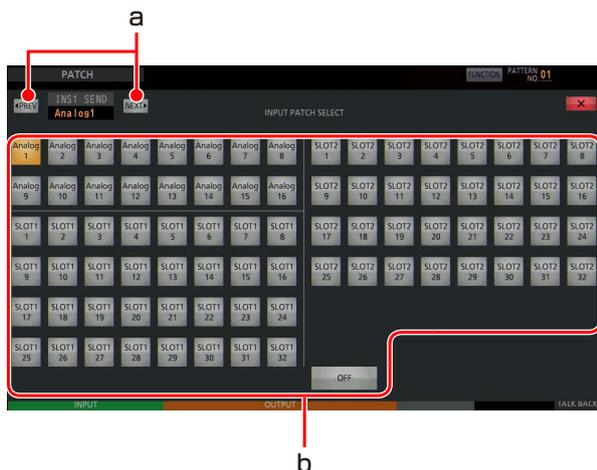
パッチの設定を表示します。各チャンネルにある [▼] スイッチをタッチすることで、以下の「パッチ選択」画面を表示します。

### a. 設定回線変更スイッチ [PREV] [NEXT]

タッチすると、前/後の回線の「パッチ選択」画面を表示します。

### b. パッチ選択スイッチ

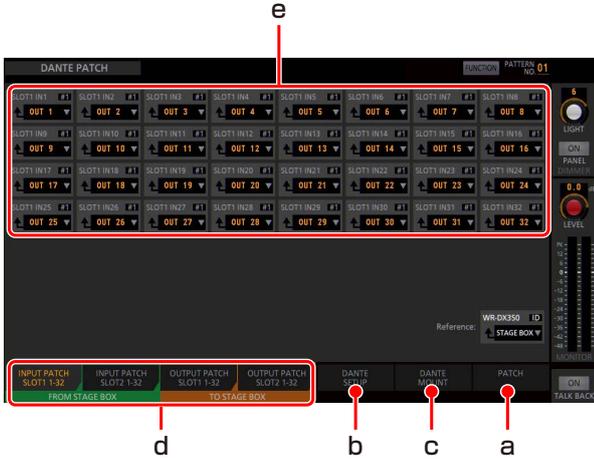
[OFF] スイッチを含むこれらのスイッチの中から、割り当ててる回線を選択します。タッチすると点灯しONになります。これらのスイッチは択一選択です。



# 画面説明

## ④「DANTEパッチ」画面切り替えスイッチ [DANTE PATCH]

タッチすると、以下の「DANTEパッチ」画面が表示されます。詳しくは「Danteパッチの設定」(73ページ)をお読みください。



a. 「パッチ」画面切り替えスイッチ [PATCH]  
タッチすると、「パッチ」画面を表示します。

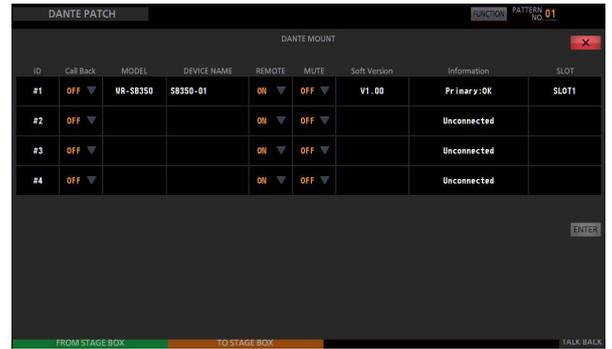
b. DANTEセットアップスイッチ [DANTE SETUP]  
タッチすると、以下の「DANTEセットアップ」画面を表示します。  
「DANTEセットアップ」画面では本機のスロットに挿入されているDANTE機器の表示と設定を行います。詳しくは「Dante機器の設定」(75ページ)をお読みください。



## c. DANTEマウントスイッチ [DANTE MOUNT]

タッチすると、以下の「DANTEマウント」画面を表示します。

「DANTEマウント」画面では本機に接続されているWR-SB350(別売品)を4台まで検索できます。検索されたDante機器の管理・設定を行うこともできます。詳しくは「Dante機器の設定」(75ページ)をお読みください。

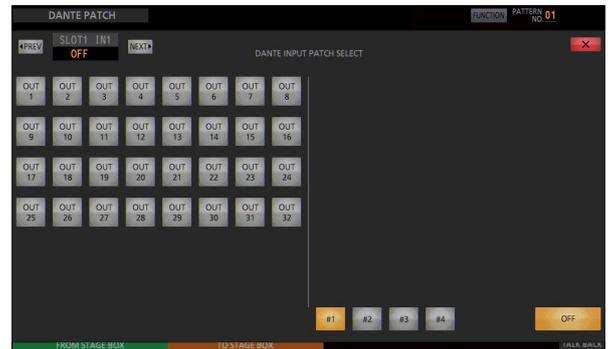


## d. Danteパッチ設定選択タブ

Danteパッチの設定を行う対象を選択します。

## e. Danteパッチの設定を表示します。

各チャンネルにある[▼]スイッチをタッチすることで、以下の「Danteパッチ選択」画面を表示します。



## カスタムレイヤー画面

「カスタムレイヤー」画面ではカスタムレイヤーの設定を行うことができます。カスタムレイヤーとは、チャンネルフェーダーモジュールや「マルチチャンネル」画面で表示するチャンネルの並びをユーザーが任意に組み合わせることができる機能です。[FUNCTION] スイッチをタッチして [FUNCTION] タブを表示し、タブ内の [CUSTOM LAYER] スイッチをタッチすると「カスタムレイヤー」画面を表示します。

詳しい設定方法については、「カスタムレイヤーの活用」(51ページ)をお読みください。



### ① カスタムレイヤー選択タブ [CUSTOM LAYER1~4]

設定をするカスタムレイヤーを選択します。

### ② カスタムレイヤー設定部

カスタムレイヤーにアサインするチャンネルを設定します。

設定するフェーダーに対応する設定エリアをタッチすると、以下の「チャンネルセレクト」画面が表示されます。

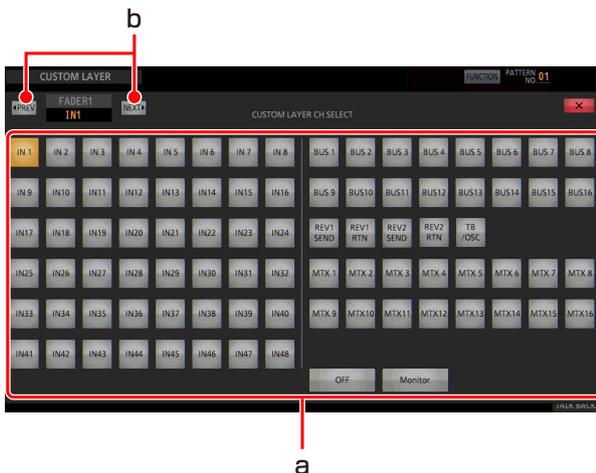
#### a. チャンネルセレクト部

「チャンネルセレクト」画面から、設定するフェーダーに表示するチャンネル（または不使用 [OFF]）をタッチして選択します。

各スイッチは択一選択です。

#### b. 表示チャンネル切り替え部 [PREV] [NEXT]

[PREV] [NEXT] スイッチをタッチすることで設定対象のフェーダーを1つ前/後にすることができます。



# 画面説明

## USBレコード画面

「USBレコード」画面では、USBフラッシュメモリーを用いた録音/再生、設定データの管理を行うことができます。

[FUNCTION] スイッチをタッチして [FUNCTION] タブを表示し、タブ内の [USB RECORD] スイッチをタッチすると「USBレコード」画面を表示します。「USBレコード」画面の表示には「USB録音/再生」画面と「設定データ保存/読み込み」画面の2種類があります。

操作手順など詳しい説明は「USBフラッシュメモリーの活用」(67ページ)をお読みください。

### ■「USB録音/再生」画面

「USB録音/再生」画面ではUSBフラッシュメモリーを用いた録音/再生を行います。



- 録音と再生を同時に行うことはできません。



#### ① ファイルパス表示

USBフラッシュメモリーのフォルダーのパスを表示します。

#### ② 再生リスト部

階層内にあるファイル情報からリスト表示を行います。選択されているファイルは橙色の枠で囲われます。以下の情報が表示されます。

- File No.
- ファイル名
- アーティスト
- 再生時間



- 再生が可能なファイル形式は下表の通りです。

形式	サンプリングレート [Hz]	ビットレート [bps]	ビット深度
MP3	8 k、16 k、32 k、11.025 k、	8-320 k	—
WAV	22.05 k、44.1 k、12 k、24 k、48 k	—	16bit

- 再生を行うファイルは接続するUSBフラッシュメモリーのルートフォルダーに格納してください。
- ファイル名とアーティスト名はASCII文字のみが表示可能です。それ以外の文字が設定された場合はファイルの表示、および再生が適切に行えない場合があります。
- 表示可能なファイル数の上限は300ファイルまでです。
- 曲数が多い場合は、読み込みに時間がかかる場合があります。

# 画面説明

## ③ ページ切り替え操作部

[▲] / [▼] スイッチをタッチすると、表示するページを切り替えます。

## ④ ステータス表示部

本体モニターセクションに接続されたUSBフラッシュメモリの空き容量、またはステータスを表示します。空き容量表示以外の場合の各表示内容は、以下の状態を表します。

Unconnected (白文字) : 未接続状態

Error (赤文字) : 接続中エラー発生

Out of memory (赤文字) : 書き込み容量不足状態

## ⑤ ファイル選択部

[▲] / [▼] スイッチをタッチすると、1つ上/下のファイルを選択できます。

## ⑥ 録音/再生操作部

録音と再生の操作を行います。

## ⑦ ファイル情報表示部

再生されているファイルについて、以下の情報を表示します。

- File No.
- ファイル名
- アーティスト
- 再生時間



- 録音が行われている間は録音経過時間を表示します。

## ⑧ 再生モニター部

再生レベルの調整とモニターを行います。

## ⑨ 録音モニター部

録音レベルの調整とモニターを行います。

## ⑩ 「設定データ 保存/読み込み」 / 「USB録音/再生」画面切り替えタブ

[DATA SAVE/LOAD]

[USB RECORD/PLAYBACK]

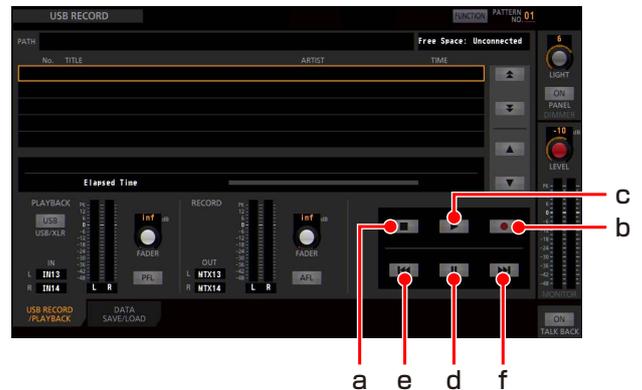
「設定データ 保存/読み込み」画面と「USB録音/再生」画面を切り替えます。



- USBフラッシュメモリーからの再生、および録音中は [DATA SAVE/LOAD] タブはタッチしても反応しません。

## ● 録音/再生操作部

USBフラッシュメモリーからの録音と再生の操作を行います。



### a. 停止スイッチ [■]

再生中にタッチすると再生を停止します。

録音中にタッチすると、録音を停止します。録音待機中にタッチすると録音待機状態を解除します。

### b. 録音待機スイッチ [●]

タッチすると録音待機状態になります。

録音待機中、録音中は点灯します。

### c. 再生スイッチ [▶]

タッチすると再生リスト部で選択中のファイルの再生を開始します。また、録音待機中にタッチすると録音を開始します。再生中、録音中は点灯します。

### d. 一時停止スイッチ [⏸]

再生中にタッチすると再生を一時停止します。また、録音中にタッチすると録音を一時停止します。一時停止、または録音待機中は点灯します。

### e. 前スイッチ [◀◀]

再生中、または一時停止中にタッチするとファイルの先頭から再生します。長押しすると巻き戻しを行います。タッチしている間、点灯します。



- 曲の先頭の状態かつ、前の曲が存在しないとき/録音中/停止中は [◀◀] スイッチをタッチしても反応しません。

### f. 次スイッチ [▶▶]

再生中にタッチすると次のファイルの先頭から再生します。長押しすると早送りを行います。タッチしている間、点灯します。

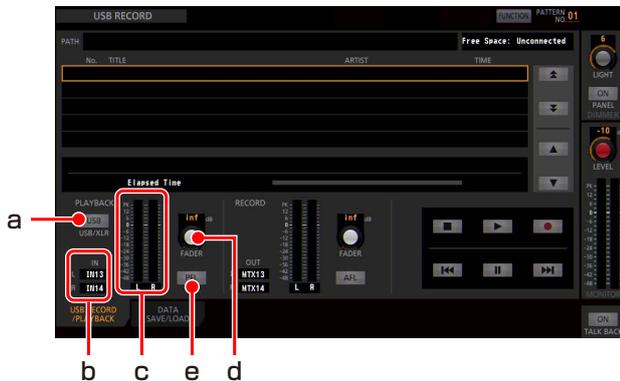


- 録音中/停止中は [▶▶] スイッチをタッチしても反応しません。

# 画面説明

## ●再生モニター部

USBフラッシュメモリーからの再生の設定とモニターを行います。



### a. USB/XLR切り替えスイッチ [USB]

タッチすると点灯し、アナログインプット13/14への入力をそれぞれUSBからの再生信号L/Rに切り替えます。もう一度タッチすると消灯し、アナログインプット13/14への入力を本体リアパネルの [INPUT 13、14] 端子 (XLR) に切り替えます。



- 以下の操作を行うと、本スイッチは自動的に消灯し、アナログインプット13/14への入力が [INPUT 13、14] 端子 (XLR) に切り替わります。
  - ・ USBフラッシュメモリーの挿入を本機が認識していないとき
  - ・ 「設定データ 保存/読み込み」画面を表示したとき

### b. USB IN表示

インプット13/14チャンネルに、アナログインプット13/14がアサインされているときに [IN13] をLに、[IN14] をRに表示します。

### c. 再生レベルメーター

インプット13/14チャンネルにアナログインプット13/14がアサインされているとき、インプット13/14のレベルメーターを表示します。

### d. 再生レベルフェーダー [FADER]

タッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、インプット13/14チャンネルのフェーダーレベルを調整することができます。



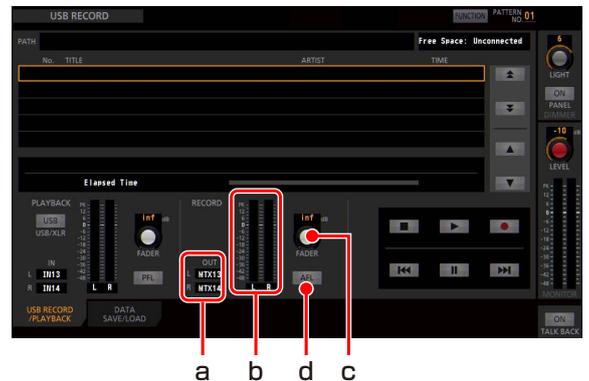
- レベル表示はUSB出力 Lチャンネル (インプット13チャンネル) にアナログインプット13がアサインされているときのみ行います。
- フェーダーレベルの制御はUSB出力 Lチャンネル (インプット13チャンネル) とUSB出力 Rチャンネル (インプット14チャンネル) のレベル差を保って同時に制御します。

### e. プリフェーダーリッスンスイッチ [PFL]

タッチするとON (点灯) になり、USB出力 (アナログインプット13/14) がアサインされているインプット13/14チャンネルをモニターすることができます。もう一度タッチするとOFF (消灯) になります。

## ●録音モニター部

USBフラッシュメモリーへの録音の設定とモニターを行います。



### a. USB OUT表示

アナログアウトプット13/14にアサインされているマトリクスチャンネル、またはバスチャンネルをそれぞれL/Rに表示します。

### b. 録音レベルメーター

L/Rにそれぞれアナログアウトプット13/14にアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルのレベルメーターを表示します。

### c. 録音レベルフェーダー [FADER]

タッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して、アナログアウトプット13/14にアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルのフェーダーレベルを調整することができます。



- レベル表示はアナログアウトプット13にアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルのみ行います。
- フェーダーレベルの制御はアナログアウトプット13にアサインされているチャンネルと、アナログアウトプット14にアサインされているチャンネルのレベル差を保って同時に行われます。

### d. アフターフェーダーリッスンスイッチ [AFL]

タッチするとON (点灯) になり、アナログアウトプット13/14にアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルをモニターすることができます。もう一度タッチするとOFF (消灯) になります。

# 画面説明

## ■「設定データ 保存/読み込み」画面

「設定データ 保存/読み込み」画面ではUSBフラッシュメモリーを用いた設定データの保存/読み込みを行うことができます。



### ⑪ データリスト部

階層内にある設定データファイル情報からリスト表示を行います。選択されている設定データは橙色の枠で囲まれます。

以下の情報が表示されます。

- File No.
- ファイル名



- ファイル名はASCII文字のみが表示可能です。それ以外の文字が設定された場合はファイルの表示、および読み込みが適切に行えない場合があります。
- ファイルはUSBフラッシュメモリーのルートフォルダー上にある「DX350」という名称のフォルダーから読み込まれます。  
※該当するフォルダーが存在しない場合、自動的に作成されます。
- 表示可能なファイル数の上限は99ファイルまでです。

### ⑫ 保存スイッチ [SAVE]

タッチすると現在の設定データファイルを作成します。

### ⑬ 読み込みスイッチ [LOAD]

タッチすると、現在データリスト部で選択されている設定データを読み込みます。

# 音を加工する

本機には、以下のような機能が内蔵されています。

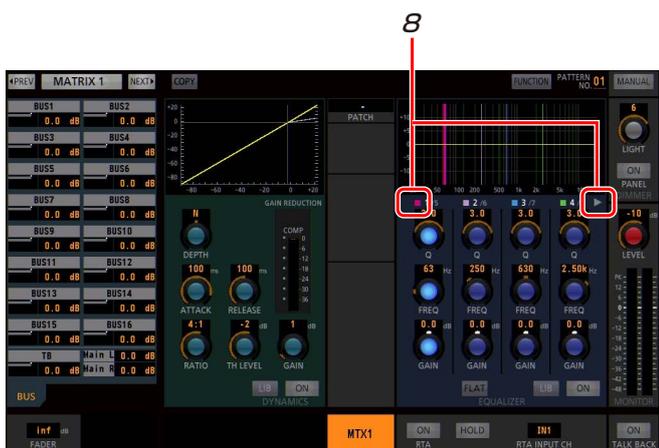
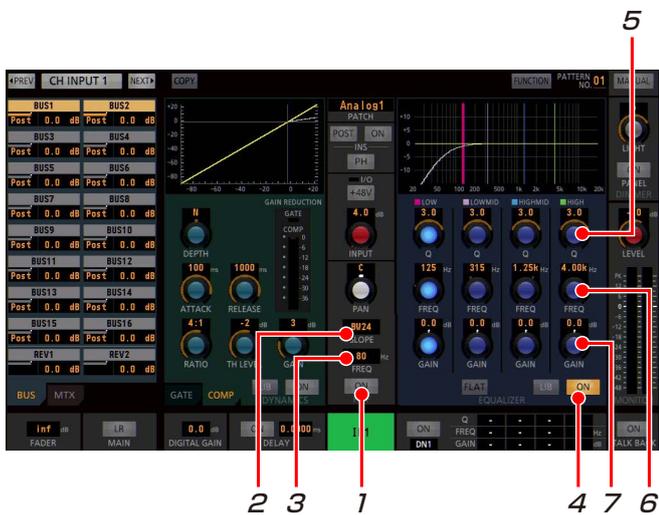
- イコライザー (EQ) (下記)
- ダイナミクス (DYN) (45ページ)
- ダイナミックノッチ (D-NOTCH) (46ページ)
- リバーブ (REVERB) (47ページ)
- ディレイ (DELAY) (48ページ)

## イコライザーの設定

イコライザーを使って、音声信号の特定の周波数帯域を強調/減衰させることができます。

### ■ PEQの設定

PEQ (パラメトリックイコライザー) には、インプットまたはバスで調整できる4バンドイコライザーと、マトリクスで調整できる8バンドイコライザーがあります。「シングルチャンネル」画面のイコライザー設定部で設定します。



イコライザー設定は、次の手順で行います。

1. HPFの[ON]スイッチをタッチして、ハイパスフィルターを設定します。

消灯：イコライザー設定 (手順2へ)

点灯：HPF設定 (手順8へ)

2. SLOPE設定エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを使ってハイパスフィルターのスロープを選択します。

- 設定が本調整ボックスに表示されます。  
設定範囲：-6、-12、-18、-24

3. 周波数設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを使ってハイパスフィルターのカットオフ周波数を調整します。

- 調整値が本調整ボックスに表示されます。  
設定範囲：20 Hz~1.8 kHz

4. イコライザー [ON] スwitchをON (点灯) にします。

- 選択したインプットチャンネルのイコライザー機能が働きます。

5. Q調整ノブを使ってパラメーターを調整します。

- 設定値が本調整ノブ上部のボックスに表示されます。  
設定範囲：SHL、SHH、0.3~30  
SHL：4バンドイコライザーのLOW、  
8バンドイコライザー-Band1のみ  
SHH：4バンドイコライザーのHIGH、  
8バンドイコライザー-Band8のみ

6. 周波数調整ノブを使ってパラメーターを調整します。周波数はグラフ上に縦線でバンド別に違う色で表示します。選択中のバンドの縦線が太く表示されます。

- 調整値はノブ上部に表示します。

7. ゲイン調整ノブを使ってパラメーターを調整します。

- 調整値はノブ上部に表示します。  
設定範囲：-15 dB~+15 dB

8. イコライザーバンドを選択します。

- チャンネル種別が「MATRIX」のときに表示します。[◀] スwitchをタッチするとバンド1~4、[▶] スwitchをタッチするとバンド5~8の調整を行うことができます。

# 音を加工する

## ■ PEQとGEQの切り替え設定

マトリクスチャンネルのイコライザーは31バンドのGEQ（グラフィックイコライザー）に変更することができます。PEQ/GEQの切り替えは「ユーティリティ」画面で行います。



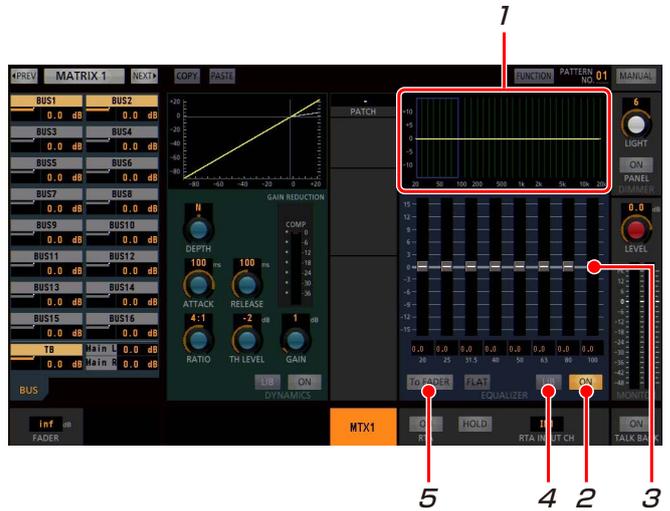
1. 「AUDIO」タブを選択します。
2. [PREV] [NEXT] スイッチをタッチして、「Page 3/5」「Page 4/5」または「Page 5/5」にします。
3. 「FUNCTION」欄の項目が「PEQ/GEQ」になっている行の「DATA」列をタッチするとその行が反転します。
4. 反転表示された状態で、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して「DATA」欄で割り当てたい操作スイッチ「GEQ」を選択します。
5. 1～4の設定を行うと [ENTER] スイッチが橙色点灯しタッチすることで設定内容が反映されます。



- [ENTER] スイッチをタッチする前に、「ユーティリティ」画面から他の画面に遷移すると設定した内容が破棄されます。

## ■ GEQの設定

GEQ（グラフィックイコライザー）はマトリクスチャンネルで選択できる31（1/3オクターブ）バンドのイコライザーです。「シングルチャンネル」画面のイコライザー設定部で設定します。



1. HPF/EQグラフをタッチして、調整を行う周波数帯域を選択します。
  - 選択された帯域が青色の枠線で囲われます。
2. イコライザー [ON] スイッチをON（点灯）にします。
  - 選択したマトリクスチャンネルのイコライザー機能が動きます。
3. 調整を行う周波数のGEQゲイン設定フェーダーをタッチし、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して、ゲインを調整します。
4. イコライザーライブラリー画面を表示します。
  - [LIB] スイッチをタッチします。「ユーティリティ」画面、イコライザーライブラリー画面に遷移します。
5. [To FADER] スイッチをタッチすると本体チャンネルフェーダーモジュールを用いてGEQの調整ができます。
  - GEQゲイン設定フェーダーが本体チャンネルフェーダーと対応し、チャンネルディスプレイに調整できる周波数とゲインが表示されます。



- GEQゲイン設定フェーダーを本体チャンネルフェーダーモジュールに表示する設定項目は以下の条件により決定します。
  - ・ HPF/EQグラフ上の青枠が20 Hz～100 Hz または125 Hz～630 Hzを囲んでいるとき → 20 Hz～630 Hzの16バンド
  - ・ HPF/EQグラフ上の青枠が800Hz～4 kHzまたは5 kHz～20 kHzにあるとき → 800 Hz～20 kHzの15バンド、アウトプットゲイン

# 音を加工する

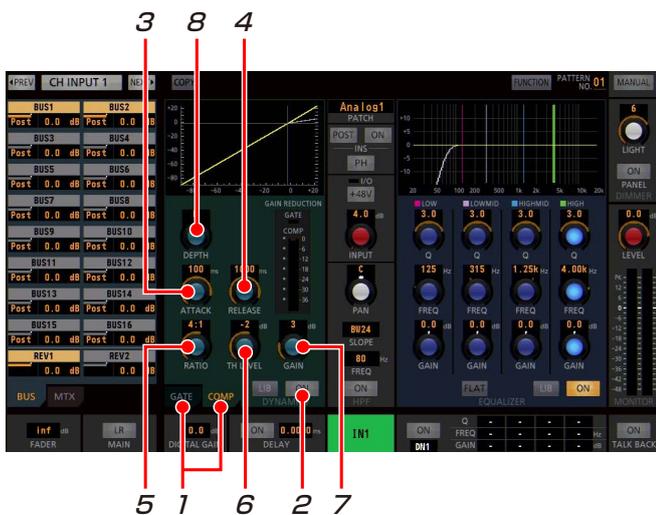
## ダイナミクスの設定

ダイナミクスを使って、楽器、ボーカル等の音量を調整することができます。

本機ではダイナミクスとして以下の機能があります。

- コンプレッサー：一定レベル以上の音声信号を圧縮する機能。
- ゲート：一定レベル以下の音声信号を減衰する機能。  
インプットチャンネルのみ設定可能です。

「シングルチャンネル」画面のダイナミクス設定部で設定します。



ダイナミクス設定は、次の手順で行います。

1. [GATE] / [COMP] スイッチをタッチし、設定するダイナミクスのタイプを選択します。
2. ダイナミクス [ON] スイッチをON (点灯) にします。
3. [ATTACK] ノブを使用してアタック時間を調整します。  
調整範囲：0 ms~250 ms
4. [RELEASE] ノブを使用してリリース時間を調整します。  
調整範囲：5 ms~2000 ms
5. [RATIO] ノブを使用しての圧縮量を調整します。  
(コンプレッサー機能選択時のみ)  
調整範囲：1:1~inf:1
6. [TH LEVEL] ノブを使用して圧縮効果がかかり始める音量を調整します。  
左に回すと減少し、右に回すと増加します。  
調整範囲：-36 dB~+24 dB

7. [GAIN] ノブを使用して音量を調整します。  
右に回すと0.5 dBずつ増加し、左に回すと0.5 dBずつ減少します。(コンプレッサー機能選択時のみ)  
調整範囲：0 dB~+12 dB

8. [DEPTH] ノブを使用してダイナミクス効果のかけ具合を調整します。(コンプレッサー機能選択時のみ)

- [DEPTH] ノブを操作すると3~7のパラメーターも連動して変化します。
- コンプレッサーのDEPTHは標準設定N (ニュートラル) を中心に、ハードなH1~H10 (右に回す) とソフトなS1~S10 (左に回す) の21段階から選択することができます。また、各値は下表のような音源を想定して調整されており、それぞれハードタイプとソフトタイプを選択できます。

DEPTH値	推奨音源
N	標準的な設定です。どんな音源でも無難に使用できます。
S1 H1	ピアノ、オルガン、シンセサイザー等の鍵盤楽器に適した設定です。
S2 H2	アコースティックギター、エレキギターなどに適した設定です。
S3 H3	ナレーションに適した設定です。
S4 H4	カラオケなどのボーカルに適した設定です。
S5 H5	バスドラムやベースなど、低音楽器に適した設定です。
S6 H6	ドラムに適した設定です。シンバル、スネアドラムなどに個々にかけるよりは、ドラムセット全体としてかけたほうが効果的です。
S7 H7	パーカッション類の楽器に適した設定です。
S8 H8	オーケストラ、ブラスバンド、カラオケの伴奏などに適した設定です。
S9 H9	銃声や爆発音などの効果音 (SE) に適した設定です。
S10 H10	子供の声など、抑揚の大きな声に適した設定です。



- コンプレッサーのアタック時間、またはリリース時間の設定を極端に小さい設定を使用した場合、音声入力時にノイズが発生することがあります。使用する音源ソースに合わせて適切に設定を行ってください。

# 音を加工する

## ダイナミックノッチの設定

ダイナミックノッチは運用中リアルタイムにハウリング周波数の検出を行い、その周波数にノッチフィルターをかけてハウリングを抑制する機能です。ハンドマイクなど環境が刻々と変化する機器に対して有効です。

ダイナミックノッチはモノラル設定のインプットチャンネルに設定することができ、1～16チャンネルで8チャンネル、17～32チャンネルで8チャンネル、合計16チャンネルまで設定することができます。

「シングルチャンネル」画面のダイナミックノッチ設定部で設定します。



1. ダイナミックノッチ [ON] スイッチをON/OFF設定します。  
OFF→ON ダイナミックノッチがハウリング検出動作を開始し、常時ハウリング検出動作します。  
ON→OFF 検出済みのハウリングポイントをクリアし、ハウリング検出動作を停止します。
2. ダイナミックノッチ設定を表示します。
  - ダイナミックノッチ機能で検出したハウリングの抑制設定を表示します。



- ダイナミックノッチアサイン表示欄にDN1～16のいずれかが表示されていることを確かめてください。ダイナミックノッチを使用できないチャンネルを選択時にはDN1～16は表示されません。  
この場合、「ユーティリティ」画面でDN1～16のいずれかを該当チャンネルに割り当ててください。(93ページ)
- ダイナミックノッチは本機のサンプリングレート設定が48 kHzのときのみ使用可能です。サンプリングレートの設定が96 kHzのときにはダイナミックノッチ設定部は表示されません。サンプリングレート設定についての詳細は付録1(87ページ)をお読みください。

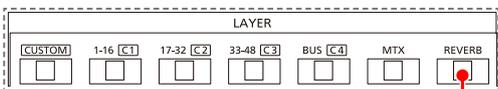
# 音を加工する

## リバーブの設定

入力した音声に残響効果を与える機能です。

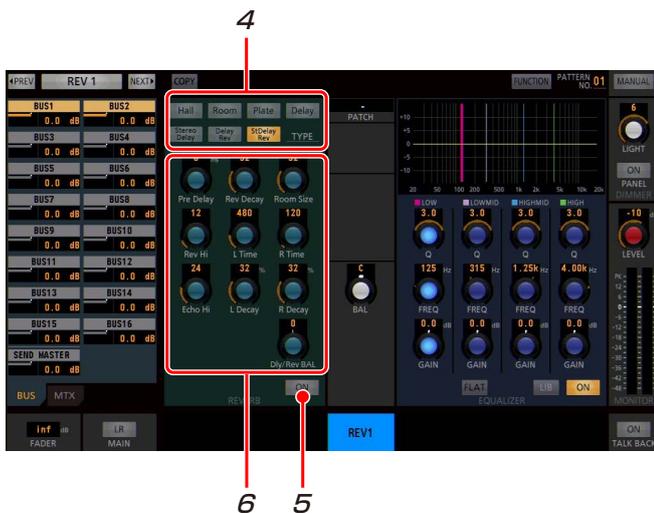
リバーブをかける入力チャンネルの「シングルチャンネル」画面上、バスセンド部をタッチし、「バスセンド」画面を表示します。

1. 「バスセンド」画面のREV1またはREV2のセンドノブをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してセンド量を設定します。
2. 「バスセンド」画面のREV1またはREV2の [ON] スイッチをタッチしてON (点灯) にします。
3. 本体レイヤー選択部の [REVERB] スイッチを押します。



[REVERB] スイッチ

- REV1の「シングルチャンネル」画面を表示します。



4. リバーブタイプスイッチ [Hall] [Room] [Plate] [Delay] [Stereo Delay] [Delay Rev] [StDelay Rev] から使用するタイプのスイッチをタッチして選択します。

- 使用できるタイプには以下の7種類があります。
  - Hall : ホールのような大きな空間の残響感です。
  - Room : 部屋の中のような残響感です。
  - Plate : 鉄板リバーブのようなブライツな残響感です。
  - Delay : モノラルのディレイです。
  - Stereo Delay : ステレオのディレイです。
  - Delay Rev : モノラルのディレイとリバーブが組み合わされたエフェクトです。
  - StDelay Rev : ステレオのディレイとリバーブが組み合わされたエフェクトです。

5. リバーブスイッチ [ON] をON (点灯) にします。
  - リバーブが有効になります。
6. パラメーター設定部の各ノブでエフェクトの詳細な調整を行います。
  - 以下の調整が可能です。

ノブ名称	機能	表示タイプ
Pre Delay	リバーブの初期反射到達時間を調整します。	Hall、Room、Plate、DelayRev、StDelayRev
Decay	リバーブの減衰の早さを調整します。	Hall、Room、Plate
F.B	ディレイの減衰の早さを調整します。	Delay、DelayRev
Room Size	リバーブで模擬する部屋の大きさを調整します。	Hall、Room、Plate、DelayRev、StDelayRev
Hi	高音域の減衰を調整します。	Hall、Room、Plate、Delay、StereoDelay
Time	ディレイの繰り返しの早さを調整します。	Delay
L Time	ステレオディレイのLchの繰り返しの早さを調整します。	StereoDelay、StDelayRev
R Time	ステレオディレイのRchの繰り返しの早さを調整します。	StereoDelay、StDelayRev
L F.B	ステレオディレイのLchの減衰の早さを調整します。	StereoDelay、StDelayRev
R F.B	ステレオディレイのRchの減衰の早さを調整します。	StereoDelay、StDelayRev
Rev Decay	リバーブの減衰の早さを調整します。	DelayRev、StDelayRev
Rev Hi	リバーブの高音域の減衰を調整します。	DelayRev、StDelayRev
Echo Hi	エコーの高音域の減衰を調整します。	DelayRev、StDelayRev
Echo Time	エコーの繰り返しの早さを調整します。	DelayRev
Dly/Rev BAL	ディレイとリバーブのバランスを調整します。	DelayRev、StDelayRev

各パラメーターの設定範囲、最小ステップについては「仕様」(78ページ)をご参照ください。

# 音を加工する

## インプットディレイの設定

入力信号を一定時間遅延させることで各入力機器の位相あわせなどを行う機能です。

インプットチャンネルに設定することができます。

「シングルチャンネル」画面の入力パラメーター設定部のディレイ設定で設定します。



1. ディレイ [ON] スイッチをタッチしON (点灯) すると、ディレイを有効にできます。
2. ディレイの設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してディレイタイムの調整を行います。



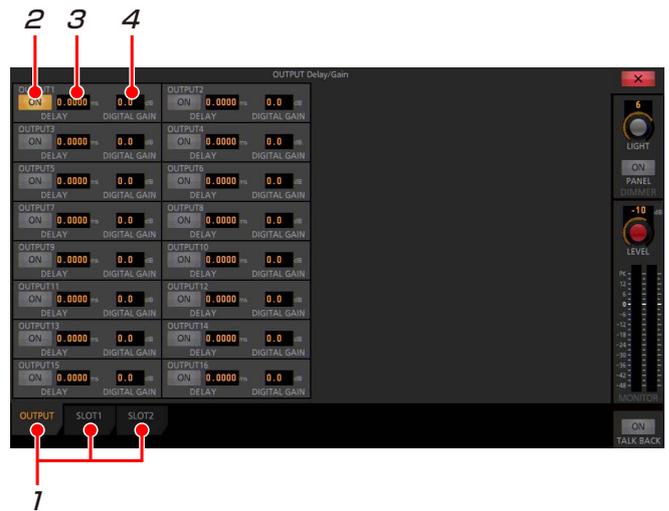
- 「ユーティリティ」画面の設定で、表示単位を時間 (ms) と距離 (m : Meter) で切り替えることができます。詳しくは付録2 (88ページ) をお読みください。

## アウトプットディレイ/ゲインの設定

信号出力を一定時間遅延、増幅、減衰させ、スピーカー間の位相あわせや音の方向制御などを行う機能です。

各アウトプットに設定することができます。

[FUNCTION] タブの [OUTPUT Delay/Gain] スイッチをタッチすることで表示される、以下の「アウトプットディレイ/ゲイン」画面で設定を行います。



1. 設定を行うアウトプットチャンネルが含まれるタブをタッチして選択します。
  - [OUTPUT] タブ : 本機リアパネルに搭載されているアウトプット 1~16 [OUTPUT1~16] が所属しています。
  - [SLOT 1] タブ : 本機リアパネルのSLOT 1に標準搭載されているDanteカードの出力が所属しています。
  - [SLOT 2] タブ : 本機リアパネルのSLOT 2に追加搭載させた、Danteカードの出力が所属しています。
2. 該当するアウトプットのディレイ [ON] スイッチをタッチしON (点灯) にすると、ディレイを有効にできます。
3. 該当するアウトプットのディレイの設定値エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してディレイタイムの調整を行います。



- 「ユーティリティ」画面の設定で、表示単位を時間 (ms) と距離 (m : Meter) で切り替えることができます。詳しくは付録2 (88ページ) をお読みください。

4. 該当するアウトプットのゲインを設定する場合は、デジタルゲイン設定エリアをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回してデジタルゲインの値を設定します。

# その他の機能

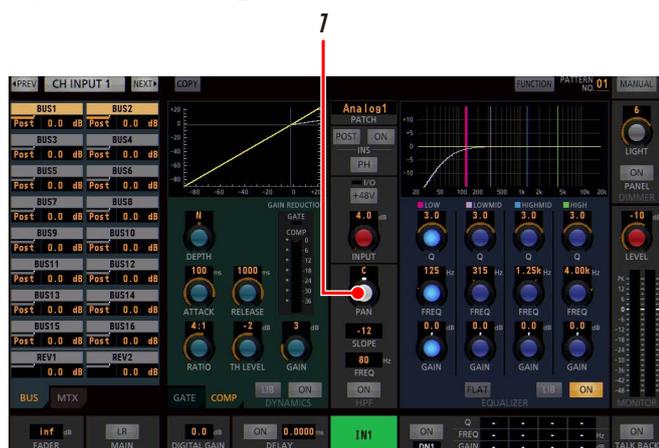
本機には、この他にも以下のような機能があります。ここでは以下の機能について説明します。

- PAN/BALの設定 (下記)
- オートミックス (50ページ)
- リアルタイムアナライザーの活用 (50ページ)
- カスタムレイヤー (51ページ)
- センズ&マスター (53ページ)
- アサインブルキー (55ページ)
- チャンネルコピー (57ページ)
- ライブラリー (59ページ)
- パターンメモリー (60ページ)
- ミュートグループ (61ページ)
- フェーダーグループ (62ページ)
- データ初期化 (63ページ)
- ユーザーレベル (64ページ)
- モノラルとステレオの切替設定 (65ページ)
- モノラルとフェーダーリンクの切替設定 (66ページ)
- USBフラッシュメモリーの活用 (67ページ)
- 入出力パッチの設定 (70ページ)
- Danteパッチの設定 (73ページ)
- Dante機器の設定 (75ページ)

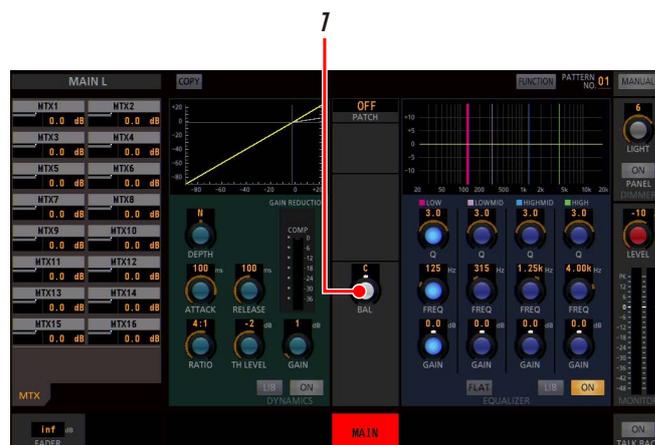
## PAN/BALの設定

ステレオバスに送出するときの定位を調整します。  
モノラルチャンネルでは一つの音を分配するPAN (パンポット)、ステレオチャンネルでは左右の入力に対して片方の入力を固定したままもう片方の入力を減衰させるBAL (バランス) となります。  
チャンネル種別が「INPUT」「BUS」「MAIN」「TALKBACK/OSC」「REVERB」の場合に表示します。

「モノラルチャンネル」



「ステレオチャンネル」



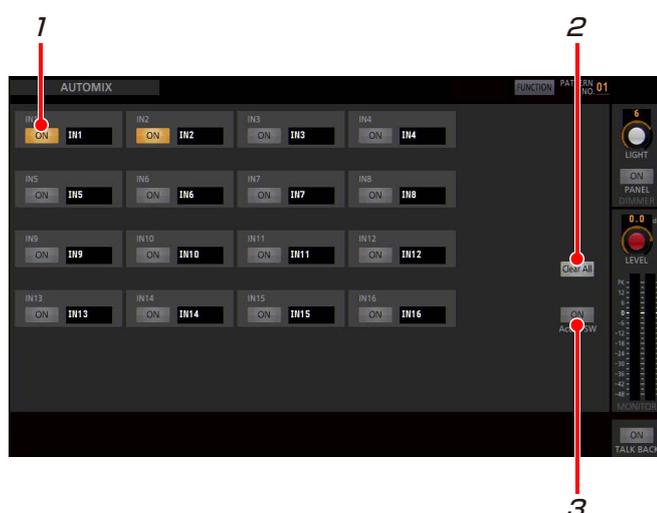
1. [PAN] / [BAL] レベルノブをタッチし、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して調整します。
  - 本体の [PAN] / [BAL] ノブを用いても同様の操作ができます。
  - 設定値を本調整ノブ上側のボックスに表示します。設定範囲：L16~C~R16

# その他の機能

## オートミックスの活用

オートミックスは使用されていないマイクのレベルを自動的に下げること、ノイズ要因を低減する機能です。設定済みの入力チャンネルのゲイン調整を自動で行い、オペレーターの負担を軽減することができます。複数のマイクを使用するパネルディスカッションなどの催しや、演劇などのシーンでより効果を発揮します。オートミックスの設定は以下の「オートミックス」画面で行います。「オートミックス」画面は[FUNCTION]タブ内の[Auto Mix]スイッチをタッチすることで表示します。

### ■ オートミックスの設定



1. オートミックス機能を使用する入力チャンネルのオートミックスON/OFFスイッチ [ON] をタッチして有効 (点灯) にします。もう一度タッチするとOFFになります。
2. クリアオールスイッチ [Clear All] をタッチすると、手順 1 で設定したオートミックス機能を有効にしているチャンネルをすべて無効にします。
3. アクティブスイッチ [ON] をタッチして、オートミックス機能全体を有効 (点灯) にします。オートミックス機能全体を無効にする場合はもう一度タッチします。



- オートミックス機能は入力チャンネル 1~16 に対してのみ有効にすることができます。

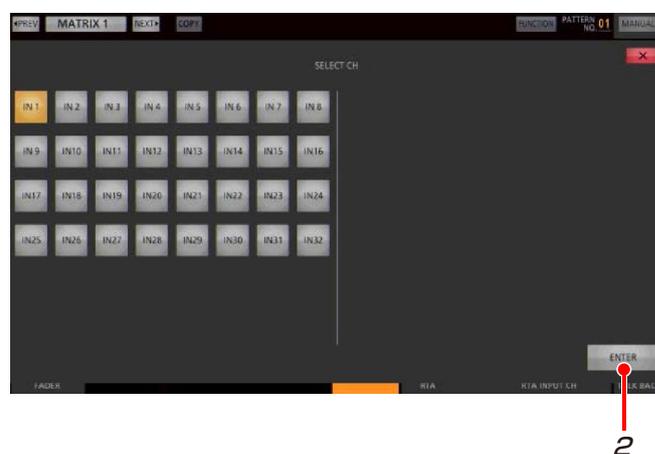
## リアルタイムアナライザーの活用

「シングルチャンネル」画面でマトリクスチャンネルを表示している際に、設定した入力チャンネルに入力されている音声のスペクトラムをリアルタイムでEQグラフに表示することができます。リアルタイムアナライザーの設定は、リアルタイムアナライザーの表示を行うマトリクスチャンネルを選択中の「シングルチャンネル」画面から行います。

### ■ リアルタイムアナライザーの設定



1. [RTA INPUT CH] をタッチして、以下の「チャンネルセレクト」画面を表示します。



2. 入力音声のスペクトラムを表示したい入力チャンネルを選択し、[ENTER] スイッチをタッチします。
3. [ON] スイッチをタッチするとスイッチが点灯し、リアルタイムアナライザーが有効になり、EQグラフにスペクトラムを31バンドのバーグラフ表示を行います。もう一度タッチすると消灯し、スペクトラム表示を行いません。

## その他の機能

4. [HOLD] スイッチをタッチすると点灯し、点灯中はスペクトラムのピークをホールド表示することができます。この際、ホールド表示されたスペクトラムは赤色で表示され、前面に白色で現在のスペクトラムを表示します。

もう一度タッチすると消灯し、ホールド表示されていたスペクトラムはクリアされます。



- RTAの [ON] スイッチをOFF (消灯) にした際もピーク表示をリセットします。

## カスタムレイヤーの活用

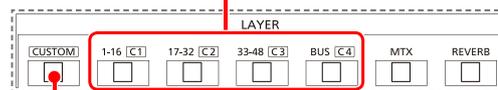
カスタムレイヤーにより、チャンネルフェーダーモジュールのフェーダーレイアウトを自在に設定でき、入力フェーダーと出力フェーダーを同時に操作することができます。カスタムレイヤーは4種類設定することができます。カスタムレイヤーの各フェーダーへのチャンネルのアサインは「カスタムレイヤー」画面で行います。

### ■ カスタムレイヤーへの切り替え設定

本体のフェーダーレイヤー操作部のカスタムレイヤー選択スイッチ [CUSTOM] を押しON (点灯) にすると、インプトレイヤー選択スイッチ [1-16 C1]、[17-32 C2]、[33-48 C3] およびバスレイヤー選択スイッチ [BUS C4] がそれぞれカスタムレイヤー1~4の選択スイッチとなります。

カスタムレイヤー1~4スイッチを押すとチャンネルフェーダーモジュールにカスタムレイヤー1~4を表示します。

カスタムレイヤースイッチ  
([CUSTOM] スイッチONのとき)



[CUSTOM] スイッチ

フェーダーレイヤー操作部



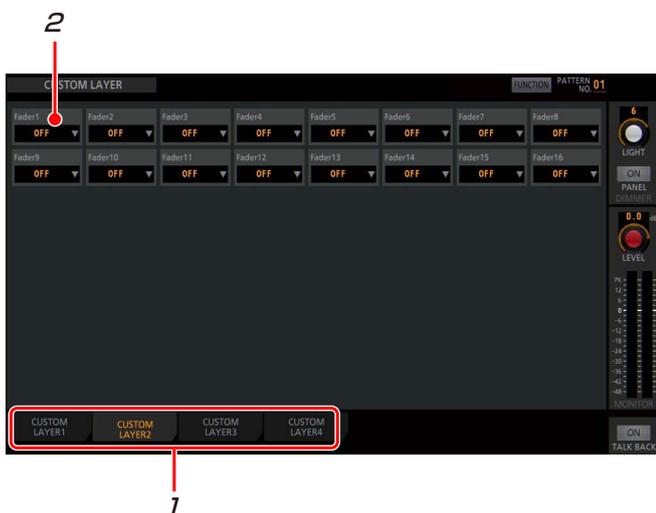
- カスタムレイヤー選択時には、チャンネル間のモノラルとステレオの切り替えはできません。

## その他の機能

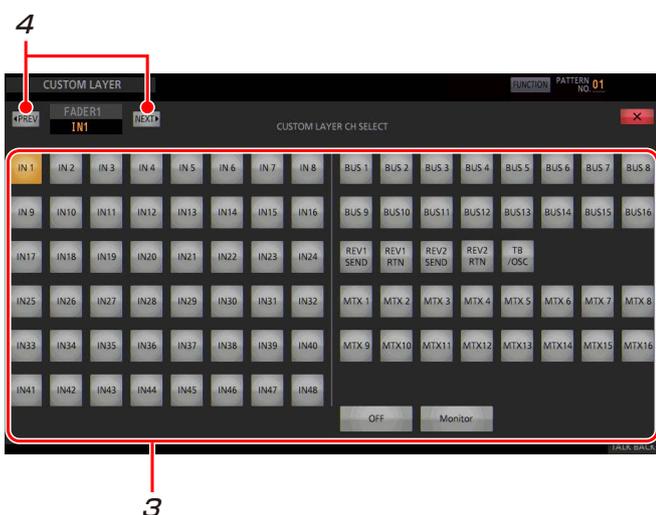
### ■ フェーダーのチャンネル設定

1～4のカスタムレイヤーそれぞれに対して、各フェーダーへのチャンネルアサインは下記の「カスタムレイヤー」画面で行います。

「カスタムレイヤー」画面は [FUNCTION] タブ内の [CUSTOM LAYER] スイッチをタッチすることで表示されます。



1. カスタムレイヤー選択タブ [CUSTOM LAYER1～4] の内から設定するカスタムレイヤーを選択します。
2. 設定するフェーダーに対応する設定エリアをタッチして、以下の「チャンネルセレクト」画面を表示します。



3. 「チャンネルセレクト」画面から、設定するフェーダーに表示するチャンネル（または不使用OFF）を選択します。
4. [PREV] / [NEXT] スイッチをタッチすることで設定対象のフェーダーを1つ前/後にすることができます。



- [TB/OSC] をアサインした場合、本体チャンネルフェーダーモジュールのフェーダーで操作できるのはトークバックレベルです。
- [TB/OSC] をアサインした場合、本体チャンネルフェーダーモジュールのチャンネルON/OFFスイッチ操作できるのはトークバックスイッチです。
- [Monitor] をアサインした場合、本体チャンネルフェーダーモジュールのチャンネルON/OFFスイッチを押しても反応しません。
- PFL/AFLの出力機能を持たないチャンネルをアサインした場合は、本体チャンネルフェーダーモジュールのPFL/AFLスイッチを押しても反応しません。

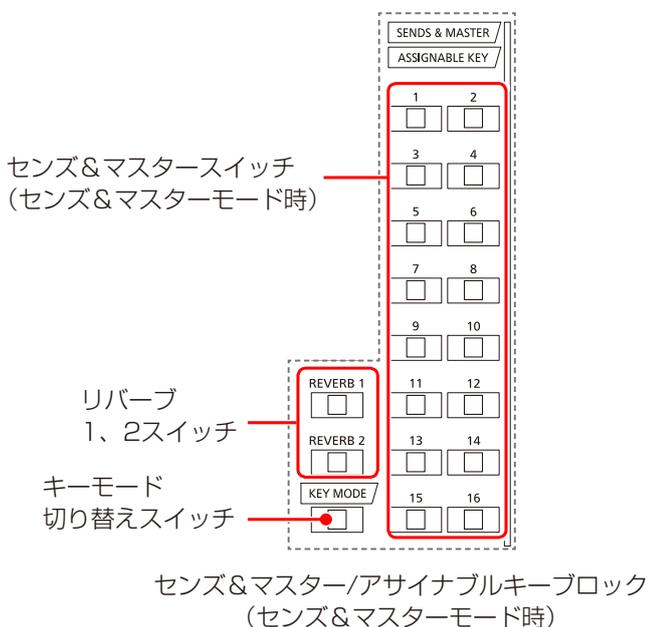
# その他の機能

## センズ&マスターの活用

センズ&マスター機能を使用することで、バス/マトリクスチャンネルへ各チャンネル信号を送る際のレベル調整を本体チャンネルフェーダーで行うことができます。

### ■ センズ&マスターモードの切り替え設定

本体センズ&マスター/アサインブルキーブロックのキーモード切り替えスイッチが緑色点灯しているときは、本ブロックはセンズ&マスターモードで動作します。キーモード切り替えスイッチを押すことでスイッチの緑色点灯/橙色点灯を切り替えることができます。橙色点灯時、本ブロックはアサインブルキーモードで動作します。



### ■ センズ&マスターモードの動作

センズ&マスターモードでのセンズ&マスタースイッチ [1~16] とリバーブ1、2スイッチ [REVERB1、2] の動作/機能は表示中のレイヤーとインプット/リバーブチャンネルでの [BUS] / [MTX] タブの選択状況によって異なります。スイッチを押すことにより設定される機能は以下の3種類があります。

- Send To BUS : バスへのセンドレベル調整を行います。
- Send To MTX : マトリクスへのセンドレベル調整を行います。
- Send To Rev : リバーブへのセンドレベル調整を行います。

いずれの機能も、送出先へのセンドレベル調整が本体チャンネルフェーダーで設定できるようになる機能です。センズ&マスターモード時に選択中のセンズ&マスタースイッチ [1~16] とリバーブ1、2スイッチ [REVERB1、2] は点滅し、選択可能な場合は点灯します。

### センズ&マスタースイッチ [1~16]

選択中のレイヤー	選択中のタブ	押下時に開始される機能
インプット レイヤー	[BUS]	Send To BUS
	[MTX]	Send To MTX
バスレイヤー	[MTX]	Send To MTX
マトリクス レイヤー	[BUS]	Send To MTX
リバーブ レイヤー	[BUS]	Send To BUS
	[MTX]	Send To MTX
カスタムレイヤー	[BUS]	インプット、リバーブ、 トークバック/オシレーター、 モニターチャンネル選択時 : Send To BUS 上記以外のチャンネル選 択時 : Send To MTX
	[MTX]	Send To MTX

## その他の機能

---

### リバーブ1、2スイッチ [REVERB1、2]

選択中のレイヤー	選択中のタブ	押下時に開始される機能
インプット レイヤー	[BUS]	Send To Rev
	[MTX]	無効
バスレイヤー	[MTX]	無効
マトリクス レイヤー	[BUS]	無効
リバーブ レイヤー	[BUS]	無効
	[MTX]	
カスタムレイヤー	[BUS]	インプットチャンネル選 択時 ： Send To BUS 上記以外のチャンネル選 択時 ： 無効
	[MTX]	無効



- センズ&マスターモードで選択が無効な状態にある [REVERB1、2] スイッチは消灯します。

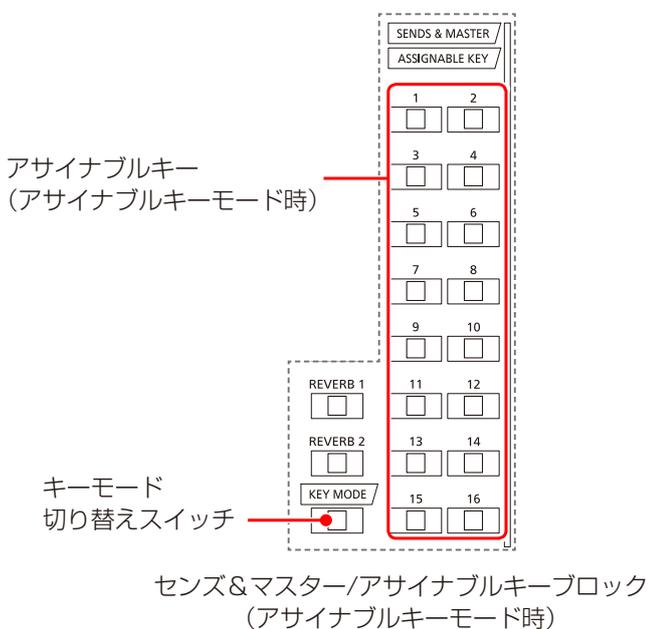
# その他の機能

## アサインブルキーの活用

アサインブルキー機能を使用することで、任意のショートカット機能を16種類まで設定することができます。本体センズ&マスター/アサインブルキーブロックがアサインブルキーモードのときに、設定済みの [1~16] スイッチを押すことによって設定された機能を実行します。

### ■ アサインブルキーモードの切り替え設定

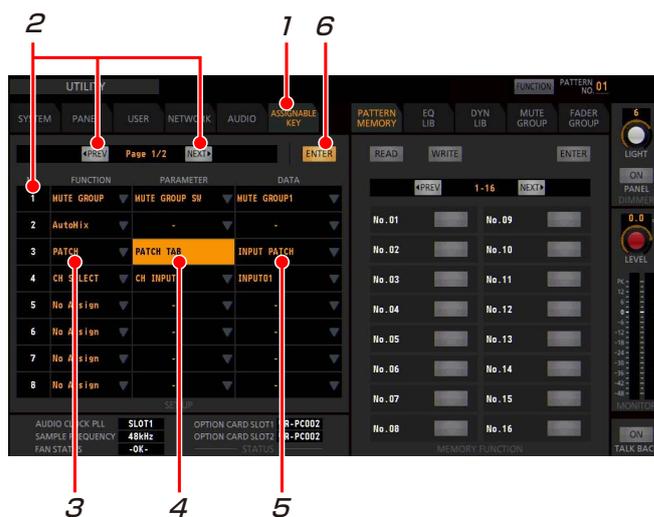
本体センズ&マスター/アサインブルキーブロックのキーモード切り替えスイッチが橙色点灯しているときは、本ブロックはアサインブルキーモードで動作します。キーモード切り替えスイッチを押すことでスイッチの緑色点灯/橙色点灯を切り替えることができます。緑色点灯時、本ブロックはセンズ&マスターモードで動作します。



- センズ&マスター/アサインブルキーブロックがアサインブルキーモードのとき、一部を除く機能が設定されているアサインブルスイッチは橙色点灯します。詳しくは付録6 (94ページ) をお読みください。

### ■ アサインブルキーの設定

アサインブルキーの有効/無効と、[1~16] の各スイッチへの機能のアサインは「ユーティリティー」画面から設定できます。



1. 「ユーティリティー」画面の [ASSIGNABLE KEY] タブをタッチします。
2. ページ送りスイッチ [PREV] [NEXT] をタッチして、機能を割り当てるスイッチの番号と対応する [No.] の所属する画面を表示します。
3. 機能を割り当てるスイッチと対応する行の [FUNCTION] 列をタッチするとその枠が反転表示されます。反転表示された状態で本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回し、割り当てる機能の大分類を選択します。
4. 機能を割り当てるスイッチと対応する行の [PARAMETER] 列をタッチするとその枠が反転表示されます。反転表示された状態で本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回し、割り当てる機能の中分類を選択します。
5. 機能を割り当てるスイッチと対応する行の [DATA] 列をタッチするとその枠が反転表示されます。反転表示された状態で本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回し、割り当てる機能を選択します。
6. 手順 1~5 の設定を行うと [ENTER] スイッチが橙色点灯し、タッチすることで設定内容が反映されます。



- [ASSIGNABLE KEY] タブ選択状態の「ユーティリティー」画面には、[FUNCTION] タブからもアクセスができます。
- [ENTER] スイッチをタッチする前に、「ユーティリティー」画面から他の画面に遷移すると設定した内容が破棄されます。
- 割り当てる機能によっては「PARAMETER」行や「DATA」行の変更が不要場合があります。
- 割り当て可能な機能の詳細は付録 6 (94ページ) をお読みください。

## その他の機能

### チャンネル名称/カラーを設定する

本体チャンネルネームディスプレイや各画面のチャンネルネーム表示部に表示するチャンネル名称、およびチャンネルカラーを変更することが可能です。

#### ■ チャンネル名称/カラーの設定

チャンネル名称/カラーは「シングルチャンネル」画面、または「マルチチャンネル」画面から変更することができます。シングルチャンネル画面のチャンネル名称表示部をタッチすると、以下の「チャンネルネームセッティング」画面が表示されます。



#### a. キーボード

半角英数字で文字を入力します。入力した文字は、入力内容表示部に表示されます。

#### b. 入力内容表示部

キーボードで入力した文字を最大半角英数8文字表示します。

#### c. チャンネルカラー選択スイッチ

[OFF]、[Blue]、[Green]、[Cyan]、[Red]、[Magenta]、[Yellow]、[Orange]、[Purple]

消灯 (OFF) を含めた9つの選択肢から所望の色をタッチして選択します。

選択した色は枠の表示が変更されます。



- 設定したチャンネル名称は「シングチャンネル」画面/「マルチチャンネル」画面のチャンネル名称表示部、および本体チャンネルフェーダーモジュールのチャンネルネームディスプレイでの表示にも反映されます。
- 選択したチャンネルカラーは、本体チャンネルフェーダーモジュールのチャンネルインジケータの色にも反映されます。
- 「チャンネルネームセッティング」画面での設定内容は、[Enter] スイッチをタッチしなければ反映されません。

# その他の機能

## チャンネルコピーの活用

チャンネルの設定情報を、他のチャンネルにコピーすることができます。

コピー対象は、

- ① HPF/イコライザー
- ② ダイナミクス設定
- ③ バスセンド/マトリクスチャンネルのバスミキシング

設定情報です。また、コピー対象を、項目選択してコピーすることもできます。

チャンネルコピー操作部



画面上部のチャンネルコピー操作部は操作により、下記になります。

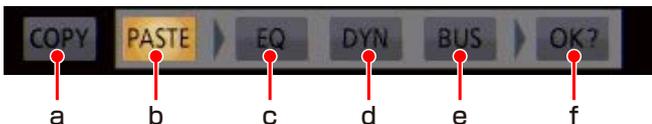
初期状態



[COPY] スイッチをタッチしたあと



[PASTE] スイッチをタッチしたあと



### a. コピースイッチ [COPY]

[COPY] スイッチをタッチすると、一定時間橙色点灯し、現在の選択されているチャンネルの設定情報がコピーされ、[PASTE] スイッチが表示されます。再度、[COPY] スイッチをタッチすると、コピーバッファにコピーされている設定情報が更新されます。

### b. ペーストスイッチ [PASTE]

[PASTE] スイッチをタッチすると、[PASTE] スイッチが橙色点灯し、[PASTE] スイッチの右に、[EQ] / [DYN] / [BUS] / [OK?] スイッチが表示されます。再度タッチすると [PASTE] スイッチは消灯し、[EQ] / [DYN] / [BUS] / [OK?] スイッチの表示がなくなります。

### c. HPF/イコライザー設定スイッチ [EQ]

ペースト対象として、HPFとイコライザー設定の項目が選択されている場合は、[EQ] スイッチが橙色点灯します。[EQ] スイッチをタッチすると消灯し、コピー対象から外すこともできます。再度タッチすると点灯し、コピー対象に含めることができます。

ペースト先のチャンネルがペースト不可の場合は、消灯します。

### d. ダイナミクス設定スイッチ [DYN]

ペースト対象として、ダイナミクス設定の項目が選択されている場合は、[DYN] スイッチが橙色点灯します。[DYN] スイッチをタッチすると消灯し、コピー対象から外すこともできます。再度タッチすると点灯し、コピー対象に含めることができます。

ペースト先のチャンネルがペースト不可の場合は、消灯します。

### e. バスセンド/マトリクスセンド/マトリクスチャンネルのバスミキシング設定スイッチ [BUS]

ペースト対象として、バスセンド (INPUTチャンネル) / マトリクスセンド (INPUTチャンネル、バスチャンネル) / マトリクスミキシング (マトリクスチャンネル) 設定の項目が選択されている場合は、[BUS] スイッチをタッチすると消灯し、コピー対象から外すこともできます。再度タッチすると点灯し、コピー対象に含めることができます。

ペースト先のチャンネルがペースト不可の場合は、消灯します。

### f. 確認スイッチ [OK?]

[OK?] スイッチをタッチするとペーストが実行され、[COPY] スイッチと [PASTE] スイッチのみの表示となります。

[EQ] / [DYN] / [BUS] スイッチが消灯していると、[OK?] スイッチも消灯となり、タッチしてもコピーは行われません。

# その他の機能

## ■ チャンネルコピーの操作

1. コピー元のチャンネルを選択します。

「マルチチャンネル」画面のときはコピー元のチャンネルをタッチします。選択されたチャンネルはチャンネルの背景色が変わります。「シングルチャンネル」画面では、コピー元のチャンネルの本体チャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチを押します。



- 「マルチチャンネル」画面でタッチ操作によるチャンネル選択を行う際、タッチするエリアによっては、そのチャンネルを選択した「シングルチャンネル」画面を表示します。この場合もタッチされたチャンネルは選択状態になります。詳しくは21ページをお読みください。

2. [COPY] スイッチをタッチします。

3. [PASTE] スイッチをタッチします。

4. 本体チャンネルフェーダーモジュールの [ACC] スイッチを押してペースト先のチャンネルを選択します。

5. [EQ]、[DYN]、[BUS] スイッチをタッチし、ペーストを行いたい項目を点灯させます。

6. [OK?] スイッチをタッチします。



- 以下の表はチャンネル間で設定情報のペースト可否を表します。

DX350パラメーターコピー/ペーストマトリクス

コピー元	コピーバッファ			ペースト先																	
	EQ	DYN	BUS	INPUT			BUS			LR			MATRIX			TB			REVERB		
	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS	EQ	DYN	BUS
INPUT	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
BUS	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
LR	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×
MATRIX	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○*	○	○	×	×	×	×	×	×
TB	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
REVERB	○	×	○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○

○：ペースト可、×：ペースト不可

※ コピー元とペースト先のチャンネルで使用されているEQタイプが一致している場合のみペースト可能

# その他の機能

## ライブラリーの活用

イコライザー（EQ）やダイナミクス（DYN）の設定をそれぞれ16個まで登録し、ライブラリーとして蓄えておくことができます。ライブラリーに登録された設定は、好きなときに呼び出すことができます。

ここでは、イコライザーライブラリーの説明をします。「ユーティリティ」画面の「EQ LIB」タブをタッチします。

### ■ イコライザーライブラリーを書き込む

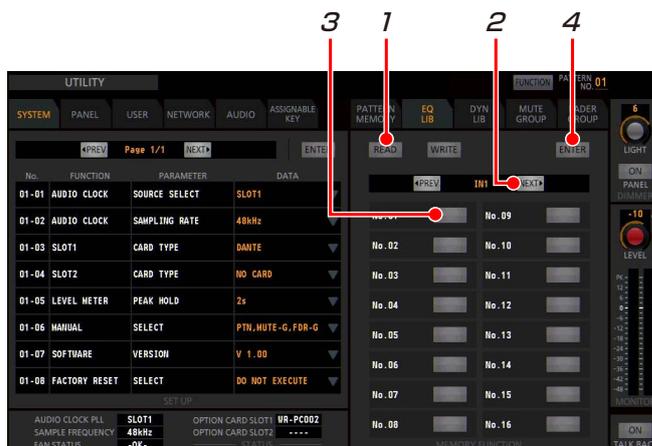


1. [WRITE] スイッチをタッチします。
  - [WRITE] スイッチが赤点灯し、書き込みモードになります。
2. チャンネル選択スイッチ [PREV] [NEXT] で対象チャンネルを選択します。
3. ライブラリー選択スイッチをタッチし、書き込むイコライザーライブラリースイッチを選択します。
  - 選択したイコライザーライブラリースイッチが橙色点灯します。
4. [ENTER] スイッチをタッチします。
  - イコライザーライブラリー書き込みを実行し、対象チャンネルのイコライザー設定を保存します。
  - 書き込みを実行した時点でイコライザーライブラリー名称が書き込んだチャンネル名称に切り替わります。



- 工場出荷設定では [No.1] ~ [No.16] には初期値の設定が保存されています。
- 保存は選択したイコライザーライブラリーに上書きする形で実行されます。重要なデータに上書きしてしまわないように管理を行ってください。
- データの初期化を行うことで、すべてのイコライザーライブラリーをリセットすることができます。詳しくは「データの初期化（データクリア）」(63ページ)をお読みください。

### ■ イコライザーライブラリーを呼び出す



1. [READ] スイッチをタッチします。
  - [READ] スイッチが青点灯し、呼び出しモードになります。
2. チャンネル選択スイッチ [PREV] [NEXT] で対象チャンネルを選択します。
3. ライブラリー選択スイッチをタッチし、呼び出すイコライザーライブラリースイッチを選択します。
  - 選択したイコライザーライブラリースイッチが橙色点滅します。
4. [ENTER] スイッチをタッチします。
  - イコライザーライブラリー呼び出しを実行し、対象チャンネルにイコライザーライブラリーの内容が反映します。

ダイナミクスライブラリーは [DYN LIB] タブを使用した同様の操作になります。



- 下記のような場合にはライブラリー選択スイッチはグレーアウトし、対象のライブラリーを選択することができません。

#### マトリクスチャンネル選択時：

マトリクス以外のチャンネルで登録したイコライザーライブラリー

#### マトリクスチャンネル以外を選択時：

マトリクスチャンネルで登録したイコライザーライブラリー

#### GEQを使用しているマトリクスチャンネル選択時：PEQのライブラリー

#### PEQを使用しているマトリクスチャンネル選択時：GEQのライブラリー

#### インプットチャンネル以外を選択時：

ノイズゲートの設定を含むダイナミクスライブラリー

※インプットチャンネルのノイズゲートとコンプレッサーは1つのダイナミクスライブラリーにまとめて保存されます。

- 工場出荷時はイコライザー/ダイナミクスライブラリーはともにインプットチャンネルの初期値の設定が各ライブラリーに保存されています。

# その他の機能

## パターンメモリの活用

パターンメモリとは、フェーダー、チャンネルON/OFF、イコライザー、マトリクスON/OFFなどの各種パラメーター値をミキサーの運用環境パターンとして登録するものです。パターンメモリに登録した情報は、電源をOFFにしても消去されません。登録したパターンメモリは簡単な操作で呼び出すことができます。

パターンメモリは、96パターンまで登録できます。パターンメモリはパターンメモリータブ選択時の「ユーティリティ」画面で操作します。「ユーティリティ」画面の[PATTERN MEMORY]タブをタッチします。

### ■ パターンメモリを書き込む



1. [WRITE] スイッチをタッチします。
  - [WRITE] スイッチが赤点灯し、書き込みモードになります。
2. パターンメモリページ選択スイッチ [PREV] [NEXT]、パターンメモリ番号スイッチをタッチし、書き込むパターンメモリ番号を選択します。
  - 選択したパターンメモリ番号スイッチが橙色点灯します。
3. [ENTER] スイッチをタッチします。
  - パターンメモリの書き込みを実行し、本機の現在の状態をメモリに保存します。
  - パターンメモリの書き込みを実行した時点で、書き込みが実行されたことを示すために、パターンメモリ名称の先頭に\* (アスタリスク) を付加します。



- パターンメモリ書き込みを実行する前に、以下の操作を行うと書き込みモードが解除されます。
  - ・ 再度、[WRITE] スイッチをタッチする。
  - ・ [READ] スイッチをタッチする。
  - ・ 「ユーティリティ」画面から他の画面に遷移、[PATTERN MEMORY] 以外のタブを選択する。

- 工場出荷設定では [No.1] ~ [No.96] には初期値のパターンメモリが保存されています。
- 保存は任意のパターンメモリ番号に上書きする形で実行されます。重要なデータを上書きしてしまわないように管理を行ってください。
- データの初期化を行うことで、すべてのパターンメモリをリセットすることができます。詳しくは「データの初期化 (データクリア)」(63ページ)をお読みください。

### ■ パターンメモリを呼び出す



1. [READ] スイッチをタッチします。
  - [READ] スイッチが青点灯し、呼び出しモードになります。
2. パターンメモリページ選択スイッチ [PREV] [NEXT]、パターンメモリ番号スイッチをタッチし、呼び出すパターンメモリ番号を選択します。
  - 選択したパターンメモリ番号スイッチが橙色点灯します。
3. [ENTER] スイッチをタッチします。
  - パターンメモリの呼び出しを実行し、パターンメモリの内容が反映されます。



- パターンメモリ呼び出しを実行する前に、以下の操作を行うと読み出しモードが解除されます。
  - ・ 再度、[READ] スイッチをタッチする。
  - ・ [WRITE] スイッチをタッチする。
  - ・ 「ユーティリティ」画面から他の画面に遷移、[PATTERN MEMORY] 以外のタブを選択する。

# その他の機能

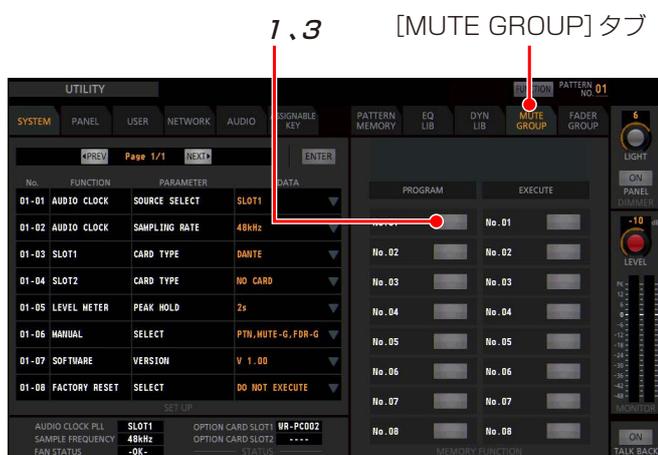
## ミュートグループの活用

ミュートグループは、複数の入力チャンネルの音声出力を1つのグループにまとめて同時にON/OFFする機能です。8種類のミュートグループを登録し、実行することができます。[MUTE GROUP] タブを選択した状態の「ユーティリティ」画面で設定を行います。



- ミュートグループの実行状態はパターンメモリーの保存対象です。
- ミュートグループを保存する場合は、そのミュートグループを含んだパターンメモリーを保存する必要があります。

### ■ ミュートグループの登録



1. [PROGRAM] 内8個のミュートグループ [No.1] ~ [No.8] スイッチからグルーピング設定を行うミュートグループ番号をタッチします。

- 選択したスイッチが橙色点灯し、グルーピングモードになります。

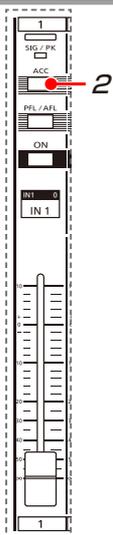


- グルーピングモードになった場合、自動的に本体チャンネルフェーダーモジュールがインプットレイヤー表示に切り替わります。
- ミュートグループの設定ができるチャンネルは [1-16]、[17-32]、[33-48] レイヤーから選択できます。

2. 本体チャンネルフェーダーモジュールの各入力チャンネルで [ACC] スイッチを押し、ミュートグループへの登録/登録解除を行います。

- 登録可能なチャンネルは [ACC] スイッチが点滅し、登録を行ったチャンネルの [ACC] スイッチは点灯します。1つの入力チャンネルを、複数のミュートグループに登録することができます。

3. 点灯している手順1で選択したミュートグループスイッチをタッチします。

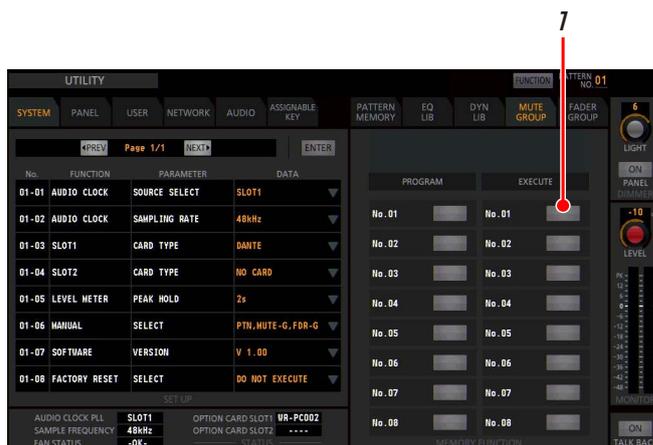


- ミュートグループ登録が完了し、グルーピングモードを解除します。
- ミュートグループ登録が完了した時点で、登録が実行されたことを示すために、ミュートグループ名称の先頭に\* (アスタリスク) を付加します。



- 以下の操作を行った場合でも、グルーピングモードが解除されます。
  - ・ 「ユーティリティ」画面から他の画面に遷移したとき
  - ・ グルーピングモード中に他のミュートグループ番号を選択したとき
- グルーピングモードを終了すると、本体チャンネルフェーダーモジュールは手順7の操作を行う前に表示していたレイヤー表示に自動的に切り替わります。
- Send To BUS、Send To MTX、Send To Rev機能の実行時は、ミュートグループの登録はできません。

### ■ ミュートグループの実行



1. [EXECUTE] 内8個のミュートグループ [No.1] ~ [No.8] スイッチから呼び出すミュートグループ番号をタッチします。

- ミュートグループが実行され、ミュートグループスイッチが橙色点灯します。再度タッチすると、ミュートが解除され、ミュートグループスイッチも消灯します。またミュートグループを複数同時に実行することができます。



- ミュートグループが実行中でも、ミュートグループに登録された入力チャンネルのチャンネルON/OFF操作は可能です。
- ミュートグループの実行前にONとなっているチャンネルが [EXECUTE] スイッチ選択時にOFFになります。ミュートグループの実行によってOFFとなったチャンネルは、[EXECUTE] スイッチの選択解除によってONにすることができます。

# その他の機能

## フェーダーグループの活用

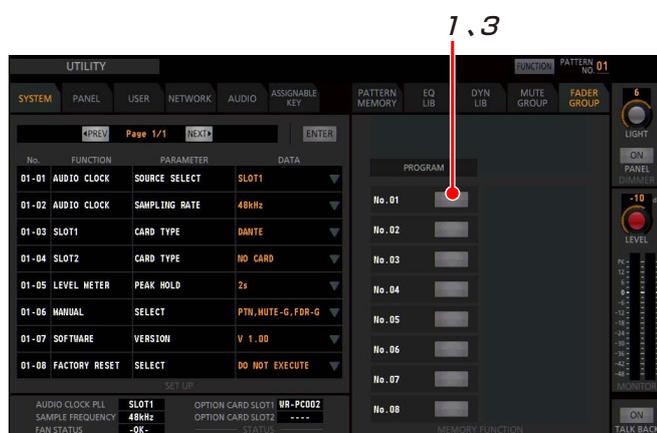
フェーダーグループを使用すると、1つのフェーダーで複数の入力チャンネルの入力レベルを同時に変更することができます。8種類のフェーダーグループを登録し、実行させることができます。

「ユーティリティー」画面の [FADER GROUP] タブをタッチします。



- フェーダーグループを保存する場合は、そのフェーダーグループを含んだパターンメモリーを保存する必要があります。

## ■ フェーダーグループの登録



1. 8個のフェーダーグループ [No.1] ~ [No.8] スイッチからグルーピング設定を行うフェーダーグループ番号をタッチします。

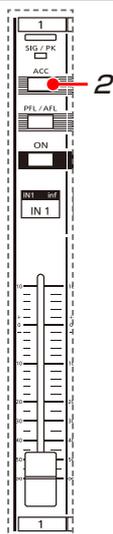
- 選択したスイッチが橙色点灯し、グルーピングモードになります。



- グルーピングモードになった場合、自動的に本体チャンネルフェーダーモジュールがインプットレイヤー表示に切り替わります。
- フェーダーグループの設定ができるチャンネルは [1-16]、[17-32]、[33-48] レイヤーから選択できます。

2. 本体チャンネルフェーダーモジュールの各入力チャンネルで [ACC] スイッチを押し、フェーダーグループへの登録/登録解除を行います。

- 1つの入力チャンネルは、1つのフェーダーグループのみに登録することができます。
- 登録可能なチャンネルは [ACC] スイッチが点滅し、登録をされているチャンネルの [ACC] スイッチは点灯します。すでに他のフェーダーグループに登録されているチャンネルの [ACC] スイッチは消灯します。
- 登録した時点からフェーダーグループ内の他のフェーダー操作に連動して動作します。



3. 点灯しているフェーダーグループ選択スイッチをタッチします。

- フェーダーグループ登録が完了し、グルーピングモードを解除します。
- フェーダーグループ登録が完了した時点で、登録が実行されたことを示すために、フェーダーグループ名称の先頭に\* (アスタリスク) を付加します。



- 以下の操作を行った場合でも、グルーピングモードが解除されます。
  - ・ 「ユーティリティー」画面から他の画面に遷移したとき
  - ・ グルーピングモード中に他のフェーダーグループ番号を選択したとき
- グルーピングモードを終了すると、本体チャンネルフェーダーモジュールは手順1の操作を行う前に表示していたレイヤー表示に自動的に切り替わります。
- Send To BUS、Send To MTX、Send To Rev機能の実行時は、フェーダーグループの登録はできません。

# その他の機能

## データの初期化（データクリア）

データの初期化を行います。



- データの初期化を行うと、一部を除き設定値が工場初期出荷値に戻りますので、必要なデータはバックアップするなどしてから実施してください。
- 以下の設定は、データの初期化で工場初期出荷値に戻りません。
  - ・MAC ADDRESS
  - ・IP ADDRESS
  - ・SUBNETMASK
  - ・「DANTEパッチ」画面の設定項目詳しくは付録4（92ページ）をお読みください。

「ユーティリティー」画面の [SYSTEM] タブをタッチします。

[SYSTEM] タブ 1 2



1. 「FUNCTION」欄の項目が [FACTORY RESET] になっている行 (No.01-08) の DATA欄をタッチすると、反転表示します。
2. 反転表示された状態で、本体の [TOUCH/ PARAMETER] ノブを回して「DATA」欄で [EXECUTE] を選択します。
  - [ENTER] スイッチが橙色点灯し、タッチすることで工場出荷時の設定に戻ります。



- 「[ENTER] スイッチをタッチする前に、「ユーティリティー」画面から他の画面に遷移すると設定した内容が破棄されます。
- 本操作でDanteカードの初期化は実行されません。Danteカードの初期化を行う際は Dante Controllerを使用してください。

# その他の機能

## ユーザーレベルの設定

本機では、ユーザーレベルが3つあります。

- ADMIN
- ENGINEER
- OPERATOR

ENGINEERとOPERATORのユーザーレベルには、それぞれ操作の制限を設定することができます。

### ■ ユーザーレベルの設定

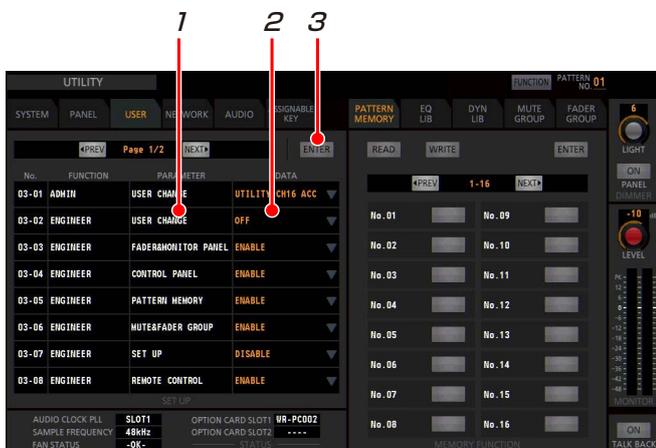
工場出荷設定では、本体のディスプレイコントロール部の [UTILITY] スイッチと、チャンネルフェーダーモジュールの [INPUT16] の [ACC] スイッチの同時押し (1秒以上) で本機のユーザーレベルをADMINに設定できます。OPERATOR、ENGINEERの設定は、[USER] タブを選択した状態の「ユーティリティ画面」で設定することができます。

### ■ OPERATOR、ENGINEERの機能設定



- ユーザーレベルの機能設定を行うと操作できる機能が制限されますのでご注意ください。

「ユーティリティ」画面の [USER] タブをタッチします。



1. 「FUNCTION」欄が「ENGINEER (または OPERATOR)」で「PARAMETER」欄が「USER CHANGE」の行のDATA欄をタッチすると反転表示します。
2. ユーザーレベルの切り替え方法は、「DATA」欄が反転表示された状態で、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して割り当てたい操作スイッチ「UTILITY+CH\* ACC / MAIN ACC」を選択します。
3. 手順1～2の設定を行うと [ENTER] スイッチが橙色点灯し、タッチすることで設定内容が反映されます。



- [ENTER] スイッチをタッチする前に、「ユーティリティ」画面から他の画面に遷移すると設定した内容が破棄されます。
- ユーザーレベルがOPERATORまたはENGINEERの場合、画面上部のメッセージ表示部に [OPERATOR]、[ENGINEER] の表示を行います。



### ■ ユーザーレベルの機能制限設定項目

以下の項目について機能の「有効 (ENABLE) /無効 (DISABLE)」を設定できます。

PARAMETER	機能内容
USER CHANGE	ユーザーレベル設定に使用するスイッチ選択
FADER & MONITOR PANEL	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本体チャンネルフェーダーモジュール</li> <li>● 本体フェーダーレイヤー操作部</li> <li>● 本体モニターセクション</li> <li>● 本体センズ&amp;マスター/アサインابلキー部の操作</li> </ul>
CONTROL PANEL	<p>本体チャンネルコントロール部の操作 以下の画面の表示、および操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「シングルチャンネル」画面</li> <li>● 「マルチチャンネル」画面</li> <li>● 「モニター」画面</li> </ul> <p>以下のタブの選択、および操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [EQ LIB] タブ</li> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [DYN LIB] タブ</li> </ul> <p>以下の画面の操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「メーター」画面</li> </ul>
PATTERN MEMORY	「ユーティリティ」画面内 [PATTERN MEMORY] タブの選択/操作
MUTE & FADER GROUP	<p>以下のタブの選択/操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [MUTE GROUP] タブ</li> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [FADER GROUP] タブ</li> </ul>
SETUP	<p>以下のタブの選択/操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [SYSTEM] タブ</li> <li>● 「ユーティリティ」画面内 [OPTION] タブ</li> </ul>
REMOTE CONTROL	PC用、iPad用リモートソフトからの制御

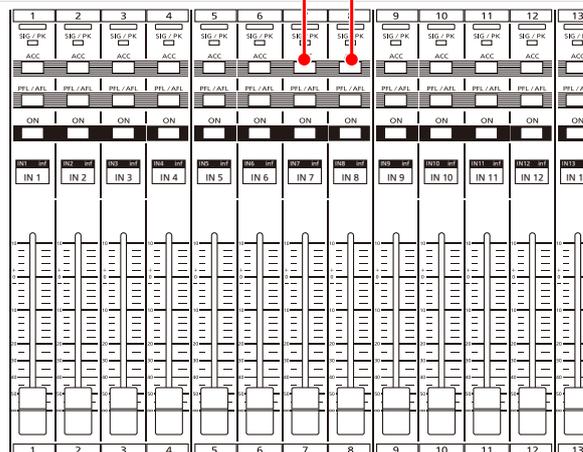


- 現在のユーザーレベルが「ADMIN」の場合は、すべてのユーザーレベルの設定を確認・変更することができます。
- 現在のユーザーレベルが「ENGINEER」の場合は、「OPERATOR」の設定を確認・変更することができます。
- 現在のユーザーレベルが「OPERATOR」の場合は、ユーザーレベル設定が行えません。
- 「USER CHANGE」がOFF設定時は、該当ユーザーレベルへの切り替えを無効にします。
- 設定を行うユーザーレベルの「FADER & MONITOR PANEL」が「無効 (DISABLE)」に設定されている場合は、「CONTROL PANEL」を「有効 (ENABLE)」に設定することはできません。
- 各ユーザーレベルの機能制限設定の詳細は付録3 (90ページ) を読みください。

## モノラルとステレオの切替設定

インプットチャンネル、バスチャンネルで奇数-偶数で連続するチャンネルの [ACC] スイッチを同時に押しと、モノラル/ステレオ設定を切り替えることができます。

[ACC] スイッチ (奇数、偶数)



チャンネルフェーダーモジュール

### 1. 2つの [ACC] スイッチを同時に1秒間押します。

モノラルからステレオに切り替える際は、先に押したチャンネルの設定が、後に押したチャンネル側にコピーされます。ステレオ設定時は、選択されている方のチャンネルの [ACC] スイッチは点灯し、他方の [ACC] スイッチは点滅します。

- ステレオ設定時に再度同時に押しと、モノラル設定に戻ります。設定がコピーされたチャンネルの各パラメーターはステレオリンクが解除される直前の状態を保ちますが、各パラメーターは連動しなくなります。

# その他の機能

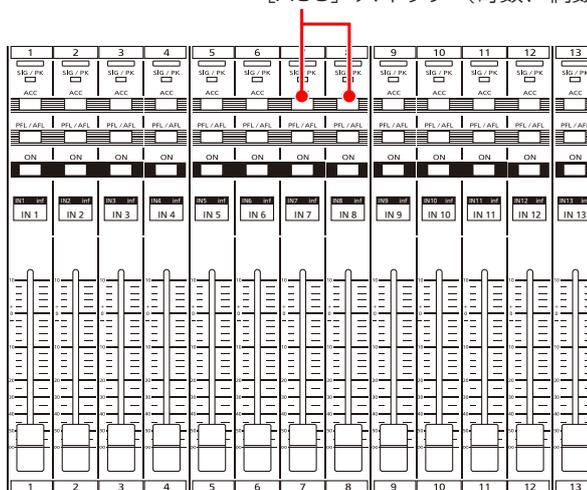
## モノラルとフェーダーリンク切替設定

入力チャンネルで、奇数-偶数で連続するチャンネルの [ACC] スイッチを同時に押すと、モノラル/フェーダーリンク設定を切り替えることができます。

フェーダーリンク設定に切り替えるには、「ユーティリティー」画面の [PANEL] タブ選択状態で [INPUT PAIR MODE] の設定を [FADER LINK] に変更する必要があります。

フェーダーリンク設定時は、フェーダーレベルとチャンネル ON/OFF スイッチ、[MANUAL] スイッチのパラメーターのみが連動します。

[ACC] スイッチ (奇数、偶数)



チャンネルフェーダーモジュール



- 「ユーティリティー」画面の [PANEL] タブで [INPUT PAIR MODE] が [FADER LINK] に設定されていない場合は、[INPUT]、[+48V]、[PH] を除くすべてのパラメーターが連動します。
- 「ユーティリティー」画面の [PANEL] タブ選択状態で [INPUT PAIR MODE] の設定を [FADER LINK] から [ST] に変更した場合は、フェーダーリンク設定が施された奇数チャンネルの設定パラメーターが偶数チャンネルにコピーされます。(入力チャンネルのみ対象)
- 「ユーティリティー」画面の [PANEL] タブ選択状態で [MONO/ST] の設定が [DISABLE] となっている場合では、[ACC] スイッチを押すことによるステレオ切り替え設定は行えません。

### 1. 2つの [ACC] スイッチを同時に1秒間押します。

モノラルからフェーダーリンク状態に切り替えると、フェーダーレベルとチャンネル ON/OFF スイッチのパラメーターが連動します。

フェーダーレベルとチャンネル ON の設定は、先に押したチャンネルの設定が、後に押したチャンネル側にコピーされます。

また、フェーダーリンク設定時は、選択されている方のチャンネルの [ACC] スイッチは点灯し、他方の [ACC] スイッチは点滅します。

- フェーダーリンク設定時に再度同時に押すと、モノラル設定に戻ります。

# その他の機能

## USBフラッシュメモリの活用

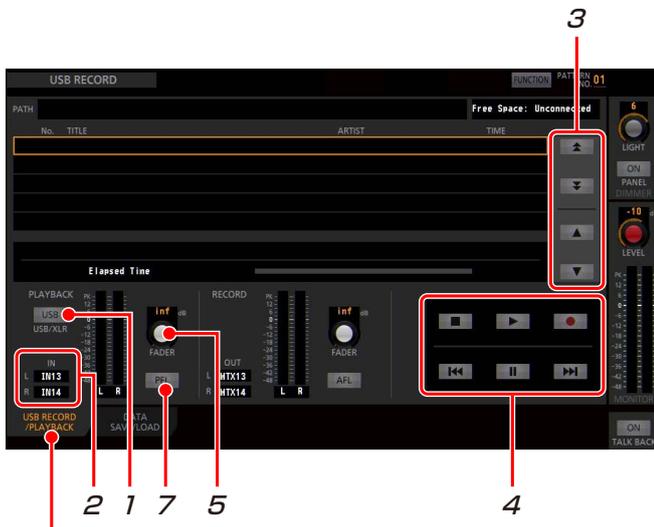
本体のモニターセクションの [USB] 端子にUSBフラッシュメモリーを接続することで、USBフラッシュメモリーへの録音/再生、および、設定データのセーブ/ロードが行えます。操作は [FUNCTION] タブの [USB RECORD] スイッチをタッチし、「USBレコード」画面を表示することで行います。



- いずれの操作もステータス表示部に接続中であることを示すUSBフラッシュメモリーの空き容量が表示されている場合のみ操作が可能です。
- 再生するファイルは、USBフラッシュメモリーのルートフォルダーに格納してください。
- 設定データとはパターンメモリーやイコライザーライブラリー、ダイナミクスライブラリーを含むすべての設定項目を意味します。ただし、以下の設定項目は含まれません。
  - ・ MAC ADDRESS
  - ・ IP ADDRESS
  - ・ SUBNETMASK詳しくは付録4 (92ページ) をお読みください。

### 再生操作

[USB RECORD/PLAYBACK] タブをタッチして、「USB録音/再生」画面を表示します。



[USB RECORD/PLAYBACK] タブ

1. [USB] スイッチをタッチしてON (橙色点灯) にして、アナログインプット13/14に入力する信号源を本体リアパネルの [INPUT13, 14] 端子 (XLR) からUSBに切り替えます。
2. USB IN表示を確認し、L/Rにそれぞれ表示されているインプットチャンネルをONにします。



- USB IN表示のL/Rにはアナログインプット13/14がアサインされているインプット13/14チャンネルのみ表示されます。
- 工場出荷時設定ではアナログインプット13/14はインプットチャンネル13/14にアサインされています。
- USB再生を使用される際は、アナログインプット13/14チャンネルを奇数/偶数の順で隣接するインプットチャンネルにアサインし、ステレオ設定にしておくことをお勧めします。

3. [▲] / [▼] / [▲] / [▼] スイッチを操作し、再生するファイルを選択します。
  - 選択中のファイルは橙色の枠で囲まれます。
4. 録音/再生操作部の以下のスイッチを用いて、再生の操作を行います。

**停止スイッチ [■] :**  
再生中にタッチすると一度点灯し再生を停止します。動作が完了するとスイッチは消灯します。

**再生スイッチ [▶] :**  
タッチすると手順3で選択したファイルの再生を行います。再生中は橙色点灯します。

**前スイッチ [◀◀] :**  
再生、または一時停止中にタッチするとファイルの先頭から再生を行います。長押しすると巻き戻しを行います。タッチしている間、橙色点灯します。

**次スイッチ [▶▶] :**  
再生、または一時停止中にタッチすると次のファイルの先頭から再生を行います。長押しすると早送りを行います。タッチしている間、橙色点灯します。

**一時停止スイッチ [⏸] :**  
再生中にタッチすると再生の一時停止を行います。一時停止中は橙色点灯します。



- 再生中はファイル情報表示部に再生中のファイルについて以下の情報を表示します。
  - ・ File No.
  - ・ ファイル名
  - ・ アーティスト
  - ・ 再生時間※ファイル名とアーティスト情報にASCII文字以外が含まれる場合、情報の表示や再生操作が適切に行えないことがあります。
- 再生中のファイルにはファイル選択部でチェックマークが表示されます。



- USBフラッシュメモリーのルートフォルダーに300個以上の音声ファイルがある場合、ファイル表示、および再生操作が適切に行えない場合があります。こまめなファイルの整理をお勧めします。

## その他の機能

5. 再生モニター部の [FADER] ノブをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回すことで、USB IN表示のLに表示されている入力チャンネルのフェーダーの操作を行うことができます。

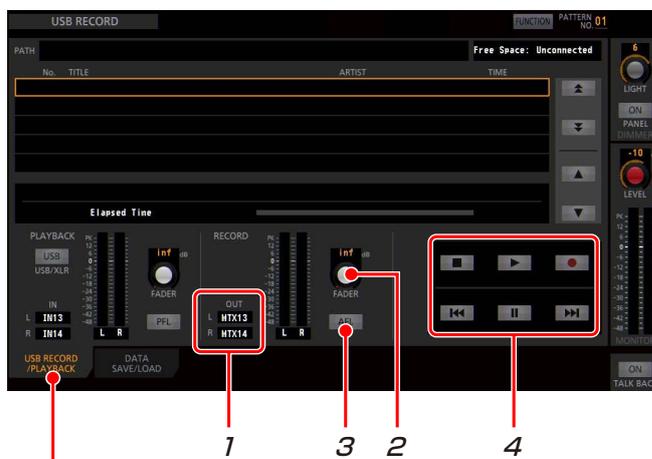
- フェーダーレベルがノブ上部に表示されます。
- USB IN表示のRに表示されている入力チャンネルのフェーダーも、Lに表示されているチャンネルとのレベル差を保ったまま連動して変化します。
- USB INに表示されている入力チャンネルのレベルメーターを本画面の再生レベルメーターに表示します。

6. [PFL] スイッチをタッチしON（橙色点灯）にすると、USB IN表示のL/Rに表示されている入力チャンネルをプリフェーダーでモニターすることができます。

- もう一度タッチするとOFFになります。
- USB IN表示のLに表示されている入力チャンネルはL、Rに表示されている入力チャンネルはRからモニター出力されます。

### ■ 録音操作

[USB RECORD/PLAYBACK] タブをタッチして、「USB 録音/再生」画面を表示します。



[USB RECORD/PLAYBACK] タブ

1. USB OUT表示を確認し、L/Rにそれぞれアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルをONにします。



- USB OUT表示のL/Rにはそれぞれアナログアウト13/14にアサインされているバス、またはマトリクスが表示されます。
- 工場出荷時設定ではマトリクス13/14がアサインされています。

2. 録音モニター部の [FADER] ノブをタッチして選択し、本体の [TOUCH/PARAMETER] ノブを回すことで、USB OUT表示のLに表示されているマトリクス、またはバスチャンネルのフェーダーレベルの調整を行います。

- 設定したフェーダーレベルはノブ上部に表示されます。
- USB OUT表示のRに表示されているバス、またはマトリクスのフェーダーも、Lに表示されているチャンネルとのレベル差を保ったまま連動して変化します。
- 録音レベルメーターのL/Rにそれぞれ、アナログアウト13/14チャンネルにアサインされているマトリクス、またはバスチャンネルのレベルメーターを表示します。

3. [AFL] スイッチをタッチしON（橙色点灯）にすることで、USB OUT表示のL/Rに表示されているチャンネルをアフターフェーダーでモニターすることができます。

- もう一度タッチするとOFFになります。

## その他の機能

4. 録音/再生操作部の以下のスイッチを用いて、録音の操作を行います。

### 録音待機スイッチ [●] :

タッチすると録音待機状態になります。録音待機中に [▶] スイッチにタッチすると録音を開始します。録音待機中、録音中は橙色点灯し、[■] スイッチをタッチすると消灯します。

### 録音スイッチ [▶] :

録音待機中にタッチすると録音を開始します。録音中は橙色点灯します。

### 一時停止スイッチ [||] :

録音中にタッチすることで録音の一時停止を行います。一時停止中は橙色点灯します。

### 停止スイッチ [■] :

録音中にタッチすると録音を停止します。録音待機中にタッチすると録音待機状態を解除します。



- 録音を行う際は、十分な空き容量のあるUSBフラッシュメモリーを使用してください。録音中に容量が不足した場合、録音データを適切に保存できない場合があります。
- 最大連続録音可能時間は12時間です。12時間を超える録音を行う場合は、一度手動で録音の停止を行い、再度録音を開始してください。
- USBフラッシュメモリーのルートフォルダーに300個以上の音声ファイルがある場合、録音操作が行えません。こまめなファイルの整理をおすすめします。



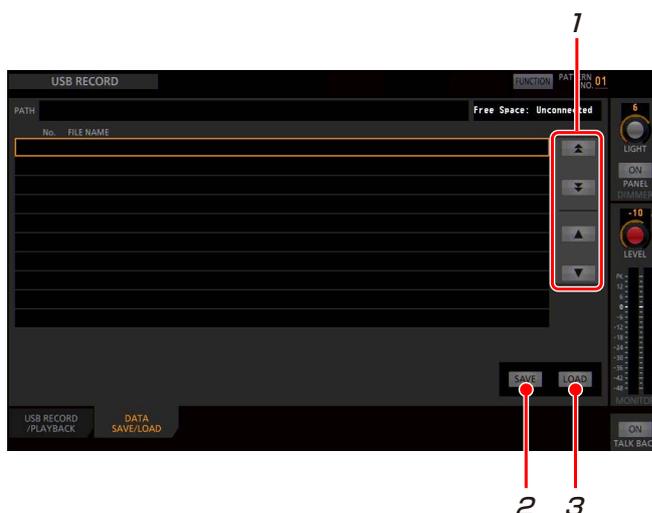
- 録音中はファイル情報表示部に録音経過時間を表示します。
- 録音データはUSBフラッシュメモリーのルートフォルダーに保存されます。
- 録音したファイル名は「rec[No.].mp3」という名称でリストの最下部に保存されます。
  - ※ [No.] には保存されているファイル数に応じた番号が順番に割り振られます。
  - ※ アーティスト名には「DX350」と保存されます。
  - ※ 録音ファイルのビットレートは192 kbpsです。

## ■ 設定データのセーブ/ロード

[DATA SAVE/LOAD] タブをタッチして、「設定データ保存/読み込み」画面を表示します。



- 本操作では、一部を除き本機のパラメーターが保存/読み込み対象となります。対象外のパラメーターは以下の3つです。
  - ・ MAC ADDRESS
  - ・ IP ADDRESS
  - ・ SUBNETMASK詳しくは付録4 (92ページ) をお読みください。



1. (読み込み時のみ) [▲] / [▼] / [▲] / [▼] スイッチを操作し、読み込みを行うファイルを選択します。

- 選択中のファイルは橙色の枠で囲まれます。

2. 保存時は [SAVE] スイッチをタッチして、現在の設定データファイルを作成します。

- 作成した設定データはDATAリストの最下位に追加されます。
- 保存される設定データのファイル名は「DX350\_SETTING[No.].DAT」です。
  - ※ [No.] には保存されている設定データファイルの番号が順番に割り振られます。



- 99個以上の設定ファイルが存在する場合、表示や保存が適切に行えない場合があります。こまめなファイルの整理をおすすめします。
- 設定データの保存中はしばらく操作を受け付けません。保存操作は十分な時間を確保して行ってください。

3. 読み込み時は [LOAD] スイッチをタッチして、手順 1 で選択したファイルを読み込みます。

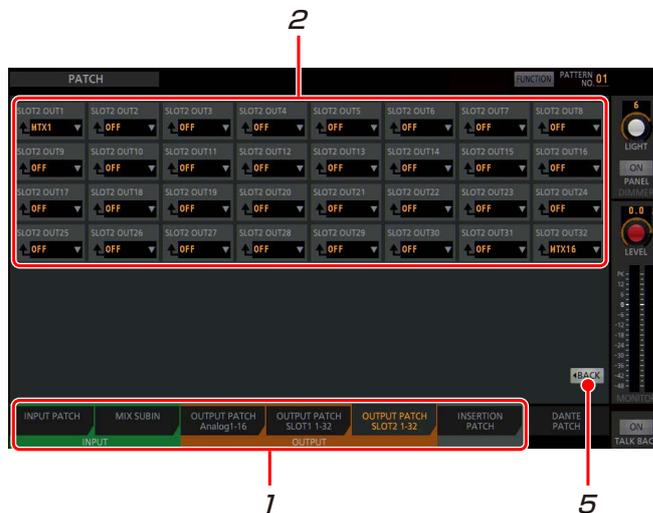
## その他の機能



- 設定データのセーブ/ロードは、USBフラッシュメモリーのルートフォルダー上にある「DX350」というフォルダー上で行われます。※ルートフォルダー上に該当するフォルダーが存在しない場合は、自動的に作成されます。
- 表示や読み込みを行うファイル名にASCII文字以外が含まれる場合や拡張子を含めて48文字以上のファイル名が使用された場合、ファイルの表示や読み込みが適切に行えない場合があります。

## 入出力パッチの設定

「シングルチャンネル」画面の[PATCH]スイッチをタッチすることで、「パッチ」画面を表示し、入出力のパッチ設定を行います。



1. パッチの設定を行う対象を [INPUT PATCH] [MIX SUBIN] [OUTPUT PATCH (Analog 1-16)] [OUTPUT PATCH (SLOT1 1-32)] [OUTPUT PATCH (SLOT2 1-32)] [INSERTION PATCH] タブから選択します。
  - パッチ設定を行う対象が切り替わります。



- 「パッチ」画面では以下の設定が行えます。  
[INPUT PATCH] タブ選択時



インプットチャンネル1-48、トークバックに割り当てる回線の設定を行います。

- 割り当て可能な回線は、  
[Analog INPUT 1-16]  
[SLOT1 INPUT 1-32]  
[SLOT2 INPUT 1-32] です。

# その他の機能

## [MIX SUBIN] タブ選択時



ミックスサブインプットに割り当てる回線の設定を行います。

- 割り当て可能な回線は、  
[Analog INPUT 1-16]  
[SLOT1 INPUT 1-32]  
[SLOT2 INPUT 1-32] です。

## [OUTPUT PATCH Analog 1-16] タブ選択時



本体アナログアウトプット [Analog OUT 1 ~ 16] に割り当てる回線の設定を行います。

- 割り当て可能な回線は、  
[MATRIX 1-16]  
[BUS 1-16]  
[MAIN L]  
[MAIN R] です。

## [OUTPUT PATCH SLOT1 1-32] タブ選択時



[SLOT1 OUT 1 ~ 32] に割り当てる回線の設定を行います。

- 割り当て可能な回線は、  
[MATRIX 1-16]  
[BUS 1-16]  
[MAIN L]  
[MAIN R] です。

## [OUTPUT PATCH SLOT2 1-32] タブ選択時



[SLOT2 OUT 1 ~ 32] に割り当てる回線の設定を行います。

- 割り当て可能な回線は、  
[MATRIX 1-16]  
[BUS 1-16]  
[MAIN L]  
[MAIN R] です。

## [INSERTION PATCH] タブ選択時



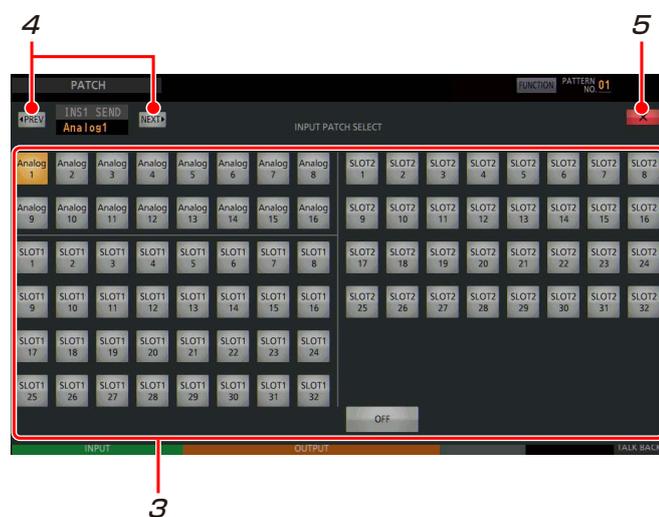
- インサージョン機能のパッチ設定を行います。
- [INS 1] ~ [INS 6] では、インサージョン機能を有効にする入力チャンネルの設定 (6ch設定可能) を行います。
- [INS 1-6] のSEND [SEND] とリターン [RETURN] に割り当てる回線の設定を行います。

- [INS SEND] に割り当て可能な回線は、  
[Analog OUTPUT 1-16]  
[SLOT1 OUTPUT 1-32]  
[SLOT2 OUTPUT 1-32] です。
- [INS RETURN] に割り当て可能な回線は、  
[Analog INPUT 1-16]  
[SLOT1 INPUT 1-32]  
[SLOT2 INPUT 1-32] です。

※ インプットチャンネルのインサージョンの有効/無効、およびインサージョンポジション (PRE/POST) の設定はインプットチャンネルの「シングルチャンネル」画面で行います。(12ページ)

## その他の機能

- パッチ設定部の設定を行うチャンネルの [▼] スイッチをタッチし、以下の「パッチ選択」画面を表示します。



- [OFF] スイッチまたは回線名のスイッチの中から、手順2で選択したチャンネルに割り当てる回線をタッチして選択します。

- 選択中のスイッチは点灯します。
- これらのスイッチは択一選択です。

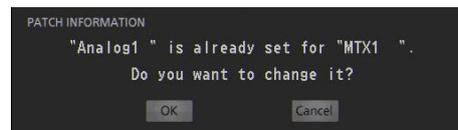
- [PREV] [NEXT] スイッチをタッチし、手順2で選択したチャンネル前/後の回線の「パッチ選択」画面を表示します。

- 手順3～4を繰り返し、パッチ設定が終了したら、[×] スイッチをタッチし「パッチ選択」画面を閉じます。

- 「パッチ」画面の [BACK] スイッチをタッチすることで、「パッチ」画面を表示した直前の画面に戻ります。



- 以下の操作を実行する際に、下記のようなアラートが表示されます。



- [INPUT PATCH] タブ選択時に、[INSERTION PATCH] タブ内の [RETURN] ですでに設定されているインプットを選択した場合
- [OUTPUT PATCH Analog 1-16] / [OUTPUT PATCH SLOT1 1-32] / [OUTPUT PATCH SLOT2 1-32] タブ内で、[INSERTION PATCH] タブ内の [SEND] ですでに設定されているチャンネルを選択した場合
- [INSERTION PATCH] タブ内の [SEND] にて、[OUTPUT PATCH Analog 1-16] / [OUTPUT PATCH SLOT1 1-32] / [OUTPUT PATCH SLOT2 1-32] タブ内ですでに設定されているアウトプットを選択した場合
- [INSERTION PATCH] タブ内の [RETURN] にて、[INPUT PATCH] タブ内ですでに設定されているインプットを選択した場合

アラート上の [Cancel] スイッチをタッチした場合は、上記の操作はキャンセルされます。アラート上の [OK] スイッチをタッチした場合は、設定を上書きし、すでに設定されていた個所がOFFに設定されます。

# その他の機能

## Danteパッチの設定

本機と本機に接続されているWR-SB350 (別売品) 間のパッチ設定をPCがない環境でも行うことができます。

「パッチ」画面の [DANTE PATCH] スイッチをタッチすることで「DANTEパッチ」画面を表示し、設定を行います。



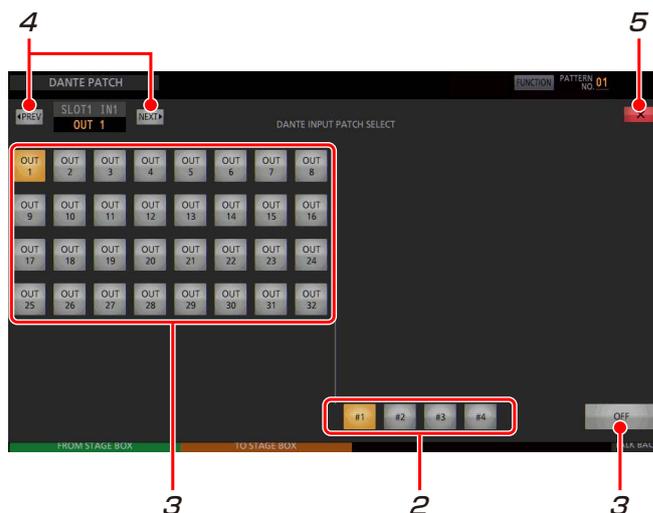
- Danteパッチの設定は「DANTEセットアップ」画面のルーティングコントロール設定部で [DX350] スイッチが選択されている場合にのみ行えます。詳しくは (75ページ) をお読みください。
- 以下の場合では「DANTEパッチ」画面における設定や表示内容が適切に行えない場合があります。このような場合は、Dante Controller を使用してDanteパッチの設定を行ってください
  - 本機が接続されているDanteネットワーク内に複数台のWR-DX350が存在する場合
  - 本機がWR-SB350のID重複を検出した場合

### ■ WR-SB350から本機への信号経路のパッチ設定

「DANTEパッチ」画面の [INPUT PATCH SLOT1 1-32] タブまたは、[INPUT PATCH SLOT2 1-32] タブをタッチすることで、インプットパッチ設定を行うカードスロットの「DANTEパッチ」画面を表示します。



7. Danteパッチ設定部の設定を行うチャンネルの [▼] スイッチをタッチし、以下の「Danteパッチ選択」画面を表示します。



2. 手順 1 で選択したチャンネルにアサインしたい回線を有するWR-SB350の機器IDを、[#1]、[#2]、[#3]、[#4] スイッチからタッチして選択します。
  - 選択中のスイッチは点灯します。
  - これらのスイッチは択一選択です。



- WR-SB350の機器IDの設定方法はWR-SB350の取扱説明書をお読みください。

3. [OFF] スイッチ、または回線名のスイッチの中から、手順 1 で選択したチャンネルに割り当てる回線をタッチして選択します。
  - 選択中のスイッチは点灯します。
  - これらのスイッチは択一選択です。
4. [PREV] [NEXT] スイッチをタッチし、手順 1 で選択したチャンネルの前/後の回線の「Danteパッチ選択」画面を表示します。
5. 手順 3～4 を繰り返して、Danteパッチ設定が完了したら、[×] スイッチをタッチし「Danteパッチ選択」画面を閉じます。



- [OFF] 表示は本機の該当チャンネルにWR-SB350からの信号がパッチされていないことを示しています。したがって、WR-SB350以外の機器がパッチされている場合でも [OFF] と表示されます。

## その他の機能

### ■ 本機からWR-SB350への信号経路のパッチ設定

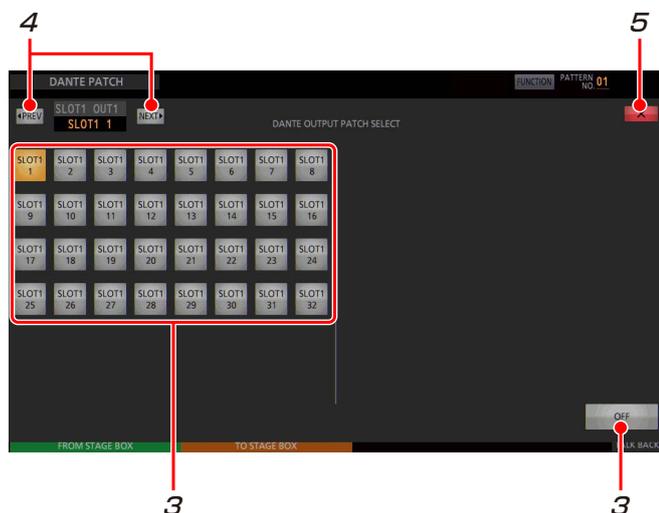
[DANTEパッチ] 画面の [OUTPUT PATCH SLOT1 1-32] タブまたは、[OUTPUT PATCH SLOT2 1-32] タブをタッチすることで、アウトプットパッチ設定を行うカードスロットの「DANTEパッチ」画面を表示します。



1. Danteパッチ設定を行うWR-SB350の機器IDを、[#1]、[#2]、[#3]、[#4] スイッチからタッチして選択します。

- 選択中のスイッチは点灯します。
- これらのスイッチは択一選択です。

2. Danteパッチ設定部の設定を行うチャンネルの [▼] スイッチをタッチし、以下の「Danteパッチ選択」画面を表示します。



3. [OFF] スイッチ、または回線名のスイッチの中から、手順1で選択したチャンネルに割り当てる回線をタッチして選択します。

- 選択中のスイッチは点灯します。
- これらのスイッチは択一選択です。

4. [PREV] [NEXT] スイッチをタッチし、手順1で選択したチャンネルの前/後の回線の「Danteパッチ選択」画面を表示します。

5. 手順3~4を繰り返し、Danteパッチ設定が完了したら、[×] スイッチをタッチし「Danteパッチ選択」画面を閉じます。



- [OFF] 表示はWR-SB350の該当チャンネルに本機からの信号がパッチされていないことを示しています。したがって、本機以外の機器がパッチされている場合でも [OFF] と表示されます。



- 「DANTEセットアップ」画面で、ルーティングコントロール部の設定が [DANTE CONTROLLER] になっているとき、「DANTEパッチ」画面での設定を行うことはできません。

- Dante Controllerなどの外部機器からDanteパッチ設定を行った場合、「DANTEパッチ」画面に表示されている設定内容が、実際の設定内容と一致しない場合があります。

外部機器からDanteパッチ設定を行う場合は、「DANTEセットアップ」画面のルーティングコントロール設定部を [DANTE CONTROLLER] スイッチ選択状態に設定することをお勧めします。設定方法については、75ページをお読みください。

- 同一のDanteネットワーク内に本機が複数台存在する場合、「DANTEパッチ」画面の設定状態表示が実際の設定内容と一致しない場合があります。

- 本機が複数台、同一のDanteネットワーク内に存在する場合は「DANTEセットアップ」画面のルーティングコントロール設定部を [DANTE CONTROLLER] スイッチ選択状態に設定することをお勧めします。

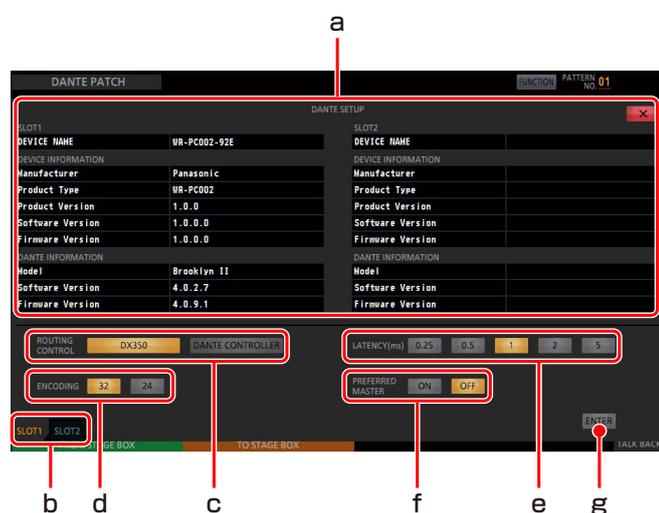
## Dante機器の設定

本機の背面の [SLOT 1] [SLOT 2] に挿入されている WR-PC002 の設定、および本機に接続されている WR-SB350 (別売品) の検索と設定を PC がない環境でも行うことができます。

各設定は「DANTEパッチ」画面から行えます。「DANTEパッチ」画面は「パッチ」画面の [DANTE PATCH] スイッチをタッチすることで表示します。

### ■ スロットに挿入されている WR-PC002 の表示と設定

「DANTE セットアップ」画面では本機のスロットに挿入されている WR-PC002 の表示と設定を行います。「DANTE/パッチ」画面の [DANTE SETUP] スイッチをタッチすることで以下の「DANTEセットアップ」画面を表示します。



#### a. Dante情報表示部

本機のスロットに挿入されている WR-PC002 の情報表示を行います。

#### b. セットアップ対象切り替えタブ

WR-PC002 の設定を行うカードスロットの選択を行います。[SLOT1] に挿入されている WR-PC002 の設定を行う際は [SLOT1] タブ、[SLOT2] に挿入されている WR-PC002 の設定を行う際は [SLOT2] タブをタッチして選択します。

#### c. ルーティングコントロール設定部

本機に挿入された WR-PC002 のルーティングの設定をリモートソフト (Dante Controller) から行うかを選択します。

[DX350] スイッチまたは [DANTE CONTROLLER] スイッチをタッチすると点灯し、選択されます。スイッチは択一選択です。

- [DANTE CONTROLLER] スイッチ選択時には Danteパッチの設定が本機から行えなくなります。
- ルーティングコントロール設定部の設定内容は [SLOT1] / [SLOT2] タブ間で共通です。

#### d. エンコーディング設定部

本機に挿入された WR-PC002 の Dante ネットワーク上におけるエンコーディング設定を行います。

24ビットスイッチ [24] または 32ビットスイッチ [32] をタッチすると点灯し、選択されます。スイッチは択一選択です。

#### e. レイテンシー設定部

本機に挿入された WR-PC002 の Dante ネットワーク上におけるレイテンシー設定を行います。

[0.25] (0.25 ms)、[0.5] (0.5 ms)、[1] (1 ms)、[2] (2 ms)、[5] (5 ms) スイッチをタッチすると点灯し、選択されます。スイッチは択一選択です。

#### f. プリファードマスター設定部

本機に挿入された WR-PC002 の Dante ネットワーク上におけるプリファードマスター設定を行います。

[ON]、[OFF] スイッチから選択します。各スイッチは択一選択です。

#### g. [ENTER] スイッチ

「DANTEセットアップ」画面で設定を変更すると点灯します。その状態で [ENTER] スイッチをタッチすると設定値を更新します。更新後は消灯します。

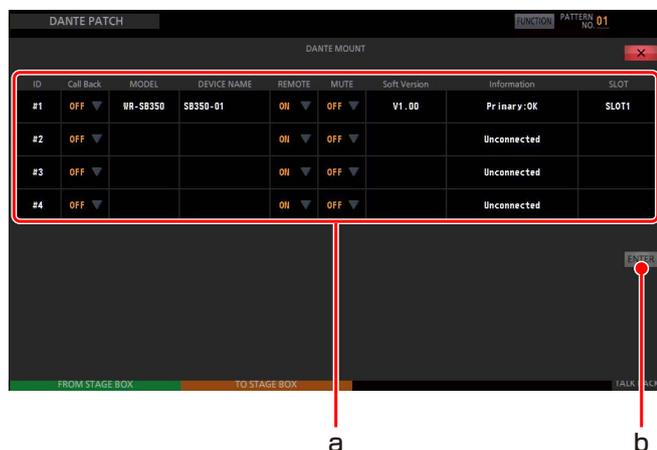


- [ENTER] スイッチをタッチする前に他の画面に遷移した場合、設定内容の変更は反映されません。
- Dante Controller などの外部機器から上記内容の設定を行った場合、「DANTEセットアップ」画面に表示されている設定内容が、実際の設定内容と一致しない場合があります。外部機器から本機に挿入されている WR-PC002 への設定を行う際は、ルーティングコントロール設定部を [DANTE CONTROLLER] スイッチ選択状態に設定することをお勧めします。

# その他の機能

## ■ 接続されているWR-SB350の検索と管理

「DANTE マウント」画面では本機に接続されているWR-SB350（別売品）を4台まで検索できます。また、検索されたWR-SB350の管理を行うこともできます。「DANTEパッチ」画面の「DANTE MOUNT」スイッチをタッチすることで以下の「DANTEマウント」画面を表示します。



### a. DANTEマウント設定部

接続されているWR-SB350の管理を行います。以下の項目で管理を行うことができます。[▼] のついているパラメータはタッチすると反転表示して選択状態となり、本体 [TOUCH/PARAMETER] ノブを回して設定値を調整します。

- ID : 機器の管理番号を表示します。
- Call Back : WR-SB350が接続されている際に、「ON」にするとWR-SB350の前面LEDが点滅します。
- MODEL : 機種名を表示します。
- DEVICE NAME : 機器名称を表示します。（機器名称はWR-SB350のPC用リモートソフトから設定が可能です。）
- REMOTE : WR-SB350が接続されている場合、「ON」にすると本機からWR-SB350のインプットトリムとファンタム電源の制御ができます。詳しくは「WR-SB350のインプットトリム/ファンタム制御」（77ページ）をお読みください。
- MUTE : WR-SB350のアナログインプットのミュート設定をします。設定は一括で行われます。
- Soft Version : 接続されたWR-SB350のソフトウェアバージョンを表示します。
- Information : WR-SB350の接続状態を表示します。各表示内容はそれぞれ以下の意味を示します。

表示	意味
Unconnected	この機器IDを持つWR-SB350との接続がありません。
Primary : OK	WR-SB350の [Primary] 端子と適切に接続されています。
Primary : NG	適切に接続されていたWR-SB350の [Primary] 端子で通信エラーが生じました。
ID Overlap	WR-SB350の機器IDが重複しています。

SLOT : 表示されているWR-SB350が接続されている本機のスロットを表示します。



- [Information] の表示が [Primary : NG] または [ID Overlap] になった際は、表示されている画面に関わらず以下のポップアップでエラーメッセージを表示します。[OK] スイッチをタッチすると、ポップアップが閉じます。



- 変更したパラメータは点灯状態の [ENTER] スイッチをタッチするまで反映されません。

### b. [ENTER] スイッチ

「DANTEマウント」画面で設定を変更すると点灯します。その状態で [ENTER] スイッチをタッチすると設定値を更新します。更新後は消灯します。



- 本機はスター型トポロジーでDanteネットワークを構築することを前提としています。リング型/ダイジーチェーン型トポロジーなどでは「DANTEマウント」画面の表示/設定が適切に行われない場合があります。
- [ENTER] スイッチをタッチする前に他の画面に遷移した場合、設定内容の変更は反映されません。
- 同一のDanteネットワーク内に本機が複数台存在する場合「DANTEマウント」画面の設定状態表示が実際の設定内容と一致しない場合があります。

# その他の機能

## ■ WR-SB350のインプットリム/ファンタム制御

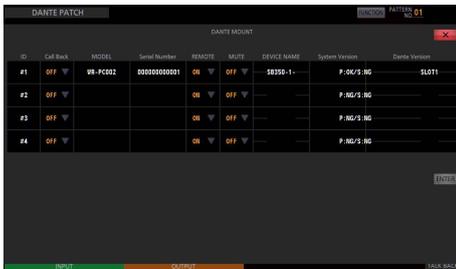
本機はDanteで接続されているWR-SB350（別売品）のリモート制御を最大4台まで行うことができます。インプットリムとファンタム電源のリモート制御を行うためには、以下の準備を完了してから行ってください。

- 制御を行いたい機器IDのWR-SB350を「DANTEマウント」画面の [Information] 表示が [Primary:OK] となるように接続する。
- 制御を行いたい機器IDのWR-SB350を「DANTEマウント」画面の [REMOTE] を [ON] に設定する。（76ページ）
- WR-SB350の各アナログインプットと対応したDanteアウトプットチャンネルを本機の任意のDanteインプットチャンネルにパッチする。（73ページ）
- 上記でパッチされた本機のDanteインプットチャンネルを任意のインプットチャンネル（またはトークバックチャンネル）にパッチする。（70ページ）



- WR-SB350のアナログインプットとDanteアウトプットチャンネルの対応についてはWR-SB350の取扱説明書をお読みください。
- 以下に「DANTEマウント」画面、「DANTEパッチ」画面、「パッチ」画面の設定例を記載します。

この通りの設定を行った場合、本機のインプット17~32チャンネルで機器IDが [#1] のWR-SB350のアナログインプット1~16チャンネルのインプットリム/ファンタム制御を行うことができます。「DANTEマウント」画面



「DANTEパッチ」画面



「パッチ」画面



インプットリムとファンタム電源のリモート制御はインプットチャンネル、またはトークバック/オシレーターチャンネルから行います。



1. 上記設定を行ったインプットチャンネル表示し、I/Oインジケータが点灯していることを確認します。
2. [INPUT] ノブや [+48V] スイッチを用いてWR-SB350のインプットリムとファンタム電源の制御を行います。



- [INPUT] ノブと [+48V] スイッチの動作は、本機のインプットリム調整、およびファンタム電源制御と同様です。
- WR-SB350の+48VマスタースイッチがOFFになっている場合、[+48V] スイッチをON（点灯）にしても、WR-SB350のファンタム電源はONになりません。設定方法についてはWR-SB350の取扱説明書をお読みください。



- 本機からWR-SB350のインプットリム/ファンタム電源のリモート制御を行う場合は、「DANTEパッチ」画面の [INPUT PATCH SLOT1 1-32] タブまたは、[INPUT PATCH SLOT2 1-32] タブ内で、同一の選択肢を複数のインプットパッチに割り当てないことをお勧めします。制御が適切に行えない場合があります。
- リモート制御を行うWR-SB350と本機は、必ずDanteカードのネットワーク設定をリダundantにして、相互にPrimaryが接続されている必要があります。詳しくは販売店までお問い合わせください。
- リモート制御を行うWR-SB350の接続を変更する場合は、変更後必ず本機を再起動してください。

# 仕様

## 設定一覧

### ■ インプット

項目	対象チャンネル	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
ファンタム電源	全チャンネル	OFF	OFF、ON	12
インプットゲイン	全チャンネル	+4 dBu	+4 dBu~-60 dBu	12
インサージョン	インプット1~32 <sup>*1</sup>	POSTスイッチ : PRE	PRE、POST	12
		ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	12
ディレイ	インプット1~32	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	16
		インプットディレイ : 0 ms (時間表記)	0 ms~1000 ms	
		: 0 m (距離表記)	0 m~340 m	
デジタルゲイン	全チャンネル	0.0 dB	-24.0 dB~+24.0 dB	13
フェイズ	全チャンネル	NORMAL	NORMAL、INVERT	13
HPF	全チャンネル	SLOPE : -12	-6、-12、-18、-24	13
		HPF FREQ : 80 Hz	20 Hz~1800 Hz	
		ON/OFFスイッチ : OFF	ON/OFF	
ダイナミクス (ノイズゲート)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	14
		TH LEVEL : OFF	OFF、-90 dBu~-40 dBu	
		ATTACK : 1 ms	0 ms~250 ms	
		RELEASE : 450 ms	5 ms~2000 ms	
ダイナミクス (コンプレッサー)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	14
		DEPTH : N	N、S1~S10、H1~H10	
		TH LEVEL : -2 dBu	-36 dBu~+24 dBu	
		RATIO : 4 : 1	1 : 1~inf : 1	
		ATTACK : 100 ms	0 ms~250 ms	
		RELEASE : 1000 ms	5 ms~2000 ms	
		GAIN : +3.0 dB	0.0 dB~12.0 dB	
イコライザー (PEQ)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : ON	OFF、ON	15
		HIGH : Q : 3.0 FREQ : 4.00 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHH 20 Hz~20000 Hz -15 dB~+15 dB	
		HIGH MID : Q : 3.0 FREQ : 1.25 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30 20 Hz~20000 Hz -15 dB~+15 dB	
		LOW MID : Q : 3.0 FREQ : 315 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20 Hz~20000 Hz -15 dB~+15 dB	
		LOW : Q : 3.0 FREQ : 125 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHL 20 Hz~20000 Hz -15 dB~+15 dB	
ダイナミックノッチ	インプット1~32 <sup>*2 *3</sup>	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	17
チャンネルON スイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
フェーダーレベル	全チャンネル	inf	+10 dB~-138 dB、inf	9
PAN <sup>*3</sup> 、BAL <sup>*4</sup>	全チャンネル	C (センター)	L16~C~R16	13

# 仕様

項目	対象チャンネル	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
バスセンド	全チャンネル	バス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF リバーブ1、2 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	10
		バス1~16 : レベル : 0 dB リバーブ1、2 : レベル : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
		バス1~16 : PRE/POST : POST	PRE、POST	
		バス1~16 (ステレオバスのみ) : PAN/BAL <sup>※5</sup> : C	L16~C~R16	
マトリクスセンド	全チャンネル	マトリクス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	11
		マトリクス1~16 : レベル : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
		マトリクス1~16 <sup>※6</sup> : PRE/POST : POST	PRE、POST	
モノラル/ステレオ設定	インプット1~32 (インプット13~16は除く)	MONO	MONO、ST	65
	インプット13~16、 33~48	ST	MONO、ST	
PFLスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
MANUALスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	6
メインLRアサイン	全チャンネル	OFF	OFF、ON	9

※1 インサーションを使用時のみ対象

※2 サンプリングレートが48 kHzで、「ユーティリティ」画面でDN1~16をアサインしたチャンネルのみ

※3 モノラルインプット設定時

※4 ステレオインプット設定時

※5 ステレオバス設定時

※6 1つのマトリクスチャンネルに対して、全インプットチャンネル一括変更

# 仕様

## ■ メインLR、バス

項目	対象チャンネル	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
イコライザー (PEQ)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : ON	OFF、ON	15
		HIGH : Q : 3.0 FREQ : 4.00 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHH 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		HIGH MID : Q : 3.0 FREQ : 1.25 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		LOW MID : Q : 3.0 FREQ : 315 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		LOW : Q : 3.0 FREQ : 125 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHL 20~20000 Hz -15~+15 dB	
ダイナミクス (コンプレッサー)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	14
		DEPTH : N	N、S1~S10、H1~H10	
		TH LEVEL : -2 dBu	-36~+24 dBu	
		RATIO : 4 : 1	1 : 1~inf : 1	
		ATTACK : 100 ms	0~250 ms	
		RELEASE : 100 ms	5~2000 ms	
		GAIN : +1 dB	0.0~12.0 dB	
チャンネルON スイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
フェーダーレベル	全チャンネル	inf	+10 dB~-138 dB、inf	9
PAN*1、BAL*2	全チャンネル	C (センター)	L16~C~R16	13
マトリクスセンド	全チャンネル	マトリクス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	11
		マトリクス1~16 : レベル : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
メインLRアサイン	バス1~16	OFF	OFF、ON	9
モノラル/ステレオバス設定	バス1~16	MONO	MONO、ST	65
AFLスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
MANUALスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	6

※1 モノラルバス設定時

※2 ステレオバス設定時、メインLR

# 仕様

## ■ リバーブ (REV 1、REV 2)

項目	対象チャンネル	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
イコライザー (PEQ)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : ON	OFF、ON	15
		HIGH : Q : 3.0 FREQ : 4.00 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHH 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		HIGH MID : Q : 3.0 FREQ : 1.25 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		LOW MID : Q : 3.0 FREQ : 315 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		LOW : Q : 3.0 FREQ : 125 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHL 20~20000 Hz -15~+15 dB	
リバーブ1	REV 1	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	17
		REVERB TYPE : Hall	Hall、Room、Plate、 Delay、StereoDelay、 DelayRev、StDelayRev	
		Pre Delay : 120 ms	0~240 ms	
		Decay : 50 %	1~99 %	
		Room Size : 48	1~99	
		Hi : 12	1~99	
リバーブ2	REV 2	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	17
		REVERB TYPE : Hall	Hall、Room、Plate、 Delay、StereoDelay、 DelayRev、StDelayRev	
		Pre Delay : 120 ms	0~240 ms	
		Decay : 50 %	1~99 %	
		Room Size : 48	1~99	
		Hi : 12	1~99	
バスセンド	全チャンネル	バス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	10
		バス1~16 : レベル : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
		バス1~16 (ステレオバスのみ) : PAN/BAL : C	L16~C~R16	
		センドマスター : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
マトリクスセンド	全チャンネル	マトリクス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	11
		マトリクス1~16 : レベル : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
		マトリクス1~16 : POST	PRE、POST	
ONスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
フェーダーレベル	全チャンネル	inf	+10 dB~-138 dB、inf	9
BAL	全チャンネル	C (センター)	L16~C~R16	13
PFLスイッチ*1	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
MANUALスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	6
SEND MASTER	全チャンネル	0 dB	+10~-138 dB、inf	10
メインLRアサイン	全チャンネル	ON	OFF、ON	9

\*1 リバーブはセンド/リターンいずれのPFL/AFLスイッチを押した場合でもリターンチャンネルのPFL信号を出力します。



- REV1、2の設定パラメーターは選択したREVERB TYPEごとに以下のものが調整可能です。

REVERB TYPE	設定パラメーター	設定範囲
Hall	Pre Delay	0~240 ms
	Decay	1~99 %
	Room Size	1~99
	Hi	1~99
Room	Pre Delay	0~240 ms
	Decay	1~99 %
	Room Size	1~99
	Hi	1~99
Plate	Pre Delay	0~240 ms
	Decay	1~99 %
	Room Size	1~99
	Hi	1~99
Delay	F.B	1~99 %
	Hi	1~99
	Time	0~2400 ms
StereoDelay	L F.B	1~99 %
	R F.B	1~99 %
	Hi	1~99
	L Time	0~2400 ms
	R Time	0~2400 ms
DelayRev	Pre Delay	0~240 ms
	Rev Decay	1~99 %
	Room Size	1~99
	Rev Hi	1~99
	Echo Hi	1~99
	F.B	1~99 %
	Echo Time	0~2400 ms
	Dly/Rev BAL	99~0~99 %
StDelayRev	Pre Delay	0~240 ms
	L F.B	1~99 %
	R F.B	1~99 %
	Rev Decay	1~99 %
	Room Size	1~99
	Rev Hi	1~99
	Echo Hi	1~99
	L Time	0~2400 ms
	R Time	0~2400 ms
	Dly/Rev BAL	99~0~99 %

# 仕様

## ■ マトリクス

項目	対象チャンネル	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
イコライザー*1 (PEQ)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : ON	OFF、ON	15
		EQ1 : Q : 3.0 FREQ : 63 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHL 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ2 : Q : 3.0 FREQ : 250 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ3 : Q : 3.0 FREQ : 630 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ4 : Q : 3.0 FREQ : 2.50 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ5 : Q : 3.0 FREQ : 125 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ6 : Q : 3.0 FREQ : 500 Hz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ7 : Q : 3.0 FREQ : 2.00 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30 20~20000 Hz -15~+15 dB	
		EQ8 : Q : 3.0 FREQ : 8.00 kHz GAIN : 0 dB	0.3~30、SHH 20~20000 Hz -15~+15 dB	
イコライザー*1 (GEQ)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	15
		GEQ1~31 : FREQ 31ポイント GAIN : 0 dB	-15~+15 dB	
		OUTPUT : GAIN : 0 dB	-15~+15 dB	
RTA	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	9
		HOLDスイッチ : OFF	OFF、ON	
		RTA INPUT CH : IN1	IN1~32	
ダイナミクス (コンプレッサー)	全チャンネル	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	14
		DEPTH : N	N、S1~S10、H1~H10	
		TH LEVEL : -2 dBu	-36~+24 dBu	
		RATIO : 4 : 1	1 : 1~inf : 1	
		ATTACK : 100 ms	0~250 ms	
		RELEASE : 100 ms	5~2000 ms	
GAIN : +1.0 dB	0.0~12.0 dB			
フェーダーレベル	全チャンネル	inf	+10 dB~-138 dB、inf	9
マトリクスミキシング	全チャンネル	メインLR、バス1~16、 トークバック/オシレーター ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	12
		メインLR、バス1~16、 トークバック/オシレーター レベル : 0 dB	+10~-138 dB、inf	
ONスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
AFLスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
MANUALスイッチ	全チャンネル	OFF	OFF、ON	6

\*1 ユーティリティ画面よりGEQ/PEQの切り替え可能

# 仕様

## ■ トークバック/オシレーター

項目	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
ファンタム電源	OFF	OFF、ON	12
インプットトリム	+4 dBu	+4~-60 dBu	12
トークバックONスイッチ	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
トークバックレベル	-10 dB	+10 dB~-138 dB、inf	18
オシレーター選択	OFF	PINK、10 kHz、1 kHz、100 Hz OFF	18
オシレーターレベル	-10 dB	+10 dB~-138 dB、inf	18
PAN	C (センター)	L16~C~R16	13
フェーダーレベル	-10 dB	+10 dB~-138 dB、inf	9、18
PFLスイッチ	OFF	OFF、ON	取扱説明書 基本操作編
バスセンド	バス1~16 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	10
	バス1~16 : ON/OFFスイッチ : 0 dB	+10 dB~-138 dB、inf	
	バス1~16 (ステレオバスのみ) : PAN/BAL : C	L16~C~R16	
メインLRアサイン	OFF	OFF、ON	9

## ■ モニター

項目	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
メーターポジション	PRE	PRE、POST	25
モニター信号MONO MIX	OFF	OFF、ON	25
モニターソース選択	INPUT 13、14 : OFF	OFF、ON	25
	INPUT 15、16 : OFF	OFF、ON	
	MAIN L/R : ON	OFF、ON	
	MONITOR MIX : OFF	OFF、ON	
モニターミックス選択	1~8 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	25
	1~8 : PARAMETER : OFF	OFF、 INPUT13/14、 INPUT15/16、 MAIN L/R、 BUS1/2~BUS15/16、 MTX1/2~MTX15/16	
PFL/AFL SAFE	OFF	OFF、ON	25
モニターレベル	-10 dB	+10~-138 dB、inf	6
PFL/AFL MODE	MIX	MIX、SOLO	25
PFL/AFL MONO MIX	OFF	OFF、ON	25
PFL/AFL レベル	0.0 dB	+10~-138 dB、inf	25
トークバックディママー	LEVEL : -20 dB	0 dB -10 dB -20 dB -30 dB inf	26

# 仕様

## ■ USB RECORD

項目	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
録音レベル	inf	+10~-138 dB、inf	67
再生レベル	inf	+10~-138 dB、inf	
USBスイッチ	OFF	OFF、ON	41
PFLスイッチ	OFF	OFF、ON	41
AFLスイッチ	OFF	OFF、ON	41

## ■ パッチ

項目	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
INPUT PATCH	CH1~16 : Analog1~16 CH17~48 : SLOT1 1~32 TB : OFF	OFF、Analog1~16、 SLOT1 1~32、SLOT2 1~32	70~72
INSERTION	INS1~6 : IN1~6	IN1~32	
	INS1~6 SEND : OFF	OFF、Analog1~16、 SLOT1 1~32、SLOT2 1~32	
	INS1~6 RETURN : OFF	OFF、Analog1~16、 SLOT1 1~32、SLOT2 1~32	
MIX SUBIN	BUS1~16、MAIN L、MAIN R : OFF	OFF、Analog1~16、 SLOT1 1~32、SLOT2 1~32	
OUTPUT PATCH	Analog 1~16 : MTX1~16 SLOT1 1~32 : OFF SLOT2 1~32 : OFF	OFF、MTX1~16、BUS1~16、 MAIN L、MAIN R	
DANTE PATCH INPUT PATCH* <sup>1</sup>	SLOT1 1~32 : OFF SLOT2 1~32 : OFF	#1-OUT1~#1-OUT32 #2-OUT1~#2-OUT32 #3-OUT1~#3-OUT32 #4-OUT1~#4-OUT32	
DANTE PATCH OUTPUT PATCH* <sup>1</sup>	IN1~32 : OFF	SLOT1 1~32、 SLOT2 1~32	
DANTE SETUP	ROUTING CONTROL : DX350	DX350、DANTE CONTROLLER	
	ENCORDING : 32	32、24	
	LATENCY (ms) : 1	0.25、0.5、1、2、5	
	PREFERRED MASTER : OFF (SLOT1) ON (SLOT2)	OFF、ON	
DANTE MOUNT	Call Back (#1~4) : OFF	OFF、ON	
	REMOTE (#1~4) : ON	OFF、ON	
	MUTE (#1~4) : OFF	OFF、ON	

\*<sup>1</sup> DANTE PATCH設定は、パターンリード/ライト、DATA SAVE/LOAD、データクリアの対象外です。

# 仕様

## ■ その他

項目	工場出荷時設定	設定範囲	設定を変更するページ
ミュートグループ	MUTE GROUP1~8: 未登録	INPUT1~48	31
	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	
フェーダーグループ	FADER GROUP1~8: 未登録	INPUT1~48	32
	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	
パターンメモリー	PATTERN MEMORY1~96 : インプット、メインLR、バス、マトリクスの工場出荷設定値	—	28
EQライブラリー	EQ LIB1~16 : インプットチャンネルの工場出荷設定値	—	29
DYNライブラリー	DYN LIB1~16 : インプットチャンネルの工場出荷設定値	—	30
レベルメーターPRE/POST	INPUT : PRE	PRE、POST	23
	OUTPUT : POST		
Auto Mixアサイン	ON/OFFスイッチ (ch 1~16) : OFF	OFF、ON	35
Auto Mix Activeスイッチ	ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	35
OUTPUT DELAY	Analog OUT1~16、SLOT1-1~32、SLOT2-1~32 : ON/OFFスイッチ : OFF	OFF、ON	48
	Analog OUT1~16、SLOT1-1~32、SLOT2-1~32 : 0 ms (時間表記) 0 m (距離表記)	0~300 ms 0~102 m	
DIGITAL GAIN	Analog OUT1~16、SLOT1-1~32、SLOT2-1~32 : 0.0 dB	-24.0~+24.0 dB	

# 付録1 (SYSTEM)

付録1では、「ユーティリティ」画面で [SYSTEM] タブを選択した際に設定できる項目について説明を行います。設定項目はパターンメモリのリード/ライトの対象外です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
01-01	AUDIO CLOCK	SOURCE SELECT	INT SLOT1 SLOT2	SLOT1	システムの基準となるクロック（ワードクロック）をどこから供給するのか設定します。 INT : 本機内部のクロックを使用する SLOTn : カードSLOTから入力されるクロックを使用します。 ※SLOT1、SLOT2はそれぞれカードスロットにDANTE CARDが挿入されている場合のみ選択可能です。 ※この設定を切り替えると、全出力端子の信号がミュートされますので十分注意してください。
01-02		SAMPLING RATE	48 kHz 96 kHz	48 kHz	内部CLOCKのSAMPLING RATEを設定します。 ※この設定を切り替えると、全出力端子の信号がミュートされますので十分注意してください。
01-03	SLOT1	CARD TYPE	DANTE NO CARD	DANTE	SLOT1にDANTE CARDを挿入している場合に「DANTE」設定します。 (本項目はDATAの設定は行わず、表示のみを行います。)
01-04	SLOT2	CARD TYPE	DANTE NO CARD	NO CARD	SLOT2にDANTE CARDを挿入している場合に「DANTE」設定します。 (本項目はDATAの設定は行わず、表示のみを行います。)
01-05	LEVEL METER	PEAK HOLD	OFF 2 s inf	2 s	LEVEL METERで、ピーク値を保持する時間を設定します。 OFF : ピークホールドしない 2 s : 2秒間保持します inf : 電源をOFF/ONするか、本設定を変更するまで保持します。
01-06	MANUAL	SELECT	PTN、 MUTE-G、 FDR-G、 PTN ONLY	PTN、 MUTE-G、 FDR-G	MANUALスイッチをONにしたときに制御対象外とする機能を選択します。 PTN、MUTE-G、FDR-G : パターンメモリーリード、MUTE GROUP、 FADER GROUPを制御対象外とします。 PTN ONLY : パターンメモリーのみを制御対象外とします。
01-07	SOFTWARE *表示のみ	VERSION			ソフトウェアバージョンを表示します。
01-08	FACTORY RESET	SELECT	DO NOT EXECUTE、 EXECUTE		データの初期化を行います。 EXECUTEを選択し、ENTERボタンをタッチするとデータの初期化を実施します。



- No.01-02にてSAMPLING RATEを48 kHzから96 kHzに切り替えを行う際、以下のアラートを表示します。



[OK] をタッチするとSAMPLING RATEは96 kHzに変更され、ダイナミックノッチ機能が使用できなくなります。[Cancel] をタッチするとSAMPLING RATEの切り替えが行われず、48 kHzのままになります。  
※SMPLING RATE以外の変更箇所は [Cancel] を選択した場合でも実行されます。

# 付録2 (PANEL)

付録2では、「ユーティリティ」画面で [PANEL] タブを選択した際に設定できる項目について説明を行います。  
設定項目は一部を除きパターンメモリーのリード/ライトの対象外です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
02-01	LCD	AUTO DISP	DISABLE ENABLE	DISABLE	[ACC] スイッチ以外の操作で、画面に表示するチャンネルを変更するかどうかを設定します。 DISABLE : [ACC] スイッチ操作のみで画面に表示するチャンネルを選択します。 ENABLE : フェーダー操作、CHスイッチ操作、PFL/AFLスイッチ操作によっても、画面に表示するチャンネルを選択することができます。
02-02		AUTO HOME DISPLAY	OFF 3min 5min	OFF	しばらく本機の操作が行われなかった場合の画面自動制御の有無、および画面自動制御が行われるまでの時間を設定します。 OFF : 画面自動制御は行われません。 3min : 3分経過後にホーム画面を表示します。 5min : 5分経過後にホーム画面を表示します。
02-03		HOME DISPLAY	Ch-Cont Multi-View Meter Monitor	Meter	しばらく本機の操作が行われなかった場合の画面自動制御で表示する画面 (ホーム画面) の種類を設定します。AUTO HOME DISPLAYがOFFの場合は、この設定は無効になります。 Ch-Cont : [ACC] スイッチで選択されているチャンネルを「シングルチャンネル」画面に表示します。 Multi-View: 「マルチチャンネル」画面に [ACC] スイッチで選択されているチャンネルを含む情報を表示します。[ACC] スイッチでTB/OSC、MONITORが選択されている場合は、最後に表示したページを表示します。 Meter : 「メーター」画面を表示します。 Monitor : 「モニター」画面を表示します。
02-04		DELAY UNIT	Meter Second	Second	ディレイの遅延量表示の単位系を設定します。 Meter : メートル単位 Second : 秒 (ミリ秒) 単位 ※本機では、基本的な単位としてミリ秒 [ms] を使用し、他の単位への変換は以下の式により簡易的に行っています。 [メートル (m)] = 0.34 (m/ms) × [ミリ秒 (ms)]

## 付録2 (PANEL)

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
02-05	ACC SWITCH	MONO/ST	DISABLE ENABLE	ENABLE	隣接する奇数偶数チャンネルの [ACC] スイッチの押下によるMONOチャンネル、STチャンネルの切り替え機能の有効/無効を設定します。
02-06		INPUT PAIR MODE	ST FADER LINK	ST	インプットチャンネル (INPUT1-32) において、モノラルチャンネルからステレオチャンネルへの切り替え時に、連動するパラメーターを設定します。 ST : INPUT、+48V、PH除く、全パラメーターが連動します。 FADER LINK : フェーダーレベルとチャンネル [ON] スイッチのみが連動します。 本設定項目は、パターンメモリーの保存対象です。*1
02-07		PC LINK	DISABLE ENABLE	ENABLE	[ACC] スイッチの押下によるチャンネル選択が本体とリモートソフト (PC用、iPad用) で連動するか設定します。 ENABLE : 本体とリモコン機器の選択チャンネルが連動します。 任意の端末でチャンネルを選択すると、他の端末の選択チャンネルが連動しません。 DISABLE : 本体とリモコン機器の選択チャンネルが連動しません。
02-08	DIMMER ON	PANEL	1~8	3	DIMMER ON時の各部の輝度を設定します。 DIMMER ON : PANEL : コンソールの各LEDの輝度を設定します。 DIMMER ON : LCD : LCD部の輝度 (バックライト強度) を設定します。 DIMMER ON : LIGHT : ランプの輝度を設定します。
02-09		LCD	1~8	3	
02-10		LIGHT	1~8	3	
02-11	DIMMER OFF	PANEL DIMMER	1~8	6	DIMMER OFF時の各部の輝度を設定します。 DIMMER OFF : PANEL : コンソールの各LEDの輝度を設定します。 DIMMER OFF : LCD : LCD部の輝度 (バックライト強度) を設定します。 DIMMER OFF : LIGHT : ランプの輝度を設定します。
02-12		LCD DIMMER	1~8	6	
02-13		LIGHT DIMMER	1~8	6	

\*1 インプットチャンネル (INPUT33-48) はST固定です。

# 付録3 (USER)

付録3では、「ユーティリティ」画面で [USER] タブを選択した際に設定できる項目について説明を行います。  
設定項目はパターンメモリのリード/ライトの対象外です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
03-01	ADMIN	USER CHANGE	UTILITY+CH 1 ACC、 … UTILITY+CH 16 ACC、 UTILITY+MAIN ACC	UTILITY + CH16 ACC	ユーザーレベルをADMINに変更するための操作を設定します。 [UTILITY] スイッチと本項目で設定されたチャンネルの [ACC] スイッチの同時押しの組み合わせ操作で、ユーザーレベルをADMINに切り替えます。*1
03-02	ENGINEER	USER CHANGE	OFF UTILITY+CH 1 ACC、 … UTILITY+CH 16 ACC、 UTILITY+MAIN ACC	OFF	ユーザーレベルをENGINEERに変更するための操作を設定します。 [UTILITY] スイッチと本項目で設定されたチャンネルの [ACC] スイッチの同時押しの組み合わせ操作で、ユーザーレベルを切り替えます。*2 *ユーザーレベルがENGINEERのときはメッセージ表示部にENGINEERと表示されます。
03-03		FADER & MONITOR PANEL	DISABLE ENABLE	ENABLE	チャンネルフェーダーモジュール、フェーダーレイヤー操作部、モニターセクション、センス&マスター/アサインブルキー部における操作および画面での内容確認に制限をかけます。*1 *3
03-04		CONTROL PANEL	DISABLE ENABLE	ENABLE	「シングルチャンネル」画面、 「マルチチャンネル」画面、 「メーター」画面、 「モニター」画面、 「オートミックス」画面、 「パッチ」画面、 「カスタムレイヤー」画面、 「USBレコード」画面 および、[EQ LIB] / [DYN LIB] タブを選択した状態の「ユーティリティ画面」の表示/操作に制限をかけます。*1 *3 * FADER & MONITOR PANELがDISABLEの場合、本項目をENABLEにすることはできません。
03-05		PATTERN MEMORY	DISABLE ENABLE	ENABLE	[PATTERN] タブを選択した状態の「ユーティリティ」画面の表示/操作に制限をかけます。*1 *3
03-06		MUTE GROUP & FADER GROUP	DISABLE ENABLE	ENABLE	[MUTE GROUP] / [FADER GROUP] タブを選択した状態の「ユーティリティ」画面の表示/操作に制限をかけます。*1 *3
03-07		SETUP	DISABLE ENABLE	DISABLE	「ユーティリティ」画面のユーティリティ機能部/システム設定/オプション設定部の操作に制限をかけます。*1 *3
03-08		REMOTE CONTROL	DISABLE ENABLE	ENABLE	PCソフト、iPadアプリの接続に制限をかけます。 *1 *3

## 付録3 (USER)

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
03-09	OPERATOR	USER CHANGE	OFF UTILITY+CH 1 [ACC]、 ∴ UTILITY+CH 16 [ACC]、 UTILITY+MAIN [ACC]	OFF	ユーザーレベルをOPERATORに変更するための操作を設定します。 [UTILITY] スイッチと本項目で設定されたチャンネルの[ACC]スイッチの同時押しの組み合わせ操作で、ユーザーレベルを切り替えます。 <sup>※2</sup> ※ユーザーレベルがOPERATORのときはメッセージ表示部にOPERATORと表示されます。
03-10		FADER & MONITOR PANEL	DISABLE ENABLE	ENABLE	チャンネルフェーダーモジュール、フェーダーレイヤー操作部、モニターセクションにおける操作および画面での内容確認に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup>
03-11		CONTROL PANEL	DISABLE ENABLE	ENABLE	「シングルチャンネル」画面、 「マルチチャンネル」画面、 「メーター」画面、 「モニター」画面、 「オートミックス」画面、 「パッチ」画面、 「カスタムレイヤー」画面、 「USBレコード」画面 および、[EQ LIB] / [DYN LIB] タブを選択した状態の「ユーティリティ画面」の表示/操作に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup> ※ FADER & MONITOR PANELがDISABLEの場合、本項目をENABLEにすることはできません。
03-12		PATTERN MEMORY	DISABLE ENABLE	DISABLE	[PATTERN] タブを選択した状態の「ユーティリティ画面」の表示/操作に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup>
03-13		MUTE & FADER GROUP	DISABLE ENABLE	DISABLE	[MUTE GROUP] / [FADER GROUP] タブを選択した状態の「ユーティリティ画面」の表示/操作に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup>
03-14		SETUP	DISABLE ENABLE	DISABLE	「ユーティリティ画面」のユーティリティ機能部/システム設定/オプション設定部の操作に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup>
03-15		REMOTE CONTROL	DISABLE ENABLE	ENABLE	リモートソフト (PC用、iPad用) の接続に制限をかけます。 <sup>※2 ※3</sup>

※1 現在のユーザーレベルがADMINの場合は、設定を確認・変更することが可能。

※2 現在のユーザーレベルがADMIN、ENGINEERの場合は、設定を確認・変更することが可能。

※3 ディスプレイコントロール部は常に使用可能。

# 付録4 (NETWORK)

付録4では、「ユーティリティ」画面で [NETWORK] タブを選択した際に設定できる項目について説明を行います。  
設定項目はパターンメモリのリード/ライトの対象外です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
05-01	NETWORK	REMOTE	DISABLE、 CONTROL、 MONITOR ONLY	CONTROL	PCソフト、iPadアプリからの制御 DISABLE : PCソフト、iPadアプリからの 制御を禁止します。(通信ポー トを閉じる) CONTROL : PCソフト、iPadアプリからの 制御を許可します。 MONITOR ONLY : PCソフト、iPadアプリからの 閲覧のみを許可します。
05-02		MAC ADDRESS *表示のみ	**_**_**_**_**_**	**_**_**_**_**_** **	ミキサーのMACアドレスを表示します。 ※DATA SAVE/LOAD、およびデータクリアは対象外 です。
05-03		IP ADDRESS *表示のみ	***.***.***.***	192.168.1.10	ミキサーのIPアドレスを表示します。 ※IPアドレスの設定は、PCソフト、iPadアプリから行 います。 ※DATA SAVE/LOAD、およびデータクリアは対象外 です。
05-04		SUBNET MASK *表示のみ	***.***.***.***	255.255.255.0	ミキサーのサブネットマスクを表示します。 ※サブネットマスクの設定は、PCソフト、iPadアプリ から行います。 ※DATA SAVE/LOAD、およびデータクリアは対象外 です。

# 付録5 (AUDIO)

付録5では、「ユーティリティ」画面で [AUDIO] タブを選択した際に設定できる項目について説明を行います。  
設定項目はパターンメモリのリード/ライトの対象です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	初期値	機能
06-01	D-NOTCH: 48 kHz	RESPONSE	FAST、SLOW	FAST	DYNAMIC NOTCHの反応速度を設定します。
06-02	D-NOTCH: 48 kHz	SENSE	HIGH、MID、 LOW	MID	DYNAMIC NOTCHの感度を設定します。
06-03	D-NOTCH: 48 kHz	DN1	OFF、 IN1、 IN2、 IN3 : IN16	IN1	DYNAMIC NOTCHを有効にするCHを選択します。 選択されたCHのみにDYNAMIC NOTCHを表示しま す。
06-04		DN2		IN2	
06-05		DN3		IN3	
06-06		DN4		IN4	
06-07		DN5		IN5	
06-08		DN6		IN6	
06-09		DN7		IN7	
06-10		DN8		IN8	
06-11		DN9	OFF、 CH17、 CH18、 CH19 : CH32	OFF	
06-12		DN10			
06-13		DN11			
06-14		DN12			
06-15		DN13			
06-16		DN14			
06-17		DN15			
06-18		DN16			
06-19	PEQ/ GEQ	MATRIX1	PEQ、GEQ	PEQ	マトリクスチャンネルのイコライザーのタイプを変更 します。
06-20		MATRIX2			
06-21		MATRIX3			
06-22		MATRIX4			
06-23		MATRIX5			
06-24		MATRIX6			
06-25		MATRIX7			
06-26		MATRIX8			
06-27		MATRIX9			
06-28		MATRIX10			
06-29		MATRIX11			
06-30		MATRIX12			
06-31		MATRIX13			
06-32		MATRIX14			
06-33		MATRIX15			
06-34		MATRIX16			

# 付録6 (ASSIGNABLE KEY)

付録6では、アサインブルキーにアサインできる機能の説明を行います。アサインブルキーへの機能の割り当ては [ASSIGNABLE KEY] タブを選択した状態の「ユーティリティー」画面から行えます。設定項目はパターンメモリのリード/ライトの対象外です。

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	機能	
07-1 No.1~ No.16	No Assign	—	—	機能割り当てなし	
	AutoMix	—	—	「オートミックス」画面に遷移します。	
	OUTPUT DLY/G	Delay/Gain TAB	OUTPUT、SLOT1、SLOT2	DATAにて設定したタブを選択した状態で「アウトプットディレイ/ゲイン」画面を表示します。	
	CUSTOM LAYER	LAYER TAB	CUSTOM LAYER1~CUSTOM LAYER4	DATAにて設定したタブを選択した状態で「カスタムレイヤー」画面を表示します。	
	KEY SETTING	—	—	[ASSIGNABLE KEY SETTING] タブを選択した状態の「ユーティリティー」画面に遷移します。	
	USB RECORD	USB TAB	USB REC/PLAY、DATA SAVE/LOAD	DATAにて設定したタブを選択した状態で「USBレコード」画面を表示します。	
	PATCH	PATCH TAB	INPUT PATCH、INSERTION、MIX SUBIN、OUT Analog1-16、OUT SLOT1 1-32、OUT SLOT2 1-32	DATAにて設定したタブを選択した状態で「パッチ」画面を表示します。	
	DANTE PATCH	DANTE PATCH TAB	IN SLOT1 1-32、IN SLOT2 1-32、OUT SLOT1 1-32、OUT SLOT2 1-32	DATAにて設定したタブを選択した状態でDANTE PATCH画面を表示します。	
			DANTE SETUP	—	「DANTEセットアップ」画面の表示を行います。
			DANTE MOUNT	—	「DANTEマウント」画面の表示を行います。
	MUTE GROUP	MUTE GROUP TAB	—	[MUTE GROUP] タブを選択した状態の「ユーティリティー」画面の表示を行います。	
		MUTE GROUP SW	MUTE GROUP1-8	DATAで設定したミュートグループのON/OFFを行います。*1	
	FADER GROUP	FADER GROUP TAB	—	[FADER GROUP] タブを選択した状態の「ユーティリティー」画面の表示を行います。	
	CH SELECT	NEXT	—	共通画面の [NEXT] スイッチと同じ動作を行います。	
		PREV	—	共通画面の [PREV] スイッチと同じ動作を行います。	
		CH INPUT	INPUT1-48	DATAで設定したチャンネルの表示を行います。	
BUS		BUS1-16			
REV		REV1、REV2			
MATRIX	MATRIX1-16				

## 付録6 (ASSIGNABLE KEY)

No.	FUNCTION	PARAMETER	DATA	機能
	MONITOR ON	SELECT MONITOR	MAIN L/R、 INPUT13/14、 INPUT15/16、 MONITOR MIX	DATAで設定した [MONITOR SOURCE] を選択します。(この項目にて選択したものが [MONITOR SOURCE] として選択されていないときのみアサインブルキーが有効になります。)
	TAP TEMPO	—	—	REVERB1、2のディレイタイムを設定する機能です。繰り返しタップを行った周期がTime、L Time、R Time、Echo Timeの設定値に反映されます。*2*3
	METER	PEAK HOLD ON	—	「ユーティリティ」画面 [PANEL] タブ内の「01-05 LEVEL METER」の設定値を「OFF」→「2s」→「inf」の順に切り替えます。
	USB REC/PLAY	PLAY	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [▶] スイッチと同様の動作を行います。*4
		PAUSE	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [⏸] スイッチと同様の動作を行います。*4
		STOP	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [■] スイッチと同様の動作を行います。*4
		REC	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [●] スイッチと同様の動作を行います。*4
		REC&PLAY	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [●] スイッチと [▶] スイッチを両方押したときの動作となり、録音を開始します。*4
		PREV	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [◀◀] スイッチと同様の動作を行います。*4*5
		NEXT	—	「USBレコード」画面の録音/再生操作部の [▶▶] スイッチと同様の動作を行います。*4*5

※1 設定されたアサインブルキーの点灯状態は「ユーティリティ」画面のミュートグループ実行スイッチの点灯状態と一致します。

※2 R TimeはL Timeの2倍の値が設定されます。

※3 設定されたアサインブルキーは設定されたディレイタイムの周期で点滅します。また、ディレイタイムのパラメーターを持たないエフェクトを選択中は消灯します。

※4 設定されたアサインブルキーの点灯状態は「USB録音/再生」画面の録音/再生操作部の各スイッチと一致します。

※5 長押し操作には対応していません。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バナハ ヨイフ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）  
※携帯電話からもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは [https://biz.panasonic.com/jp-ja/support\\_cs-contact](https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact)

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

#### 【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

## パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号